

2022 年 4 月

# 食料安全保障月報 (第 10 号)



令和 4 年 4 月 28 日

農林水産省

# 食料安全保障月報について

## 1 意義

我が国は食料の大半を海外に依存していることから、主食や飼料原料となる主要穀物(コメ、小麦、とうもろこし)及び大豆を中心に、その安定供給に向けて、世界の需給や価格動向を把握し、情報提供する目的で作成しています。

## 2 対象者

本月報は、2021年6月まで発行していた海外食料需給レポートに食料安全保障の観点から注目している事項を適宜追加する形で、国民のみなさま、特に、原料の大半を海外に依存する食品加工業者及び飼料製造業者等の方々に対し、安定的に原料調達を行う上での判断材料を提供する観点で作成しています。

## 3 重点記載事項

我が国が主に輸入している国や代替供給が可能な国、それに加えて我が国と輸入が競合する国に関し、国際相場や需給に影響を与える情報（生育状況や国内需要、貿易動向、価格、関連政策等）について重点的に記載しています。

## 4 公表頻度

月1回、月末を目処に公表します。

## 2022 年 4 月食料安全保障月報（第 10 号）

### 目 次

#### 概要編

|      |                              |    |
|------|------------------------------|----|
| I    | 2022 年 4 月の主な動き              | 1  |
| II   | 2022 年 4 月の穀物等の国際価格の動向       | 3  |
| III  | 2021/22 年度の穀物需給（予測）のポイント     | 3  |
| IV   | 2021/22 年度の油糧種子需給（予測）のポイント   | 3  |
| V    | 今月の注目情報 1 ウクライナの作付けと輸出動向     | 4  |
| VI   | 今月の注目情報 2 ウクライナ情勢を受けた米国の作付動向 | 5  |
| (資料) |                              |    |
| 1    | 穀物等の国際価格の動向                  | 8  |
| 2    | 穀物の生産量、消費量、期末在庫率の推移          | 9  |
| 3    | 穀物等の期末在庫率の推移（穀物全体、品目別）       | 10 |
| 4    | 加工食品の主な輸入原材料（穀物等を除く）の状況      | 12 |
| 5    | 食品小売価格の動向                    | 16 |
| 6    | 海外の畜産物の需給動向（A L I C 提供）      | 17 |
| 7    | FAO 食料価格指数の推移                | 19 |

#### 品目別需給編

##### I 穀物

|                                         |        |    |
|-----------------------------------------|--------|----|
| 1                                       | 小麦     | 1  |
| <米国> 2021/22 年度の輸出量は過去 6 年で最低水準         |        |    |
| <カナダ> 2021/22 年度期末在庫は減産により過去最低の見通し      |        |    |
| <豪州> 2021/22 年度の実産量、輸出量は史上最高の見通し        |        |    |
| <EU27+英国> ウクライナ産とうもろこしの代替として飼料用小麦需要が増加  |        |    |
| <中国> 2021/22 年度の冬小麦の作柄は休眠期後に天候に恵まれ改善    |        |    |
| <ロシア> 輸出の継続から輸出量は 1.0 百万トン上方修正          |        |    |
| <ウクライナ> ロシアの侵攻により穀物の播種面積は減少             |        |    |
| 2                                       | とうもろこし | 9  |
| <米国> 生産量史上第 2 位、エタノール用需要増、輸出減の見通し       |        |    |
| <ブラジル> 冬とうもろこしの作付面積拡大により、生産量史上最高の見通し    |        |    |
| <アルゼンチン> 高温・乾燥も、生産量史上最高、輸出税は継続          |        |    |
| <中国> 生産量史上最高、消費量も史上最高の見通し               |        |    |
| <ウクライナ> 侵攻による黒海の港閉鎖の影響等で輸出量 450 万トン下方修正 |        |    |
| 3                                       | コメ     | 15 |
| <米国> カリフォルニア州の作付面積が 1983/84 年度以来の低水準に   |        |    |
| <インド> コメ相場が同国の小麦・とうもろこし相場を下回る           |        |    |
| <中国> コメの飼料向け需要が増加                       |        |    |
| <タイ> アフリカ・中東向け輸出が好調により輸出量上方修正           |        |    |

＜ベトナム＞冬春作の収穫が進展

## II 油糧種子

大豆・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 21

＜米国＞ 生産量は史上最高も、輸出減の見通し

＜ブラジル＞南部の高温・乾燥で単収下方修正、生産量は減産見通し

＜アルゼンチン＞高温・乾燥で生産量は減産見通し、輸出税は継続

＜中国＞ 減産見通し、消費量・輸入量は下方修正

＜カナダ＞ 西部での高温乾燥の影響で減産見通し

## 特別分析トピック

米国、EU、中国の農業政策の概要

### 【利用上の注意】

表紙写真：

ウクライナのトラクターと播種用トラクター機械（4月4日撮影）

(概要編)

## I 2022 年 4 月の主な動き

### 主要穀物等の需給・相場等について

主要穀物等の 2021/22 年度の作況については、北半球はほぼ確定したが、収穫が行われている南半球は今後も変動する可能性。

品目別にみると、4 月の米国農務省（USDA）の需給報告では、小麦については、生産量は史上最高となるものの、ロシアのウクライナ侵攻に関連し、ウクライナの小麦輸出量が下方修正されたこともあり、国際相場は過去最高を更新する等、高い水準の中で不安定な動きで推移しており、今後も注視が必要。

一方、とうもろこしについては、ウクライナの輸出量が下方修正されたこと、大豆については、南米の乾燥の影響で、生産量が 4 か月連続で下方修正されたことで、いずれも期末在庫は依然としてタイトな状況であり、引き続き注視していく必要。

FAO（国連食糧農業機関）が公表している食料価格指数（最新値：3 月）については、主に穀物（145→170）、植物油（202→249）及び肉類（114→120）が上昇した影響により、2 月より上昇（141→159）し、1990 年以来過去最高となった。

海上運賃について、バルチック海運指数（穀物輸送に主に使用される外航ばら積み船の運賃指数）は、昨年 10 月に直近 5 年間の最高値を記録して以降は下落傾向で推移した後、直近では上昇傾向。

### 早期注意段階の継続について

現状において、我が国の食料の安定供給に懸念は生じていないものの、上記の状況を踏まえ、2021 年 7 月から適用を開始した、緊急事態食料安全保障指針に基づく「早期注意段階」については、4 月も引き続き適用。

【参考】早期注意段階について（農林水産省 HP）

<https://www.maff.go.jp/j/zyukyu/anpo/soukichuui.html>



## 1 ウクライナの春作物の作付状況

ウクライナ農業政策省の4月1日の予測によれば、2022/23年度の冬作物は770万ヘクタールの作付けがされており、そのうち650万ヘクタールは冬小麦である。また、春播き作物の作付予定面積は、ロシアによる侵攻の影響もあり、同省の21日見通しでは前年度より17%減の1,404万ヘクタールの見通し。作付けは予定面積の7割程度進展している。

同省の15日のプレスによれば、国内の穀物需要は年間500から700万トンで国内需要は満たし、輸出も可能であり、3月時点よりは状況は改善しているとしている。

ゼレンスキー大統領によれば、穀物倉庫が破壊されており、その他農業インフラにも被害が出ており、穀物の保管や輸出に支障が出ているとしている。また、肥料や農薬など農業資材が不足しており、今後収穫される2022/23年度産の単収にも影響するといわれている。

一方、現地における農業インフラ被害状況やその作付けの影響については様々な情報がある。例えば、ヴィソツキー農業政策食料次官は4/14の現地メディアにおいて、穀物エレベーターで破壊されたのは全体の2~3%と述べている。また、同次官は播種面積においても、穀倉地帯で地雷が全面的に除去できれば80%まで可能と述べている。

## 2 ブラジルの大豆生産量は下方修正もとうもろこし生産量は上方修正

ブラジルの食料供給公社（CONAB）は4月7日の穀物レポートで、2021/22年度の穀物(大豆等油糧種子含む)の作付面積は、前年度(69.0百万ヘクタール)より4.4%増の72.9百万ヘクタール。生産量見通しは、前年度より5.4%、1,380万トン増の2億6,930万トンに上方修正された(3月予測2億6,570万トン)。

収穫が終盤を迎えている大豆の生産量は、南部の乾燥により3月見通しより0.4百万トン下方修正され、1億2,240百万トン(対前年度比11.4%減)。

一方、収穫期を迎えた夏とうもろこしの生産量は60百万トン上方修正され2,490万トンで対前年度比でわずかに増加。大豆収穫後に作付され、生育期を迎えた冬とうもろこしは生産量は270万トン上方修正され、9,070百万トンとなり、干ばつや霜害の被害のあった前年度より大幅増の見通し。とうもろこし計で1億1,560万トン(対前年度比32.7%増)で史上最高の見通し。

## 3 インドのコメ・小麦生産・輸出史上最高

USDAによれば2021/22年産のインドのコメ・小麦の生産量は、天候に恵まれ、6年連続増産でコメ1億2,900万トン、小麦1億959万トンで史上最高の見通し。

コメの輸出については、豊富な供給余力を背景に、他のアジア諸国と比較して価格競争力があるため、年々輸出量を増加させ、2021/22年度は史上最高の2,100万トンとなる見通し。世界のコメ貿易の4割のシェアを占めている。本年2月以降、小麦の価格がコメの価格を上回り、飼料穀物の価格も高騰していることから、中国やベトナムなどが安価なインド産の碎米を飼料向けに輸入するケースも見られる。

小麦の輸出についても、増産に伴い輸出量は850万トンと史上最高の見通し。2月以降、ウクライナ情勢の緊迫化に伴い、エジプトなど従来ロシアやウクライナから輸入していた国がインド産の手当てを進めている。

## Ⅱ 2022 年 4 月の穀物等の国際価格の動向

小麦は、3月末、360ドル/トン台後半で推移。4月に入り、ロシアのウクライナ侵攻による世界的な小麦の供給混乱の懸念や、冬小麦の主産地の米国プレーンズの乾燥による作柄への影響懸念等から410ドル/トン台前半まで上昇したものの、米国の低調な輸出需要等から値を下げ、4月下旬現在、390ドル/トン台前半で推移。

とうもろこしは、3月末、290ドル/トン台半ばで推移。4月に入り、3月末発表のUSDA作付意向面積調査で市場予想を下回ったことや米国中西部の低温多湿による作付けの遅れ、ロシアのウクライナ侵攻の深刻化、原油価格の高止まり等から値を上げ、4月下旬現在、310ドル/トン台前半で推移。

コメは、3月末、440ドル/トン台前半で推移。バーツ安の一方、サブサハラアフリカの需要増により相殺され、ほぼ横ばいで推移し、4月下旬現在も440ドル/トン台前半で推移。

大豆は、3月末、590ドル/トン台半ばで推移。4月に入り、3月末発表のUSDA作付意向面積調査で市場予想を上回り、史上最高の作付予想となったことなどから一時値を下げる場面はあったものの、ラニーニャ現象に伴うブラジルの高温・乾燥による減産や米国の輸出が中国向けを中心に好調なペースを維持していること、ロシアのウクライナ侵攻の深刻化やインドネシアのパーム油の輸出規制等による植物油価格全体の上昇等から値を上げ、4月下旬現在、630ドル/トン前後で推移。

(注) 小麦、とうもろこし、大豆はシカゴ相場（期近物）、米はタイ国家貿易委員会価格

## Ⅲ 2021/22 年度の穀物需給（予測）のポイント

世界の穀物全体の生産量は、前月から 190 万トン上方修正され 27.9 億トン。消費量は、前月から 300 万トン上方修正され 27.9 億トン となり、生産量が消費量を下回る見込み。

また、期末在庫率は前年度を下回り 28.5%となる見込み（資料 2 参照）。

生産量は、前月予測から、小麦、とうもろこしで上方修正、コメで下方修正され、穀物全体で上方修正され 27.9 億トンの見込み。

消費量は、前月予測から、小麦、とうもろこし、コメで上方修正され、穀物全体で上方修正され 27.9 億トンの見込み。

貿易量は、前月予測から、小麦、とうもろこしで下方修正、コメで上方修正され、5.0 億トンの見込み。

期末在庫量は、8.0 億トンと前月予測から下方修正、期末在庫率は前月から下方修正された。

(注：数値は 4 月の USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」による)

## Ⅳ 2021/22 年度の油糧種子需給（予測）のポイント

油糧種子全体の生産量は前年度を下回り 6.0 億トン。消費量は前年度を上回り 6.1 億トン となり、生産量が消費量を下回る見込み。

なお、期末在庫率は前年度を下回り、17.5 となる見込み。

(注：数値は 4 月の USDA「Oilseeds : World Markets and Trade」による)

## V 今月の注目情報 1：ウクライナの作付けと輸出動向

2月24日にロシアのウクライナ侵攻が始まったが、4月に入っても侵攻が続いている。ウクライナの穀物等の作付けや輸出については大きく影響を受けるとみられている。現時点の状況をまとめた。

### 1 2022/23 年度の作付状況

ウクライナの春の作付けについては、ロシアの侵略の影響もあり、ウクライナ農業政策省の4月1日の報告によれば、春播き作物の作付予定面積の合計は、対前年比約3.3百万ヘクタール減の13.7百万haとであった。しかし、4月7日時点の作付けは、春小麦が11.4万ヘクタール、とうもろこしは1.4万ヘクタールで前年を大幅に上回るペースで作業が進んだ。

4月21日時点の同省の報告では、春作物のおおむね7割の作付けが終了し、作付予定面積も対前年度比2.5百万ヘクタール減の14.4百万ヘクタールに上方修正された。

なお、春の作付けに関する戦争の影響として、戦況の長期化による農地も含めた多くの土地での地雷敷設、港湾の閉鎖や輸送インフラの破壊による物流の混乱、営農に必要な資金や、種子、肥料、燃料などの資材の調達が困難となっていることが挙げられる。一方、現地における農業インフラ被害状況やその作付けの影響については様々な情報がある。例えば、ヴィソツキー農業政策食料次官は4/14の現地メディアにおいて、穀物エレベーターで破壊されたのは全体の2~3%と述べている。また、同次官は播種面積においても、悪くても予定面積の70%は達成できる見込みであり、穀倉地帯で地雷が全面的に除去できれば80%まで可能と述べている。

なお、前年作付けされた冬作物は7.7百万ヘクタール作付済み。うち、小麦は6.5百万ヘクタール、大麦1.0百万ヘクタール、ライ麦0.2百万ヘクタールとなっている。

### 2 穀物の輸出状況

ウクライナの穀物については、同省によれば、2021/22年度は小麦やとうもろこしなどの穀物、ひまわりなどの油糧種子合計で1億600万トンの史上最高の豊作となった。しかし、本年2月以降の輸出については、ロシアの侵攻により従来の黒海沿いのオデッサ港やミコライエフ港からの輸出ができないため、3月以降、鉄道経由で他のEU諸国へ運び輸出を試みているが、ウクライナとEUの間の鉄道の軌道幅が異なるなど、輸出能力には限界がある状況となっている。

USDA(米国農務省)によれば、2021/22年度の小麦の輸出見通しについては、戦争以前の2月時点の2,400万トンから3~4月で計500万トン(約20%)下方修正され1,900万トンの見通し。また、同年度とうもろこしについては、2月時点の3,350万トンから1,050万トン(約30%)下方修正され2,300万トンとなる見通し。このうち1,700万トンはすでに2月までに輸出されているとみられる。

ウクライナ政府は、ロシアの侵攻を受け、小麦やとうもろこしについては輸出許可制を導入したが、とうもろこしについては、その後解除された。

(小麦・とうもろこしについては品目別需給編を参照)

## Ⅵ 今月の注目情報 2：ウクライナ情勢を受けた米国の作付動向

3月31日に米国の作付意向調査結果が公表され、3月に価格が史上最高値を更新した小麦の面積は増加、大豆の面積も増加し史上最高となった。一方、肥料価格の高騰を受け、とうもろこしの面積は減少となった。ロシアのウクライナ攻撃が継続し、穀物価格が不安定な動きを見せる中、米国の作付け、貿易状況についてまとめた

### 1 米国の作付意向調査結果

3月に行われた米国の作付意向調査で、ロシアのウクライナ侵攻の中、3月7日には、シカゴ相場が史上最高値をつけた小麦については作付面積が増加した。また、大豆も増加したが、とうもろこしは減少し、4年ぶりに大豆に抜かれた。

#### (1) 小麦

小麦については、前年度より1.4%増の1,916万ヘクタールとなった。しかし、1919年の調査開始以来5番目に低い水準となっている。内訳をみると、デュラム小麦は需給の逼迫感なども背景にあり17%増加し77万ヘクタールとなったものの、その他の春小麦は2%減の453万ヘクタールとなった。また、冬小麦は1月時点の見通しが下方修正されたが、2%増の1,385万ヘクタールとなった。

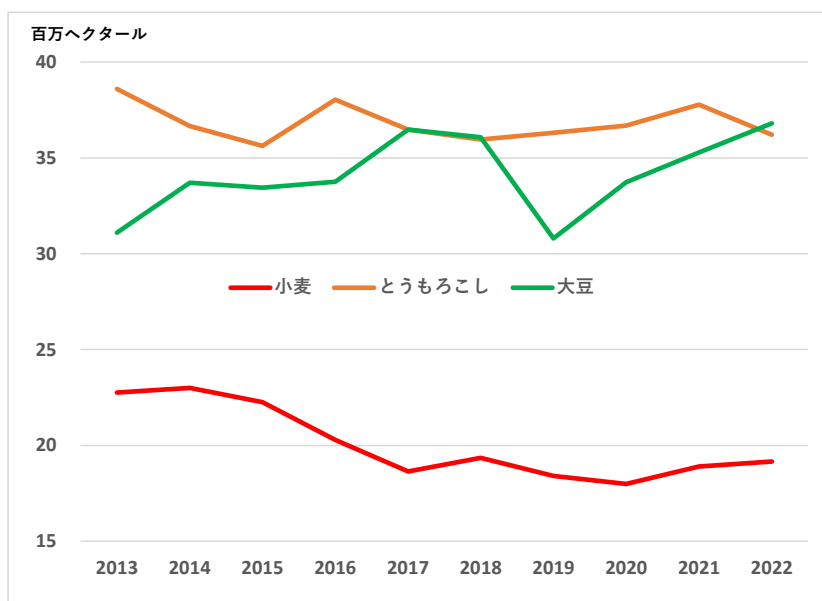
#### (2) 大豆

大豆については、前年度より4.3%増で史上最高の3,681万ヘクタールとなった。大豆はとうもろこしと比べて肥料投入量が少ないことや、ブラジルをはじめとする南米の大豆生産量の見通しがラニーニャ現象による高温・乾燥の影響で大きく下方修正されたことが背景にあるとみられる。市場予想を上回り、大豆相場も一時下落した。

#### (3) とうもろこし

一方、大豆や小麦と比べて肥料投入量が多いといわれるとうもろこしについては、肥料価格の高騰により投入コスト増の懸念から前年産より4.1%減の3,622万ヘクタールとなり、大豆に抜かれた。市場予想を下回り、とうもろこし相場は上昇した。

図1 米国の過去10年のとうもろこし、大豆、小麦の作付面積（2022年は意向調査）の推移



出典：米国農務省 作付意向調査

表1：2022年の作付意向調査結果

| 品目     | 2020  | 2021  | 2022  | 対前年比   |
|--------|-------|-------|-------|--------|
| 大豆     | 3,373 | 3,529 | 3,681 | ▲ 4.3  |
| とうもろこし | 3,669 | 3,778 | 3,622 | ▲ 4.1  |
| 小麦     | 1,799 | 1,890 | 1,916 | ▲ 1.4  |
| 冬小麦    | 1,232 | 1,362 | 1,385 | ▲ 1.7  |
| その他春小麦 | 498   | 462   | 453   | ▲ 1.9  |
| デュラム   | 68    | 66    | 77    | ▲ 17.1 |
| 綿花     | 489   | 454   | 495   | ▲ 9.0  |
| コメ     | 134   | 102   | 99    | ▲ 3.2  |
| 長粒種    | 94    | 80    | 79    | ▲ 1.4  |
| 中粒種    | 27    | 21    | 20    | ▲ 8.2  |
| 短粒種    | 2     | 1     | 1     | ▲ 27.8 |
| 菜種     | 74    | 87    | 87    | 0.3    |

肥料価格の高騰前の調査であるが、USDA の 2020 年の生産費調査では 1 エーカー (0.4047 ヘクタール) 当たりの肥料投入コストを比較すると、とうもろこしは 117 ドルで大豆の 3.7 倍、小麦の 2.7 倍となっている。

表 2：生産費における肥料コストの比較 (2020 年)

|               | (ドル エーカー当たり)  |               |               |
|---------------|---------------|---------------|---------------|
|               | 大豆            | 小麦            | とうもろこし        |
| 種子            | 59.51         | 14.52         | 91.83         |
| <b>肥料</b>     | <b>31.34</b>  | <b>44.00</b>  | <b>116.91</b> |
| 農薬            | 35.61         | 15.84         | 32.62         |
| 燃料・電力         | 13.53         | 10.52         | 27.18         |
| その他           | 42.26         | 40.48         | 59.47         |
| <b>資材コスト計</b> | <b>182.25</b> | <b>125.36</b> | <b>328.01</b> |

#### (4) その他品目

コメについては、作付面積は全体で 3.2%減の 99 万ヘクタール 出典：米国農務省 生産費調査 となった。長粒種の栽培が中心となっているミシシッピ川下流のデルタ地域では、肥料などの投入資材の価格が高く、価格が高水準で推移しているとうもろこし、大豆などの収益性が良いため前年度より 1.4%減少した。また、中・短粒種の栽培が中心のカリフォルニアでは 2 年連続の甚大な干ばつとなっており、前年度より約 15%減少した。その他、主に南部で作付けされる綿花は、他の作物と比べて相対的に価格が高いため、作付面積が対前年度比 9%増の 495 万ヘクタールとなった。また、菜種についてはわずかに増加している。背景には油糧種子の価格高騰があるとみられる。

## 2 作付進捗状況

4 月 18 日時点の作付け進捗状況は、米国のそれぞれ主要生産州で、春小麦 8% (過去 5 年平均 9%)、とうもろこしが 4% (同 6%)、大豆が 1% (同 2%)と、初期段階であるが。過去 5 年平均より遅れている。米国北西部の乾燥や中西部コーンベルトにおける低温多湿などが作付け遅れの要因とみられる。

また、冬小麦に関しては、4 月 18 日時点で、出穂率が 9%で過去 5 年平均より遅れている。生育状況に関しては 乾燥の影響もあるとみられ、良からやや良の比率が 60%で、前年同期の 76%を下回っている。

## 3 輸出状況

### (1) 小麦

2021/22 年度の小麦に関しては、ウクライナ情勢を受けて、ウクライナ産の輸出見通しは、2 月見通しの 2,400 万トンから 3 月 400 万トン、4 月 100 万トンで合計 500 万トン下方修正された。しかし、米国産の輸出に関しても 4 月見通しでは 40 万トン下方修正され、前年度比 21%減の 2,136 万トンとなる見通し。USDA によれば、米国産の小麦の価格が他の輸出国と比較しても高いことが要因とされている。4 月のエジプトの貿易公社 GASC の輸入入札においても、米国産小麦は応札したものの、価格が高く、落札できなかったと報道されている。

### (2) 大豆

大豆に関しては、南米の高温乾燥によるブラジル産をはじめとする大豆生産量の下方修正から、米国産への引き合いが強くなり、4 月見通しでは 70 万トン上方修正されたが、前年度比 6.4%減の 5,756 万トンの見通し。

### (3) とうもろこし

とうもろこしに関しては、米国の輸出に関しては、3 月見通しから変更なく、対前年度比 9.2%減の 6,350 万トンの見通し。なお、USDA によれば、ウクライナ産とうもろこしの

2021/22 年度の輸出量については、2 月見通しの 3,350 万トンから 3 月 600 万トン、4 月 450 万トンで合計 1,050 万トン下方修正された。主にウクライナ産を輸入しているのは中国で年間 800 万トンを超えるが、ウクライナからの輸入減を他の輸出国が完全に代替することは現時点では困難として、中国の輸入量を 2,600 万トンから 2,300 万トンに下方修正した。

#### 4 国際穀物貿易の動向

4 月の見通しでは、米国の 2021/22 年度の期末在庫率はとうもろこし、大豆は豊作にもかかわらずそれぞれ 2 年連続で 1 ケタ台の 9.6%、5.8%と低水準である。また、小麦についても 4 年連続で低下しており、特に 2021/22 年産の減産もあり、35.5%と前年度末より 4.5 ポイント低下する見通しとなっている。

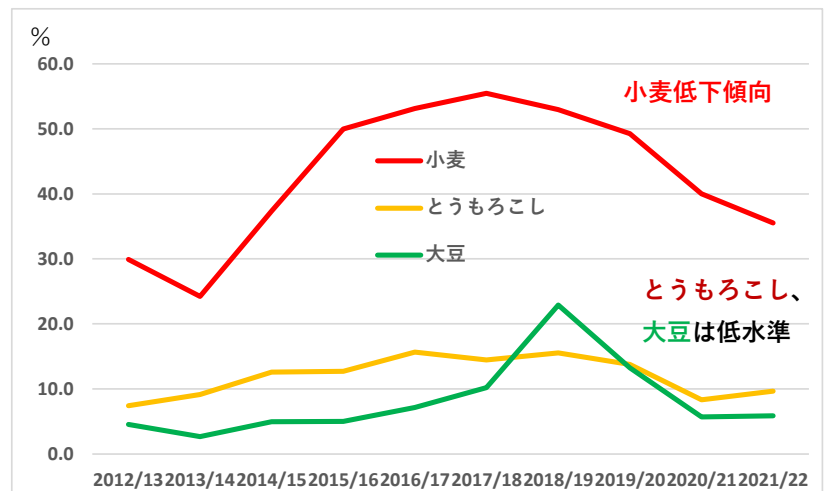
ところで、ウクライナの穀物の輸出については、ロシアの侵攻により、小麦の 2021/22 年度の輸出見通しについては 3~4 月で計 500 万トン下方修正。とうもろこしについては同様に 1,050 万トン下方修正される見通し。

ロシアのウクライナ侵攻に伴い、穀物相場が上昇したことから、インドは史上最高の生産量 1 億 960 万トンとなった小麦の輸出に力を入れている。USDA によれば、2021/22 年度のインドの小麦輸出量は、対前年度比 590 万トン増の 850 万トンの見通し。

また、ブラジル産とうもろこしについては、大豆収穫後に作付けされた冬とうもろこしの作付面積が増加し、2021/22 年度は史上最高の 1 億 1,600 万トン、輸出量も対前年度比 2,300 万トン増の 4,400 万トンの見通し。

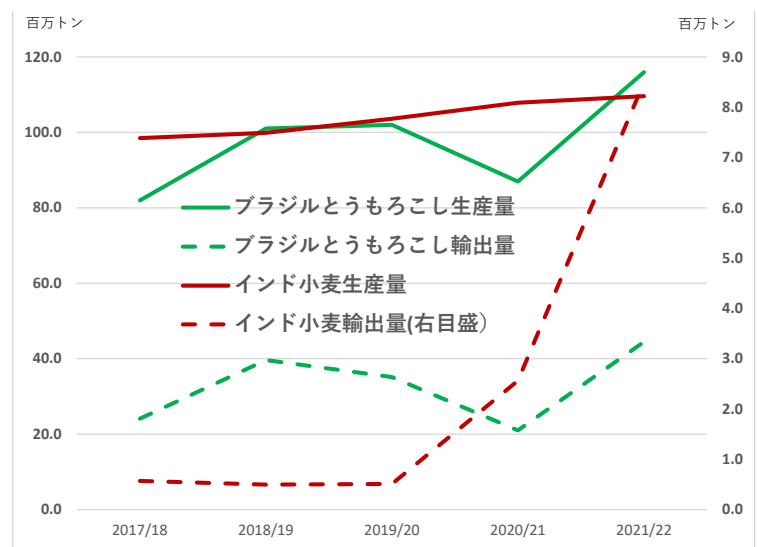
このような状況から、中近東諸国などのウクライナ産の代替の需要に関して、当面、小麦は史上最高の豊作となったインド産、とうもろこしについては同様に史上最高が見込まれるブラジル産に集中するとみられる。一方、米国のとうもろこしや小麦については、期末在庫率が低水準となっていることもあり、輸出量は 4 月見通しで上方修正されなかった。ウクライナ産の代替の穀物需要に関してどのような動きがあるかも含め注視していく。

図 2 米国の過去 10 年間の期末在庫率の推移



出典：米国農務省 「PS&D」(2022 年 4 月)をもとに農林水産省で加工

図 3 ブラジルのとうもろこし、インドの小麦輸出の推移



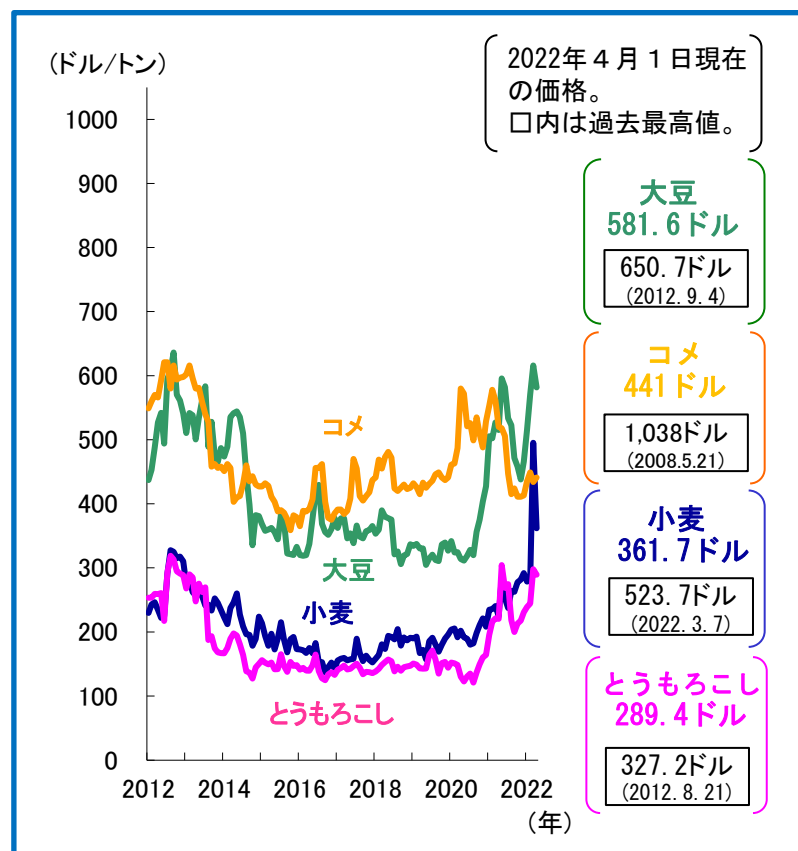
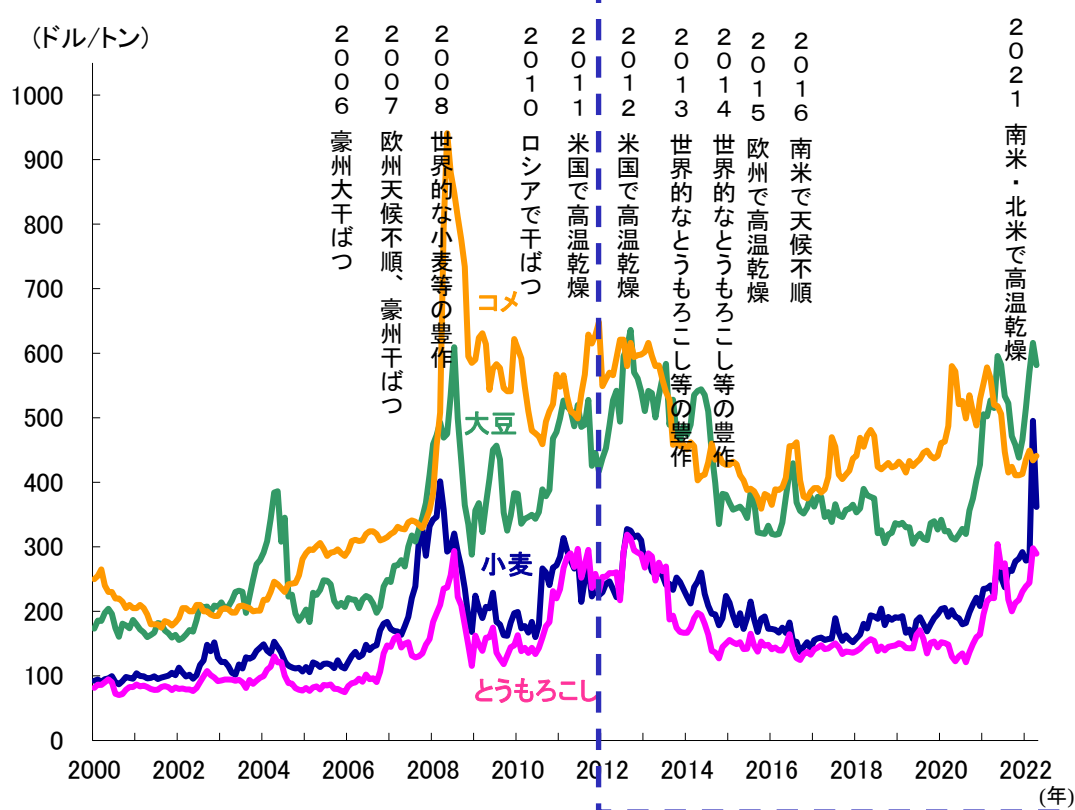
出典：米国農務省 「PS&D」(2022 年 4 月)をもとに農林水産省で加工

## 資料 1 穀物等の国際価格の動向（ドル/トン）

○とうもろこし、大豆が史上最高値を記録した2012年以降、世界的な豊作等から穀物等価格は低下。2017年以降ほぼ横ばいで推移も、2020年後半から南米の乾燥、中国の輸入需要の増加、2021年の北米の北部の高温乾燥等により上昇。2022年に入り、ウクライナ情勢が緊迫化する中、さらに上昇し、小麦は史上最高値を更新。コメは、2013年以降低下も2020年ベトナムの輸出枠設定や2021年初頭のコンテナ不足等で一時的に上昇。2021年2月半ばから海外需要低迷で低下。

○なお、穀物等価格は、新興国の畜産物消費の増加を背景とした堅調な需要やエネルギー向け需要により、2008年以前を上回る水準で推移している。

### □ 穀物等の国際価格の動向



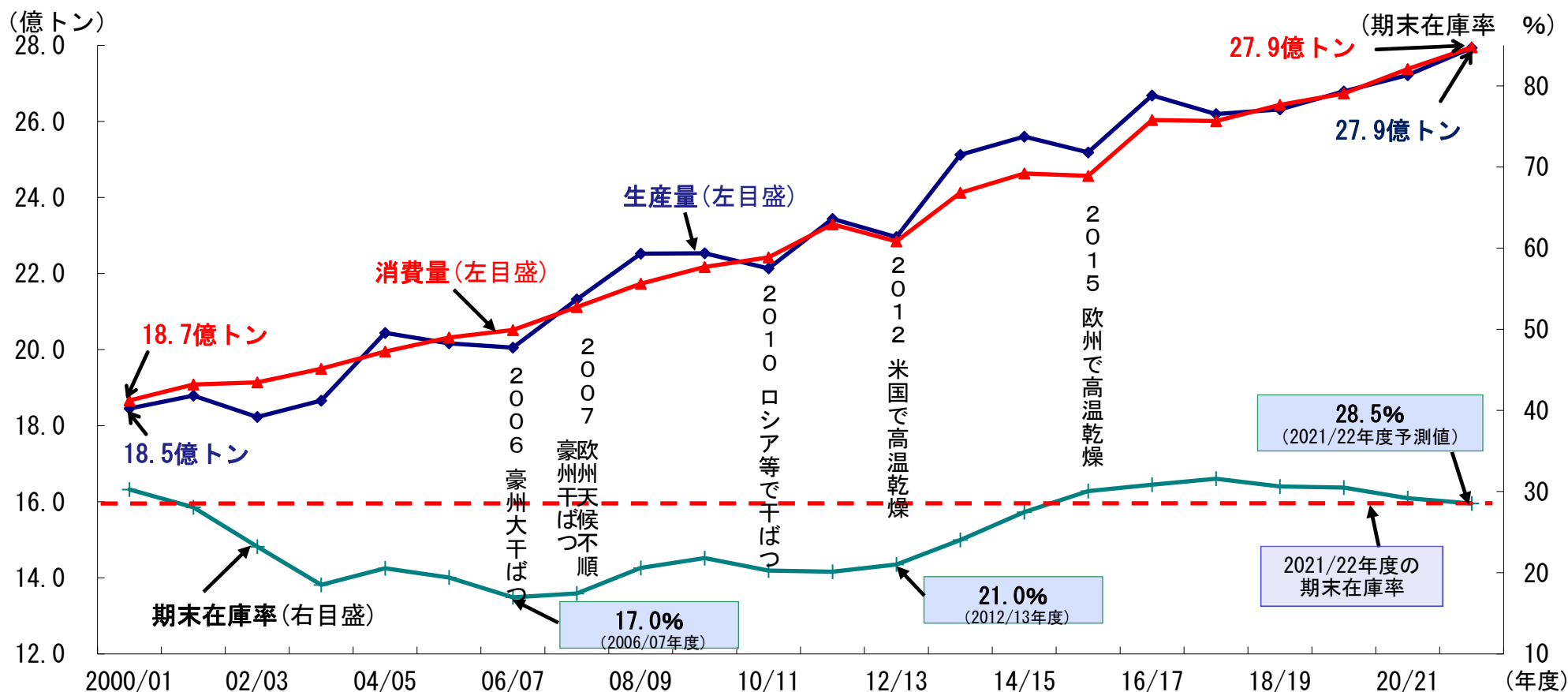
注1：小麦、とうもろこし、大豆は、シカゴ商品取引所の各月第1金曜日の期近終値の価格（セツルメント）である。コメは、タイ国家貿易取引委員会公表による各月第1水曜日のタイうるち精米100%2等のFOB価格である。なお、コメの直近の価格は2022年3月30日現在の価格である。

注2：過去最高価格については、コメはタイ国家貿易取引委員会の公表する価格の最高価格、コメ以外はシカゴ商品取引所の全ての取引日における期近終値の最高価格。

## 資料2 穀物の生産量、消費量、期末在庫率の推移

- 世界の穀物消費量は、途上国の人口増、所得水準の向上等に伴い増加傾向で推移。2021/22年度は、2000/01年度に比べ1.5倍の水準に増加。一方、生産量は、主に単収の伸びにより消費量の増加に対応している。
- 2021/22年度の期末在庫率は、生産量が消費量を下回り、前年度より低下し、28.5%。直近の価格高騰年の2012/13年度(21.0%)を上回る見込み。

### □ 穀物(コメ、とうもろこし、小麦、大麦等)の需給の推移

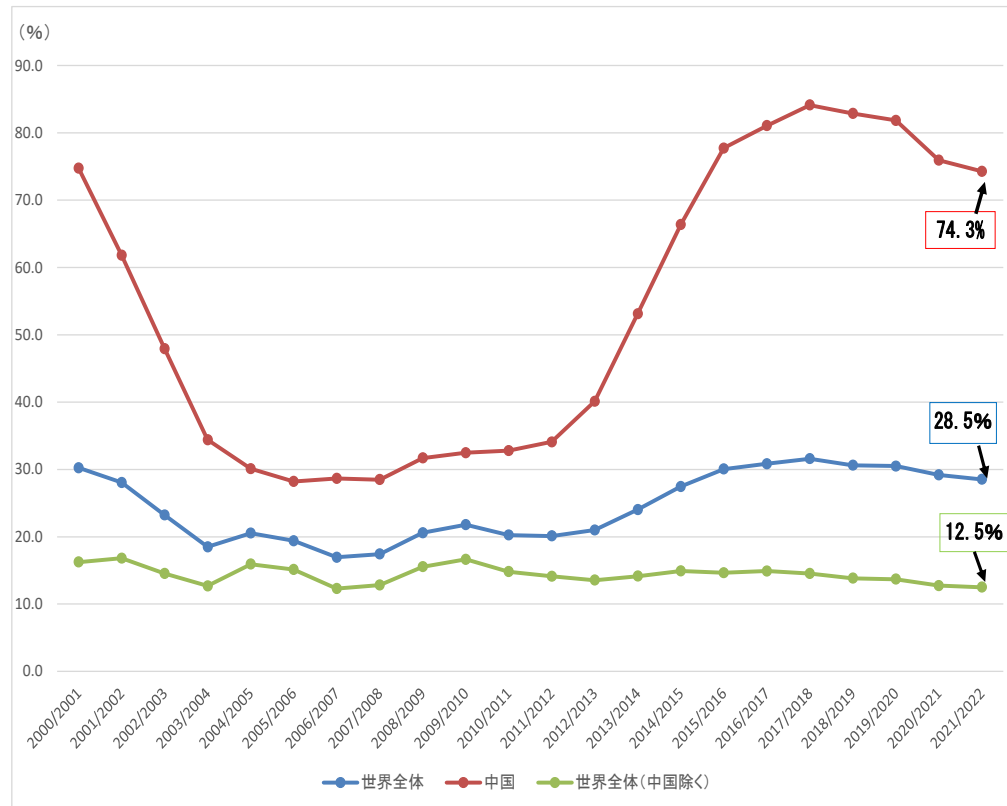


資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」(April 2022)、「PS&D」

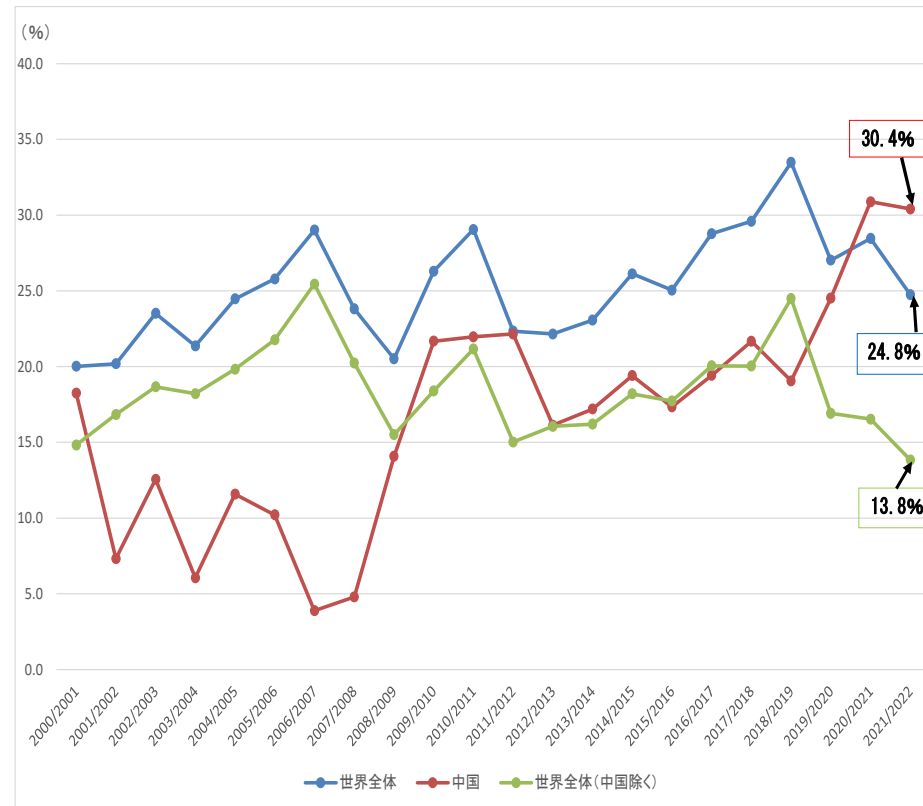
(注) なお、「PS&D」については、最新の公表データを使用している。

## 資料 3-1 穀物等の期末在庫率の推移（穀物全体、大豆）

○ 穀物全体の期末在庫率の推移



○ 大豆の期末在庫率の推移



資料: 米国農務省「PS&D」(April 8, 2022)

注: 1) 穀物はとうもろこし、小麦、コメ等(大豆除く)。

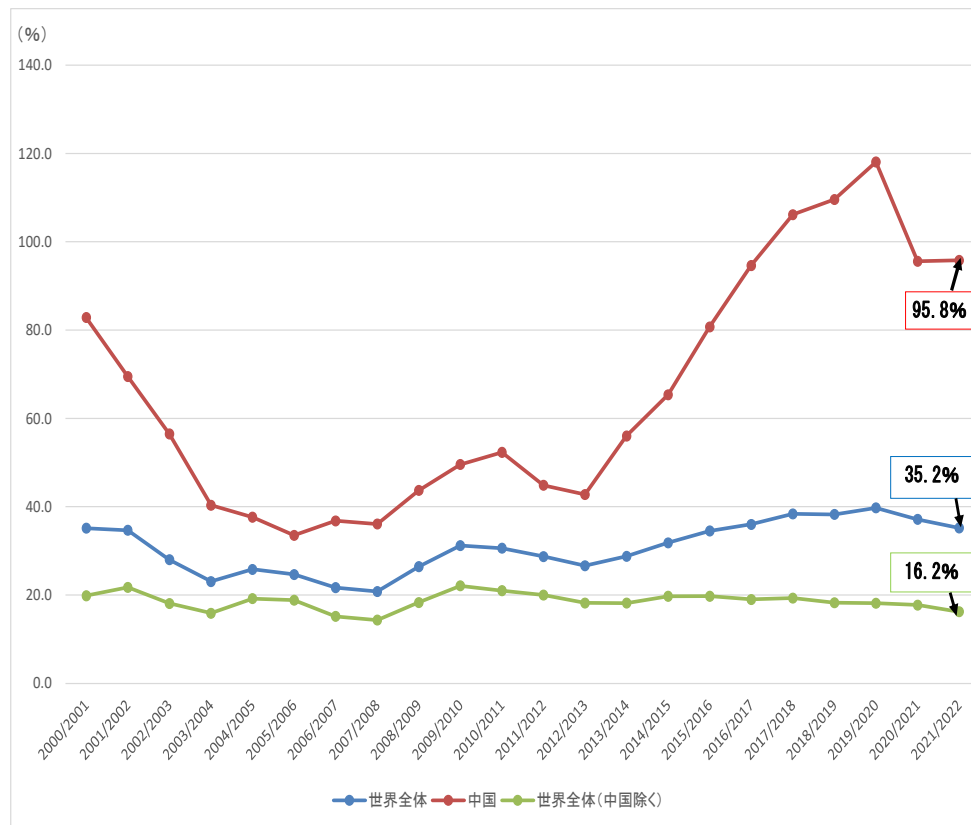
2) 世界の期末在庫率(%) = 期末在庫量 / (消費量 + 輸出量 - 輸入量) × 100 ※ただし大豆については、世界の期末在庫率(%) = 期末在庫量 / 消費量 × 100

3) 中国の期末在庫率(%) = 中国の期末在庫量 / (中国の消費量 + 中国の輸出量) × 100

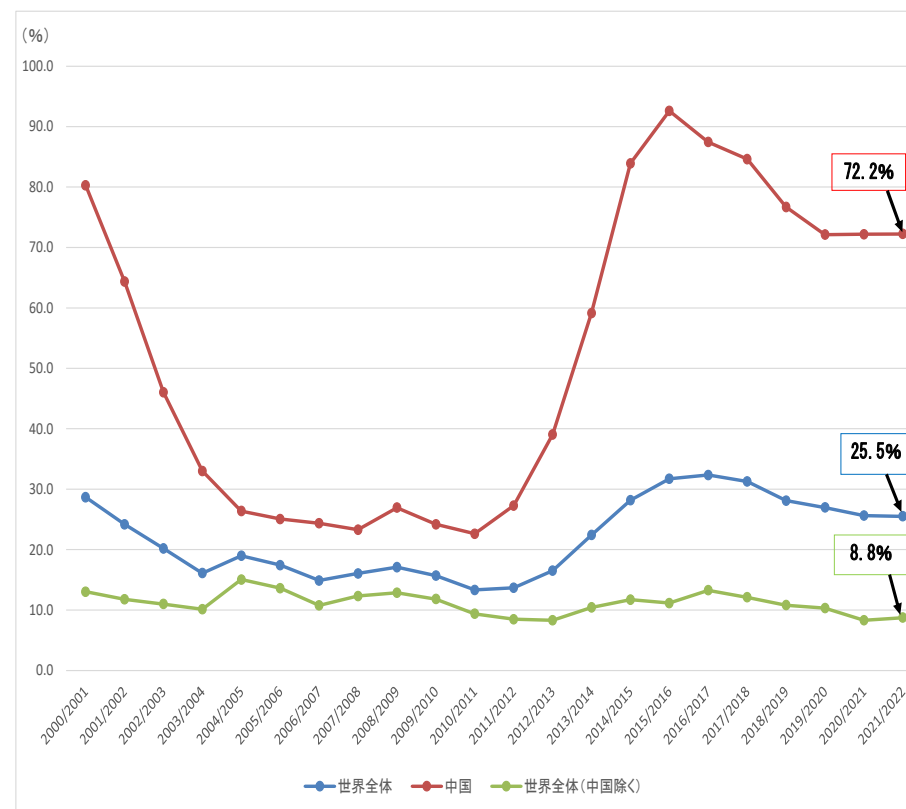
4) 中国除く期末在庫率(%) = 中国除く期末在庫量 / (中国除く消費量 + 中国除く輸出量) × 100

## 資料 3-2 穀物等の期末在庫率の推移（小麦、とうもろこし）

○ 小麦の期末在庫率の推移



○ とうもろこしの期末在庫率の推移



資料: 米国農務省「PS&D」(April 8, 2022)

注: 1) 小麦は、小麦及び小麦粉(小麦換算)の計。

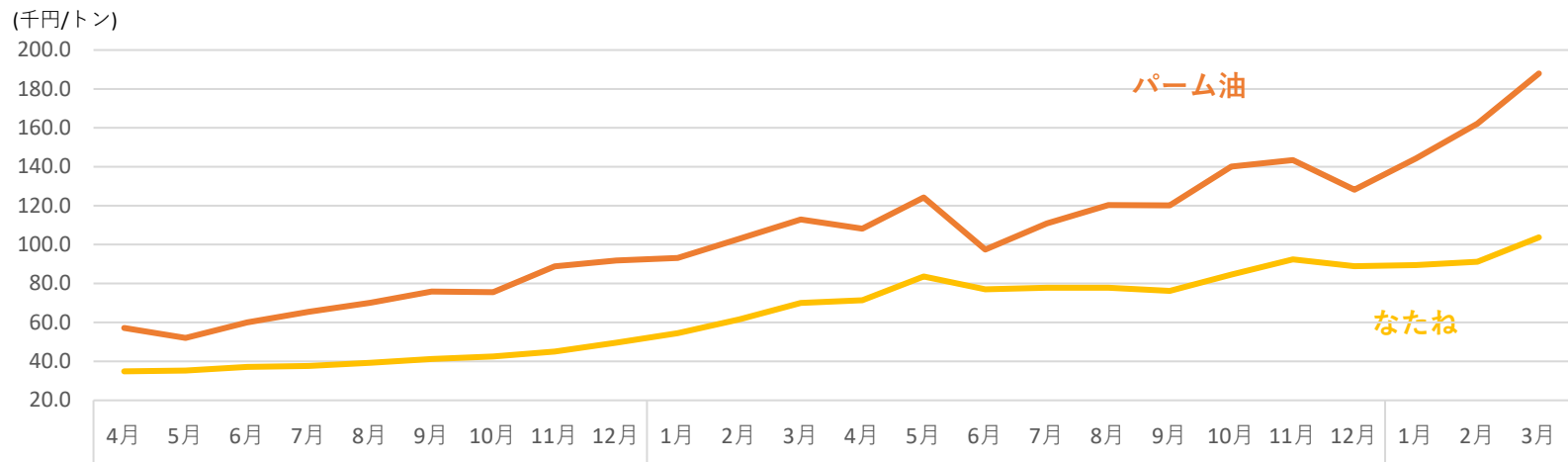
2) 世界の期末在庫率(%) = 期末在庫量 / (消費量 + 輸出量 - 輸入量) × 100

3) 中国の期末在庫率(%) = 中国の期末在庫量 / (中国の消費量 + 中国の輸出量) × 100

4) 中国除く期末在庫率(%) = 中国除く期末在庫量 / (中国除く消費量 + 中国除く輸出量) × 100

## 資料４－１ 加工食品の主な輸入原材料（穀物等を除く）の国際価格の動向

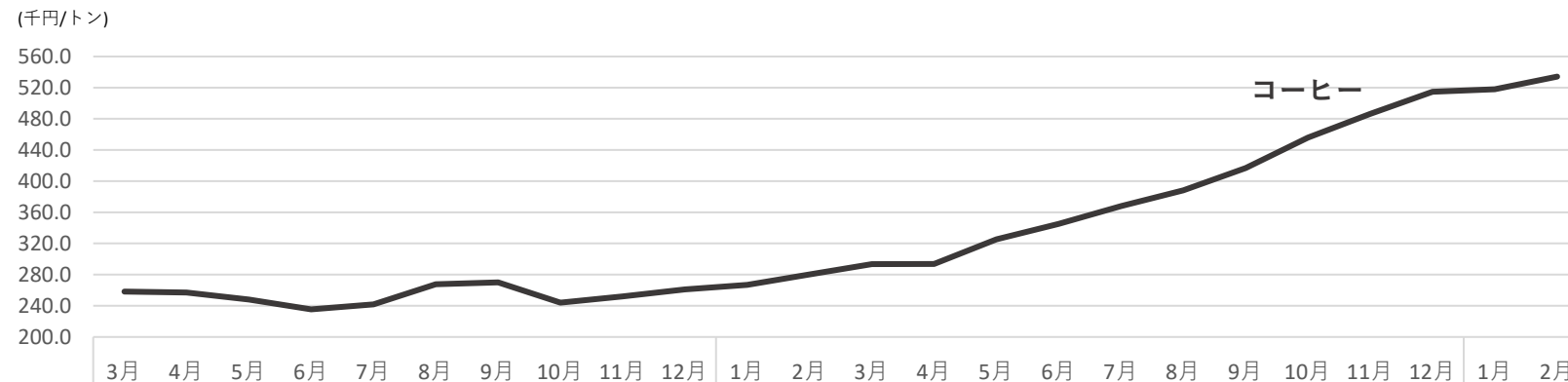
- なたね、パーム油について、需要の面では世界的な人口増加や中国等における所得水準の向上による食用油需要の拡大、エネルギー向け需要の増加、ウクライナ情勢の影響などが価格に影響を及ぼしている。
- 供給面では、なたねについて、主産地であるカナダでの高温、乾燥の影響により、減産と品質の低下が見られる。パーム油については、新型コロナウイルスの感染拡大による労働力不足により、主産地であるマレーシアにおいて、収穫作業が進まず、減産傾向となっているほか、インドネシアによるパーム油の輸出制限が価格に影響を及ぼしている。
- コーヒーについて、世界最大の生産国であるブラジルの天候不順や世界的な物流の混乱等供給不足への懸念が強まったこと、需要面ではワクチン接種による経済活動の回復からコーヒー消費量が増加したことが価格に影響を及ぼしている。



2022年4月20日現在  
□内は2020年3月以降  
の最高値。

パーム油  
188.0千円/トン  
188.0千円/トン  
(2022.3)

なたね  
103.7千円/トン  
103.7千円/トン  
(2022.3)



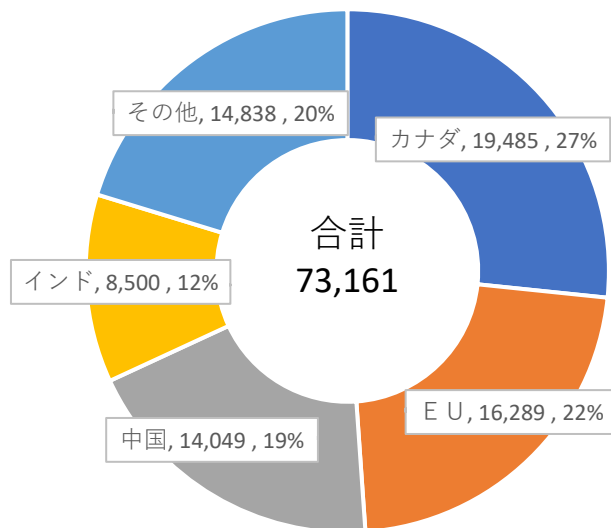
コーヒー  
534.1千円/トン  
534.1千円/トン  
(2022.2)

※ なたねの国際価格についてはカナダウィネベグ菜種市場の先物価格（期近物）を、パーム油の国際価格についてはマレーシアパーム油市場の先物価格（期近物）を、コーヒーの国際価格については国際コーヒー機関（ICO）の複合指標価格月次平均を用い、為替レートから円に換算して算出。

## 資料４－２ 加工食品の主な輸入原材料（穀物等を除く）の生産量及び輸入先

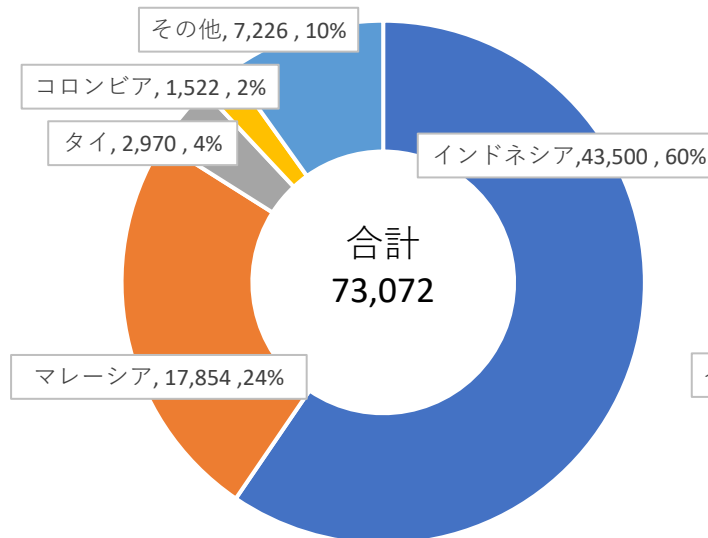
### ○主要生産国の生産状況

なたね生産量（2020/21）  
（単位：千トン）



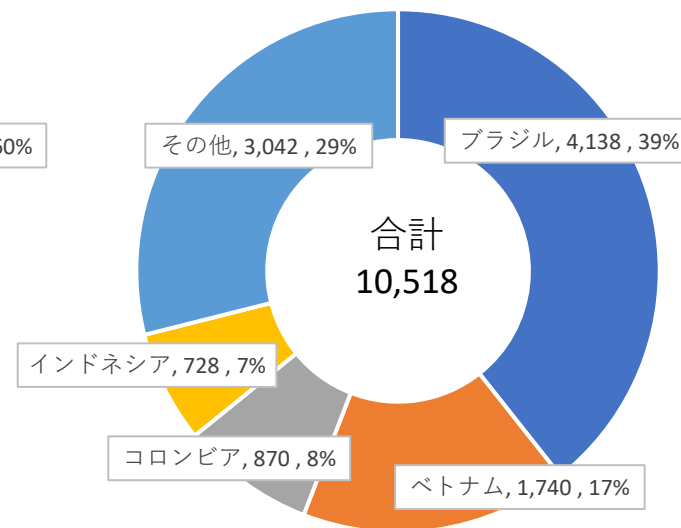
※米国農務省（Oilseeds: World Markets and Trade）

パーム油生産量（2020/21）  
（単位：千トン）



※米国農務省（Oilseeds: World Markets and Trade）

コーヒー生産量（2020）  
（単位：千トン）



※国際コーヒー機関（ICO）統計資料

### ○我が国の主な輸入先の状況（単位：千トン（2021年））

| なたね     | 輸入量   | 割合     |
|---------|-------|--------|
| カナダ     | 2,124 | 90.7%  |
| オーストラリア | 218   | 9.3%   |
| その他     | 0     | 0.0%   |
| 合計      | 2,342 | 100.0% |

※財務省「貿易統計」（HSコード：1205）

| パーム油   | 輸入量 | 割合     |
|--------|-----|--------|
| マレーシア  | 418 | 65.4%  |
| インドネシア | 220 | 34.5%  |
| その他    | 0   | 0.0%   |
| 合計     | 638 | 100.0% |

※財務省「貿易統計」（HSコード：1511）

| コーヒー  | 輸入量 | 割合     |
|-------|-----|--------|
| ブラジル  | 146 | 35.7%  |
| ベトナム  | 101 | 24.6%  |
| コロンビア | 48  | 11.7%  |
| その他   | 115 | 28.0%  |
| 合計    | 399 | 100.0% |

※財務省「貿易統計」（HSコード：0901.11-22）

# 資料４－３ 加工食品の主な輸入原材料（穀物等を除く）の国際価格の推移①

## ①なたね

単位（千円/トン）

|       | 2020年 |       |       |       |       |       |       |       |       | 2021年 |       |       |       |       |       |       |       |       |       |       |       | 2022年 |       |       |
|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|
|       | 4月    | 5月    | 6月    | 7月    | 8月    | 9月    | 10月   | 11月   | 12月   | 1月    | 2月    | 3月    | 4月    | 5月    | 6月    | 7月    | 8月    | 9月    | 10月   | 11月   | 12月   | 1月    | 2月    | 3月    |
| なたね   | 34.9  | 35.2  | 37.1  | 37.6  | 39.2  | 41.2  | 42.5  | 45.0  | 49.5  | 54.4  | 61.5  | 70.0  | 71.4  | 83.6  | 77.0  | 77.8  | 77.9  | 76.2  | 84.5  | 92.4  | 88.8  | 89.4  | 91.2  | 103.7 |
| 前月比   | 99.7  | 100.9 | 105.4 | 101.4 | 104.2 | 105.1 | 103.0 | 106.1 | 110.0 | 109.9 | 113.0 | 113.9 | 101.9 | 117.1 | 92.2  | 101.1 | 100.0 | 97.8  | 111.0 | 109.3 | 96.2  | 100.6 | 102.0 | 113.8 |
| 前年同月比 | 92.1  | 98.4  | 101.8 | 102.0 | 109.7 | 112.6 | 112.3 | 119.6 | 128.9 | 136.4 | 162.7 | 200.1 | 204.6 | 237.4 | 207.6 | 206.9 | 198.5 | 184.9 | 199.2 | 205.2 | 179.3 | 164.3 | 148.3 | 148.1 |

大臣官房新事業・食品産業部食品製造課調べ

注1 カナダウィニペグなたね定期相場の各月の月央値（期近物）から算出

## ②パーム油

単位（千円/トン）

|       | 2020年 |      |       |       |       |       |       |       |       | 2021年 |       |       |       |       |       |       |       |       |       |       |       | 2022年 |       |       |
|-------|-------|------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|
|       | 4月    | 5月   | 6月    | 7月    | 8月    | 9月    | 10月   | 11月   | 12月   | 1月    | 2月    | 3月    | 4月    | 5月    | 6月    | 7月    | 8月    | 9月    | 10月   | 11月   | 12月   | 1月    | 2月    | 3月    |
| パーム油  | 57.1  | 52.1 | 60.0  | 65.4  | 70.1  | 75.8  | 75.5  | 88.8  | 91.8  | 93.1  | 102.9 | 112.9 | 108.2 | 124.2 | 97.4  | 110.8 | 120.3 | 120.1 | 140.1 | 143.4 | 128.2 | 144.2 | 162.2 | 188.0 |
| 前月比   | 102.1 | 91.1 | 115.3 | 109.0 | 107.2 | 108.1 | 99.6  | 117.6 | 103.4 | 101.4 | 110.6 | 109.7 | 95.9  | 114.8 | 78.4  | 113.8 | 108.5 | 99.9  | 116.6 | 102.3 | 89.4  | 112.5 | 112.4 | 115.9 |
| 前年同月比 | 100.0 | 98.9 | 115.0 | 129.8 | 129.3 | 131.9 | 135.9 | 134.6 | 121.7 | 117.0 | 143.8 | 201.8 | 189.4 | 238.6 | 162.3 | 169.4 | 171.5 | 158.4 | 185.5 | 161.5 | 139.7 | 155.0 | 157.5 | 166.6 |

大臣官房新事業・食品産業部食品製造課調べ

注1 マレーシアパーム油定期相場の各月の月央値（期近物）から算出

## 資料４－４ 加工食品の主な輸入原材料（穀物等を除く）の国際価格の推移②

### ③ コーヒー

単位（千円/トン）

|       | 2020年 |       |       |       |       |       |       |       |       |       | 2021年 |       |       |       |       |       |       |       |       |       |       |       | 2022年 |       |
|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|
|       | 3月    | 4月    | 5月    | 6月    | 7月    | 8月    | 9月    | 10月   | 11月   | 12月   | 1月    | 2月    | 3月    | 4月    | 5月    | 6月    | 7月    | 8月    | 9月    | 10月   | 11月   | 12月   | 1月    | 2月    |
| コーヒー  | 258.3 | 257.1 | 247.9 | 235.5 | 241.8 | 267.7 | 270.0 | 244.0 | 251.9 | 260.9 | 266.8 | 280.2 | 293.5 | 293.7 | 325.2 | 345.1 | 367.9 | 388.1 | 416.7 | 455.9 | 486.3 | 514.7 | 517.9 | 534.1 |
| 前月比   | 106.4 | 99.5  | 96.4  | 95.0  | 102.7 | 110.7 | 100.9 | 90.4  | 103.3 | 103.6 | 102.3 | 105.0 | 104.7 | 100.1 | 110.7 | 106.1 | 106.6 | 105.5 | 107.4 | 109.4 | 106.7 | 105.8 | 100.6 | 103.1 |
| 前年同月比 | 108.5 | 111.0 | 111.4 | 99.1  | 98.0  | 119.0 | 116.0 | 105.3 | 97.4  | 92.9  | 104.6 | 115.4 | 113.6 | 114.2 | 131.2 | 146.6 | 152.2 | 145.0 | 154.3 | 186.9 | 193.0 | 197.3 | 194.1 | 190.6 |

大臣官房新事業・食品産業部食品製造課調べ

注1 国際コーヒー機関（ICO）の複合指標価格月次平均から算出

2 ICO複合指標価格は、米国、ドイツ、フランスの3大市場の現物の成約価格を収集しICOの定める方法で4品種ごとの加重平均値を算出したもの。

## 資料5 食品小売価格の動向

○ 令和4年3月の国内の加工食品の消費者物価指数は99.3～132.2(前年同月比で－0.2%～34.7%)の範囲内。

### 消費者物価指数(総務省) (令和3年10月～令和4年3月)

|                 | H29   | H30   | H31<br>(R元) | R2    | R3    | R3    |       |       | R4    |       |       |                    |
|-----------------|-------|-------|-------------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|--------------------|
| 品目              | 平均    | 平均    | 平均          | 平均    | 平均    | 10月   | 11月   | 12月   | 1月    | 2月    | 3月    | 上昇率<br>(前年<br>同月比) |
| 食パン             | 99.6  | 100.2 | 101.1       | 100.0 | 99.2  | 99.6  | 99.7  | 100.0 | 103.2 | 107.1 | 107.2 | 8.6%               |
| 即席めん            | 95.7  | 95.3  | 98.5        | 100.0 | 100.1 | 100.9 | 101.0 | 98.5  | 100.4 | 100.9 | 100.9 | 0.8%               |
| 豆腐              | 98.6  | 98.8  | 99.1        | 100.0 | 101.3 | 102.0 | 102.6 | 102.5 | 102.3 | 102.1 | 102.9 | 1.9%               |
| 食用油<br>(キャノーラ油) | 102.7 | 101.5 | 100.9       | 100.0 | 106.9 | 118.1 | 120.5 | 121.6 | 124.6 | 128.4 | 132.2 | 34.7%              |
| みそ              | 96.9  | 97.4  | 99.1        | 100.0 | 99.3  | 99.2  | 99.6  | 97.6  | 98.3  | 99.0  | 99.9  | －0.2%              |
| マヨネーズ           | 102.3 | 100.8 | 100.7       | 100.0 | 105.6 | 112.4 | 112.5 | 112.0 | 112.3 | 113.3 | 120.3 | 19.7%              |
| チーズ             | 97.3  | 100.9 | 101.3       | 100.0 | 98.7  | 98.4  | 95.9  | 95.3  | 98.5  | 100.2 | 99.3  | －0.2%              |
| バター             | 99.3  | 99.5  | 99.9        | 100.0 | 99.9  | 99.9  | 99.8  | 99.9  | 99.7  | 99.9  | 99.7  | 0.0%               |
| 生鮮食品を<br>除く食料   | 97.0  | 97.9  | 99.0        | 100.0 | 100.2 | 100.7 | 101.0 | 100.9 | 101.2 | 101.5 | 101.9 | 2.0%               |

注1: 令和2年の平均値を100とした指数で表記。

### 【参考】

### 食品価格動向調査(農林水産省) (令和3年10月～令和4年4月)

|                 | H29   | H30   | H31<br>(R元) | R2    | R3    | R3    |       |       | R4    |       |       |       | 上昇率<br>(前月比) | 上昇率<br>(前年<br>同月比) |
|-----------------|-------|-------|-------------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|--------------|--------------------|
| 品目              | 平均    | 平均    | 平均          | 平均    | 平均    | 10月   | 11月   | 12月   | 1月    | 2月    | 3月    | 4月    | 上昇率<br>(前月比) | 上昇率<br>(前年<br>同月比) |
| 食パン             | 97.6  | 97.9  | 101.3       | 100.0 | 98.6  | 98.6  | 98.2  | 98.4  | 102.1 | 105.3 | 104.6 | 105.1 | 0.5%         | 6.6%               |
| 即席めん            | 92.6  | 92.4  | 97.9        | 100.0 | 99.2  | 99.0  | 99.0  | 97.8  | 98.4  | 98.4  | 99.0  | 99.0  | 0.0%         | －0.6%              |
| 豆腐              | 100.8 | 100.1 | 100.9       | 100.0 | 100.6 | 100.7 | 101.1 | 100.7 | 101.6 | 101.1 | 102.0 | 101.6 | －0.4%        | 3.1%               |
| 食用油<br>(キャノーラ油) | 97.9  | 97.9  | 103.5       | 100.0 | 104.1 | 112.8 | 115.3 | 116.3 | 119.1 | 122.9 | 126.4 | 129.6 | 2.5%         | 31.2%              |
| みそ              | 91.9  | 96.6  | 100.4       | 100.0 | 99.2  | 98.4  | 98.8  | 97.5  | 97.7  | 98.1  | 98.4  | 99.0  | 0.6%         | 0.6%               |
| マヨネーズ           | 99.1  | 97.9  | 103.1       | 100.0 | 102.2 | 106.6 | 106.6 | 105.6 | 105.9 | 105.9 | 112.1 | 117.2 | 4.5%         | 20.0%              |
| チーズ             | 95.2  | 98.6  | 100.9       | 100.0 | 98.1  | 98.6  | 93.6  | 92.1  | 98.6  | 98.6  | 98.6  | 105.0 | 6.5%         | 6.0%               |
| バター             | 98.8  | 99.0  | 99.5        | 100.0 | 99.8  | 99.9  | 99.7  | 99.7  | 99.7  | 99.7  | 99.7  | 99.3  | －0.4%        | －0.4%              |

注1: 令和2年の平均値を100とした指数で表記。

注2: 調査は原則、各都道府県10店舗で実施。平成30年9月までは週1回、同年10月以降は月1回実施。

注3: 調査結果は調査期間中の平均値で算出。

注4: 令和2年4～5月、令和3年1～3月、同5～9月については、新型コロナウイルス感染症緊急事態宣言の対象都道府県においては調査を中止。そのためそれぞれ前月の値とは接続しない。

## 資料 6-1 海外の畜産物の需給動向（ALIC提供）

○独立行政法人農畜産業振興機構（ALIC）は毎月25日に海外の畜産物の需給動向を公表  
（月報 畜産の情報）

○2022年5月号（4月25日に公表）の各品目の主な動きは以下の通り

### 『月報 畜産の情報』

#### ◆牛肉

（米国）堅調な需要により卸売価格は高水準

[https://www.alic.go.jp/joho-c/joho05\\_002145.html](https://www.alic.go.jp/joho-c/joho05_002145.html)

（カナダ）干ばつの継続により牛飼養頭数の減少続く

[https://www.alic.go.jp/joho-c/joho05\\_002155.html](https://www.alic.go.jp/joho-c/joho05_002155.html)

（豪州）洪水による影響で牛肉輸出量は依然低迷

[https://www.alic.go.jp/joho-c/joho05\\_002156.html](https://www.alic.go.jp/joho-c/joho05_002156.html)

（ウルグアイ）2021年の牛肉輸出量、生産量の回復を背景に増加

[https://www.alic.go.jp/joho-c/joho05\\_002157.html](https://www.alic.go.jp/joho-c/joho05_002157.html)

#### ◆豚肉

（EU）スペインの豚肉生産量、ドイツを抜いてEU最大に

[https://www.alic.go.jp/joho-c/joho05\\_002158.html](https://www.alic.go.jp/joho-c/joho05_002158.html)

#### ◆鶏肉

（タイ）2022年に入り鶏肉価格は高値で推移

[https://www.alic.go.jp/joho-c/joho05\\_002159.html](https://www.alic.go.jp/joho-c/joho05_002159.html)

## 資料 6-2 海外の畜産物の需給動向（ALIC提供）

### ◆牛乳・乳製品

（米国）乳価は過去最高水準で推移

[https://www.alic.go.jp/joho-c/joho05\\_002160.html](https://www.alic.go.jp/joho-c/joho05_002160.html)

（EU）生乳取引価格、12カ月連続で前年同月を上回る

[https://www.alic.go.jp/joho-c/joho05\\_002161.html](https://www.alic.go.jp/joho-c/joho05_002161.html)

（NZ）生乳生産量は低迷も、旺盛な乳製品需要は継続

[https://www.alic.go.jp/joho-c/joho05\\_002162.html](https://www.alic.go.jp/joho-c/joho05_002162.html)

（中国）21年の生乳生産量と乳製品輸入量はともに増加、乳価も高値で推移

[https://www.alic.go.jp/joho-c/joho05\\_002163.html](https://www.alic.go.jp/joho-c/joho05_002163.html)

### ◆飼料穀物

（世界）アルゼンチンなどで単収減も、世界のトウモロコシ生産量は引き続き過去最高の見通し

[https://www.alic.go.jp/joho-c/joho05\\_002164.html](https://www.alic.go.jp/joho-c/joho05_002164.html)

（世界）南米での大豆減産見通しで、輸出と期末在庫は引き続き下方修正

[https://www.alic.go.jp/joho-c/joho05\\_002165.html](https://www.alic.go.jp/joho-c/joho05_002165.html)

（米国）国内消費量と輸出量の上方修正によりトウモロコシの期末在庫は9%台に

[https://www.alic.go.jp/joho-c/joho05\\_002166.html](https://www.alic.go.jp/joho-c/joho05_002166.html)

（ブラジル）2021/22年度大豆生産量は前年度をかなり大きく下回る見込み

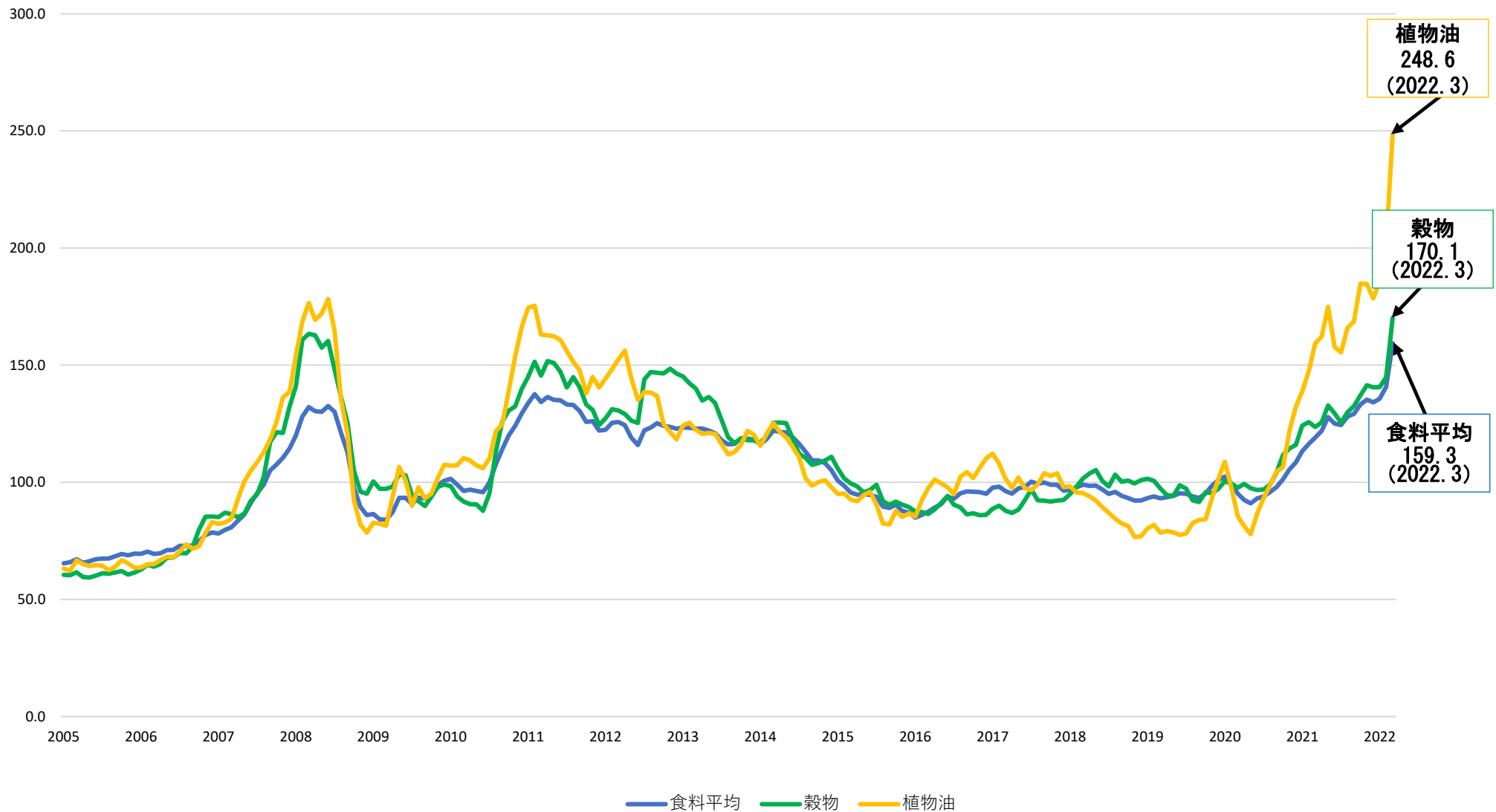
[https://www.alic.go.jp/joho-c/joho05\\_002167.html](https://www.alic.go.jp/joho-c/joho05_002167.html)

（中国）トウモロコシおよび大豆の価格動向ほか

[https://www.alic.go.jp/joho-c/joho05\\_002168.html](https://www.alic.go.jp/joho-c/joho05_002168.html)

## 資料 7 FAO食料価格指数

(2014-16平均=100)



資料: FAO「Food Price Index」(2022.4)より作成

注: 穀物はとうもろこし、小麦、コメ等、植物油は大豆油、菜種油、ひまわり油、パーム油等

(品目別需給編)

# 1 小麦

## (1) 国際的な小麦需給の概要（詳細は右表を参照）

<米国農務省（USDA）の見通し>

2021/22 年度

**生産量** 前年度比 ↑ 前月比 ↑

- ・EU 等で下方修正も、アルゼンチン等で上方修正され、前月から上方修正された。史上最高の見込み。

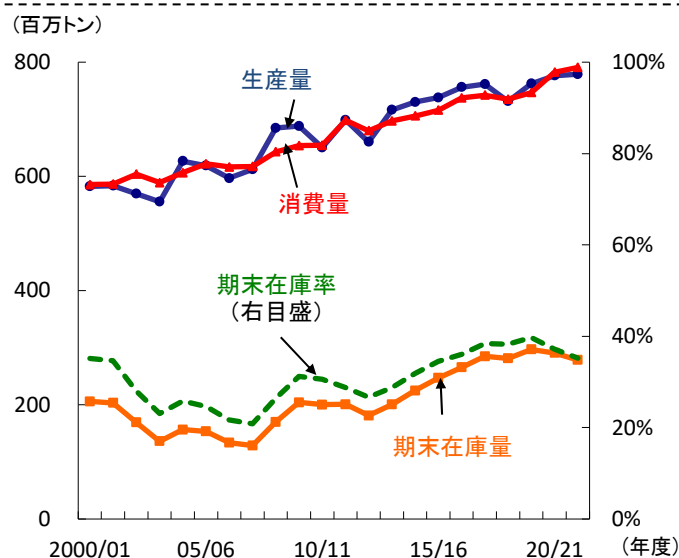
**消費量** 前年度比 ↑ 前月比 ↑

- ・ブラジル等で下方修正も、インド等で上方修正され、前月から上方修正された。史上最高の見込み。

**輸出量** 前年度比 ↓ 前月比 ↓

- ・ロシア、アルゼンチン等で上方修正も、EU、ウクライナ等で下方修正され、前月から下方修正された。

**期末在庫量** 前年度比 ↓ 前月比 ↓



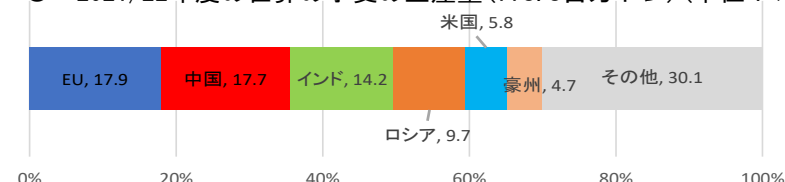
## ◎世界の小麦需給

(単位：百万トン)

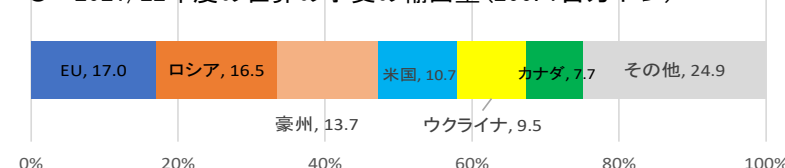
| 年 度   | 2019/20 | 2020/21<br>(見込み) | 2021/22 |               |                |
|-------|---------|------------------|---------|---------------|----------------|
|       |         |                  | 予測値     | 前月予測<br>からの変更 | 対前年度<br>増減率(%) |
| 生 産 量 | 762.4   | 776.3            | 778.8   | 0.3           | 0.3            |
| 消 費 量 | 746.8   | 782.4            | 791.1   | 3.8           | 1.1            |
| うち飼料用 | 139.7   | 157.7            | 162.2   | 0.1           | 2.9            |
| 輸 出 量 | 193.9   | 202.6            | 200.1   | ▲ 3.0         | ▲ 1.3          |
| 輸 入 量 | 188.4   | 194.8            | 197.2   | ▲ 4.1         | 1.2            |
| 期末在庫量 | 296.8   | 290.7            | 278.4   | ▲ 3.1         | ▲ 4.2          |
| 期末在庫率 | 39.7%   | 37.1%            | 35.2%   | ▲ 0.6         | ▲ 2.0          |

資料：USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」 (8 April 2022)

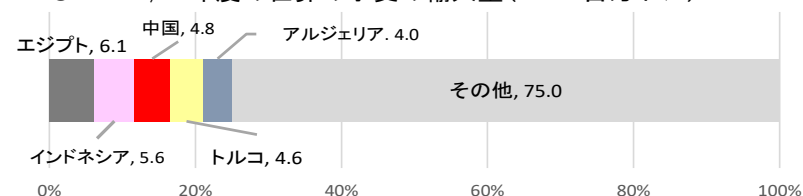
### ○ 2021/22年度の世界の小麦の生産量(778.8百万トン) (単位：%)



### ○ 2021/22年度の世界の小麦の輸出量(200.1百万トン)



### ○ 2021/22年度の世界の小麦の輸入量(197.2百万トン)



## (2) 国別の小麦の需給動向

### ＜ 米国 ＞ 2021/22 年度の輸出量は過去 6 年で最低水準

【生育・生産状況】USDA によれば、2021/22 年度の生産量は、前月予測からの変更はなく、44.8 百万トン(冬小麦：34.8 百万トン、春小麦：9.0 百万トン、デュラム小麦：1.0 百万トン)の見込み。

USDA「Prospective Planting Report」(2022.3.31)によれば、2022/23 年度の小麦の作付意向面積は前年度に比べ 1.4%増加の 19.2 百万ヘクタールと、史上 5 番目に低い水準となったものの、2020/21 年度から 2 年連続で増加する見込み。

「Wheat Outlook」(2022.4.12)によれば、2022/23 年度の冬小麦の生育状況は 4 月 5 日現在、3 月よりわずかに改善したものの、ハード・レッド・ウインター(HRW)の主要生産地であるカンザス州西部等を含め、冬小麦生産地の 69%が干ばつ状態となっている。「Crop Progress」(2022.4.18)によれば、4 月 17 日時点の冬小麦の作柄評価(良からやや良の割合)は、30%と前年度同時期(53%)を下回っている。冬小麦の主要生産地の作柄評価は、干ばつによる休眠期への影響から、カンザス州 33%(前年度同時期 55%)、オクラホマ州 21%(同 70%)、テキサス州 6%(同 28%)と前年度に比べ悪化している。また、デュラム小麦産地は、前年度(90%)と同様 86%が干ばつ状態となっている。一方、春小麦は、生産地の 46%が干ばつ状態であるものの、前年同時期(80%)と比べ改善している。このため、干ばつが解消した主要生産地のノースダコタ州東部とミネソタ州でのハード・レッド・スプリング(HRS)の作付け条件は、前年度に比べ改善する見通し。

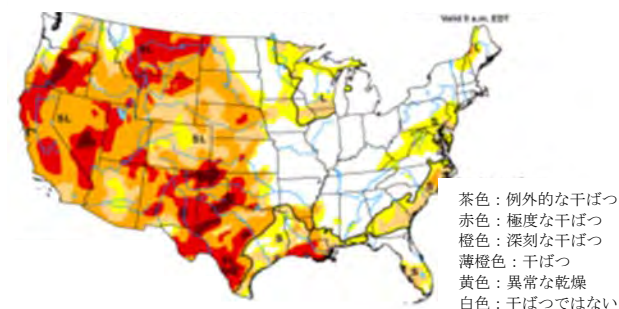
【貿易情報・その他】USDA によれば、ロシアによるウクライナ侵攻により、EU や黒海地域産小麦と競合する HRW とソフト・レッド・ウインター(SRW)の輸出価格は急騰。しかし、4 月に入り東南アジア及び中国の需要減が続き、下落傾向となった。また、2021/22 年度の輸出量は、輸出の伸び悩みや相対的に高い価格から、前月予測から 0.4 百万トン下方修正され、21.4 百万トンと過去 6 年間で最低の水準となっている。その中で、最近の価格上昇により最も輸出に影響を受けた HRW 及び SRW の輸出量は、前月に比べそれぞれ 0.3 百万トン、0.1 百万トン下方修正され、8.4 百万トン、3.0 百万トンとなった。その減少の主な要因は、米国産からより安価な豪州産等へのシフトである。

## 小麦－米国（冬小麦が全体の 7 割、春小麦は 3 割）

| 年 度        | 2019/20 | 2020/21<br>(見込み) | 2021/22 |               |                |
|------------|---------|------------------|---------|---------------|----------------|
|            |         |                  | 予測値     | 前月予測<br>からの変更 | 対前年度<br>増減率(%) |
| 生産量        | 52.6    | 49.8             | 44.8    | -             | ▲ 10.0         |
| 消費量        | 30.4    | 30.5             | 30.6    | ▲ 0.3         | 0.3            |
| うち飼料用      | 2.6     | 2.6              | 2.7     | ▲ 0.3         | 5.0            |
| 輸 出 量      | 26.4    | 27.0             | 21.4    | ▲ 0.4         | ▲ 20.9         |
| 輸 入 量      | 2.8     | 2.7              | 2.6     | -             | ▲ 5.1          |
| 期末在庫量      | 28.0    | 23.0             | 18.5    | 0.7           | ▲ 19.8         |
| 期末在庫率      | 49.3%   | 40.0%            | 35.5%   | 1.8           | ▲ 4.5          |
| (参考)       |         |                  |         |               |                |
| 収穫面積(百万ha) | 15.13   | 14.89            | 15.04   | -             | 1.0            |
| 単収(t/ha)   | 3.47    | 3.34             | 2.98    | -             | ▲ 10.8         |

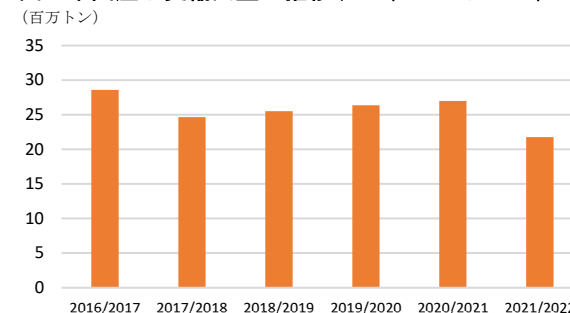
資料：USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」  
「World Agricultural Production」(8 April 2022)

図 米国の干ばつ状況(2022 年 4 月 5 日時点)



資料：U.S Drought Monitor (2022.4.7)

図 米国産小麦輸出量の推移(2016/17 から 2021/22)



資料：USDA「PS&D」(2022.4.8)をもとに農林水産省で作成

＜ カナダ ＞ 2021/22 年度期末在庫は減産により過去最低の見通し

【生育・生産状況】USDA によれば、2021/22 年度の生産量は、前月予測からの変更はなく 21.7 百万トン。カナダ西部の干ばつの影響から前年度に比べ 38.5%減少し、2008/09 年度以降最低。

カナダ農務農産食品省(AAFC)「Outlook For Principal Field Crops」(2022.4.20)によれば、生産量は前月予測からの変更はなく、21.7 百万トンの見込み。そのうち、デュラム小麦は前年度から 60%減の 2.7 百万トン、普通小麦は前年度から 34%減の 19.0 百万トンの見込み。

また、AAFC によれば、2022/23 年度の播種面積は、前年度(9.5 百万ヘクタール)から 5.5%増の 10.0 百万ヘクタール。生産量は前年度(21.7 百万トン)から 43.9%増の 31.2 百万トンの見込み。

そのうち、デュラム小麦は高水準な価格等から播種面積は前年度から 9 %増の 2.5 百万ヘクタール。アルバータ州南部とサスカチュワン州では干ばつの兆候があるものの、前年度の干ばつで減少した単収が回復すれば生産量は前年度(2.7 百万トン)の約 2 倍の 5.5 百万トンと、過去 5 年平均並となる見込み。また、普通小麦も高水準な価格等から、播種面積は前年度から 5 %増加し 7.6 百万ヘクタールの見込み。また、デュラム小麦と同様に、単収が回復(3.44 トン/ヘクタール)すると、生産量は前年度から 35.0%増加し 25.6 百万トンと過去 5 年平均を上回る見込み。

【貿易情報・その他】USDA によれば、2021/22 年度の輸出量は、前月予測からの変更なく 15.5 百万トンと、2005/06 年度以降最低の見込み。

カナダ穀物委員会(Canadian Grain Commission)によれば、2022 年 2 月の輸出量は普通小麦が 1.0 百万トン、デュラム小麦は 0.2 百万トンの計 1.2 百万トンで、輸出先国は、普通小麦は日本(22.3%)、バングラデシュ (15.3%)、デュラム小麦はアルジェリア(70.2%)、モロッコ(16.1%)の順。なお、2022 年以降、中国向けの輸出はほとんどない。

また、USDA によれば、期末在庫量は 2.9 百万トンと対前年度比 48.3%減、1960 年以降で最低。

AAFC によれば、2022/23 年度のデュラム小麦の輸出量は、天候不順による生産量の減少が予想される北アフリカからの輸入需要増加から、前年度(2.4 百万トン)を上回る 4.3 百万トンの見込み。また、普通小麦は黒海諸国、特にウクライナからの輸出の減少と世界的な需要の増加から、前年度(13.2 百万トン)を上回る 17.3 百万トンの見込み。

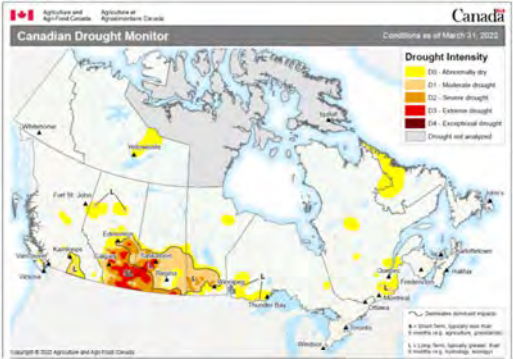
小麦－カナダ（春小麦を主に栽培）

(単位：百万トン)

| 年 度        | 2019/20 | 2020/21<br>(見込み) | 2021/22       |               |                |
|------------|---------|------------------|---------------|---------------|----------------|
|            |         |                  | 予測値、( ) はAAFC | 前月予測<br>からの変更 | 対前年度<br>増減率(%) |
| 生 産 量      | 32.7    | 35.2             | 21.7 (21.7)   | -             | ▲ 38.5         |
| 消 費 量      | 9.8     | 9.1              | 9.5 (8.2)     | -             | 4.1            |
| うち飼料用      | 4.6     | 4.2              | 4.5 (4.1)     | -             | 7.7            |
| 輸 出 量      | 24.1    | 26.4             | 15.5 (15.6)   | -             | ▲ 41.4         |
| 輸 入 量      | 0.7     | 0.6              | 0.6 (0.2)     | -             | 9.1            |
| 期末在庫量      | 5.5     | 5.7              | 2.9 (3.8)     | ▲ 0.0         | ▲ 48.5         |
| 期末在庫率      | 16.2%   | 15.9%            | 11.7% (15.8%) | ▲ 0.1         | ▲ 4.3          |
| (参考)       |         |                  |               |               |                |
| 収穫面積(百万ha) | 9.66    | 10.02            | 9.25 (9.25)   | -             | ▲ 7.7          |
| 単収(t/ha)   | 3.38    | 3.51             | 2.34 (2.34)   | -             | ▲ 33.3         |

資料：USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、  
「World Agricultural Production」(8 April 2022)  
AAFC 「Outlook For Principal Field Crops」(20 April 2022)

図 カナダの干ばつ状況(2022 年 3 月 31 日時点)



資料：カナダ農務農産食品省(AAFC)

表 カナダ産普通小麦及びデュラム小麦の輸出先国(2022年2月)  
＜普通小麦＞ ＜デュラム小麦＞

|   | 国名      | 輸出量<br>(万トン) | 輸出量シェア<br>(%) | 国名     | 輸出量<br>(万トン) | 輸出量シェア<br>(%) |
|---|---------|--------------|---------------|--------|--------------|---------------|
| 1 | 日本      | 22.4         | 22.3          | アルジェリア | 13.2         | 70.2          |
| 2 | バングラデシュ | 15.5         | 15.3          | モロッコ   | 3.0          | 16.1          |
| 3 | インドネシア  | 12.8         | 12.7          | 米国     | 1.3          | 6.9           |
| 4 | コロンビア   | 11.0         | 10.9          | コロンビア  | 0.5          | 2.9           |
| 5 | 英国      | 6.0          | 6.0           | インドネシア | 0.4          | 2.1           |
| 6 | その他     | 32.9         | 32.7          | その他    | 0.4          | 1.9           |
| 計 |         | 100.7        | 100.0         | 計      | 18.9         | 100.0         |

注1: Canadian Grain Commissionが認可したエレベーターから輸出された小麦(Licensed)のみのデータ。

注2普通小麦の品種はNO. 1-3Canada Western Red Spring, No. 2 Canada Prairie Spring, No. 1Canada Western Red winter, No. 2 Canada Eastern, Other, デュラムはCanada Western Amber Durum Others

資料: Canadian Grain Commission 「Export of Canadian Grain and Wheat Flour」 (2022年3月23日) をもとに作成。

## < 豪州 > 2021/22 年度の生産量、輸出量は史上最高の見通し

【生育・生産状況】USDA によれば、2021/22 年度の生産量は、前月予測からの変更はなく史上最高の 36.3 百万トンの見込み。

2022/23 年度の小麦の播種が開始された 4 月上旬、西オーストラリア州で散発的な降雨があり、土壌水分が補給された。一方、南オーストラリア州(SA)やビクトリア州(VIC)の一部では乾燥した天候となっている。

GIWA (西オーストラリア州穀物団体) (2022.4)によれば、当初肥料価格等の高騰により 2022/23 年度の穀物・油糧種子の作付面積は、前年度より減少見通しであったが、4 月の降雨や穀物・油糧種子価格の高騰によりカバーできるとして、州全体で前年度並みの 9.2 百万ヘクタールに上方修正された。

なお、現地情報会社によれば、ロシアが制裁の対抗策として豪州への肥料の輸出を止めていることや、ロシアによるウクライナ侵攻の影響で肥料価格が上昇していることから、施肥量が減少し、豪州の生産量は減少する可能性がある。

【貿易情報・その他】USDA によれば、史上最高の生産量や、他の主要輸出国に比べ価格競争力があることから、2021/22 年度の輸出量は、前月予測からの変更なく、27.5 百万トンと史上最高となる見込み。米国産や EU 産の輸出価格が低下する一方、サブサハラアフリカや東南アジア等からの世界的な需要により豪州産の 4 月 6 日時点の輸出価格(FOB)は、431 ドル/トンと 3 月 7 日時点の 425 ドル/トンから上昇した。

豪州統計局によれば、2 月の輸出量は、前月(2.76 百万トン)に比べ 2.83 百万トンと微増した。同月の輸出先国は、インドネシア(13%)、中国(11%)、フィリピン(11%)の順である。

なお、2021/22 年度の豪州産が史上最高となったことに加え、北米の減産、ロシアのウクライナ侵攻による需要の集中から、輸出スロットの確保が難しい状況となっており、物流の遅延や混乱、輸入国の穀物輸入コストの増加が生じている。

こうした背景から、世界最大の小麦輸入国のエジプトは、豪州産の手当てをあきらめ、インド産の手当てを行っている模様。

## 小麦－豪州 (冬小麦を主に栽培)

(単位:百万トン)

| 年 度        | 2019/20 | 2020/21<br>(見込み) | 2021/22       |               |                |
|------------|---------|------------------|---------------|---------------|----------------|
|            |         |                  | 予測値、( )はIGC   | 前月予測<br>からの変更 | 対前年度<br>増減率(%) |
| 生 産 量      | 14.5    | 33.3             | 36.3 (36.3)   | -             | 9.0            |
| 消 費 量      | 8.0     | 8.0              | 9.0 (9.5)     | -             | 12.5           |
| うち飼料用      | 4.5     | 4.5              | 5.5 (5.7)     | -             | 22.2           |
| 輸 出 量      | 9.1     | 23.9             | 27.5 (24.0)   | -             | 15.3           |
| 輸 入 量      | 0.9     | 0.2              | 0.2 (0.3)     | -             | -              |
| 期末在庫量      | 2.7     | 4.3              | 4.3 (7.4)     | -             | -              |
| 期末在庫率      | 15.6%   | 13.6%            | 11.9% (22.1%) | -             | ▲ 1.7          |
| (参考)       |         |                  |               |               |                |
| 収穫面積(百万ha) | 9.86    | 12.90            | 13.00 (13.0)  | -             | 0.8            |
| 単収(t/ha)   | 1.47    | 2.58             | 2.79 (2.79)   | -             | 8.1            |

資料: USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、  
「World Agricultural Production」(8 April 2022)  
IGC 「Grain Market Report」(17 March 2022)

図:豪州の輸出先国別輸出量(2022 年 2 月、2022 年 1 月～2 月)

| 2022年2月 |          |        | 2022年1月～2月 |            |        |
|---------|----------|--------|------------|------------|--------|
| 国名      | 輸出量(万トン) | シェア(%) | 国名         | 累積輸出量(万トン) | シェア(%) |
| インドネシア  | 35.8     | 12.6   | 中国         | 100.9      | 18.0   |
| 中国      | 32.2     | 11.4   | インドネシア     | 81.8       | 14.6   |
| フィリピン   | 31.8     | 11.2   | フィリピン      | 66.3       | 11.9   |
| ベトナム    | 28.7     | 10.1   | ベトナム       | 50.8       | 9.1    |
| マレーシア   | 17.9     | 6.3    | マレーシア      | 31.3       | 5.6    |
| その他     | 137.1    | 48.4   | その他        | 228.3      | 40.8   |
| 合計      | 283.4    | 100.0  | 合計         | 559.5      | 100.0  |

資料: 豪州統計局のデータをもとに農林水産省で加工

写真:豪州西オーストラリア州の小麦の作付(2022 年 4 月 1 日)



豪州の中央小麦地帯では小麦の播種が始まり、生産者全員が 24 時間体制で播種作業を行っている。  
3 月に熱帯性サイクロン「シャーロット」が発生。  
この降雨で、播種を始めるにあたり、必要とされる土壌水分量が供給された。

## ＜ EU27+英国 ＞ウクライナ産とうもろこしの代替として飼料用小麦需要が増加

【生育・生産状況】USDAによれば、EU27及び英国の2021/22年度の生産量は、前月予測から0.6百万トン下方修正され152.4百万トンの見込み。そのうち、EU27は前月予測から0.6百万トン下方修正され138.4百万トン、英国は前月予測からの変更はなく14.0百万トンの見込み。

2022/23年度の生育状況は、欧州中央部、北部、東部で温暖な天候と降雨が生育中の小麦に好影響を与えた。フランスからイタリアにかけては短期間であるが深刻な乾燥に見舞われ、生殖生長期の小麦にとって、降雨が必要とされている。スペイン、ポルトガルでは更なる降雨があり、生殖生長期の小麦の生育の見通しは良好である。

フランスアグリメール(2022.4.11)によれば、普通小麦及びデュラム小麦の生育状況は前年度に比べ良好で、普通小麦の生育状況を表す「とても良い～良い」の割合は前年度の86%を上回る92%であり、またデュラム小麦の「とても良い～良い」の割合は前年度の80%を上回る84%となっている。

【貿易情報・その他】USDAによれば、2021/22年度のEU27及び英国の消費量は、前月予測から0.6百万トン上方修正され、123.6百万トンの見込み。そのうち、特にEU27の飼料用消費は、ウクライナからの需要に見合ったとうもろこしの輸入ができず、その減少分を小麦が代替をすることから、前月に比べ0.5百万トン上方修正され46.0百万トンの見込み。

また、EU27の輸出量は、ここ数か月の輸出の伸び悩みにより、前月予測から3.5百万トン下方修正され、34.0百万トンの見込み。EUの主要輸出国のフランス、リトアニア、ポーランドで輸出量が減少しているが、フランスの輸出量は、アルジェリアが外交問題によりフランス産の輸入を停止したために特に減少している。また、リトアニアは収穫量の減少からナイジェリア向けの輸出が減少した。また、ポーランドもアルジェリア、サウジアラビア向けの輸出が減少している。

なお、ロシアによるウクライナ侵攻の影響で高騰した国内価格の措置として、ブルガリアとハンガリーでは、各政府がEUの規則に反する穀物輸出の制限を実施し、国家在庫の積み増しを図っている。ブルガリア政府は4月7日現在、税関は輸出を遅らせ、輸出貨物の24時間監視体制をとっている。また、小麦輸出量がEUのわずか1%であるハンガリーは、穀物の輸出を制限している。

## 小麦－EU27+英国（冬小麦を主に栽培）（単位：百万トン）

| 年 度   | 2019/20 | 2020/21<br>(見込み) | 2021/22      |         |               |                |
|-------|---------|------------------|--------------|---------|---------------|----------------|
|       |         |                  | 予測値、( ) はIGC |         | 前月予測<br>からの変更 | 対前年度<br>増減率(%) |
| 生 産 量 | 154.4   | 136.4            | 152.4        | (152.0) | ▲ 0.6         | 11.8           |
| 消 費 量 | 122.5   | 118.2            | 123.6        | (121.0) | 0.6           | 4.5            |
| うち飼料用 | 53.2    | 48.5             | 53.4         | (48.8)  | 0.5           | 10.1           |
| 輸 出 量 | 41.4    | 30.2             | 34.7         | (35.3)  | ▲ 3.5         | 14.9           |
| 輸 入 量 | 7.3     | 8.6              | 6.8          | (7.2)   | ▲ 0.3         | ▲ 20.9         |
| 期末在庫量 | 15.6    | 12.1             | 13.1         | (14.0)  | 1.8           | 8.0            |
| 期末在庫率 | 9.5%    | 8.2%             | 8.3%         | (9.0%)  | ▲ 0.1         | 0.1            |

(参考)

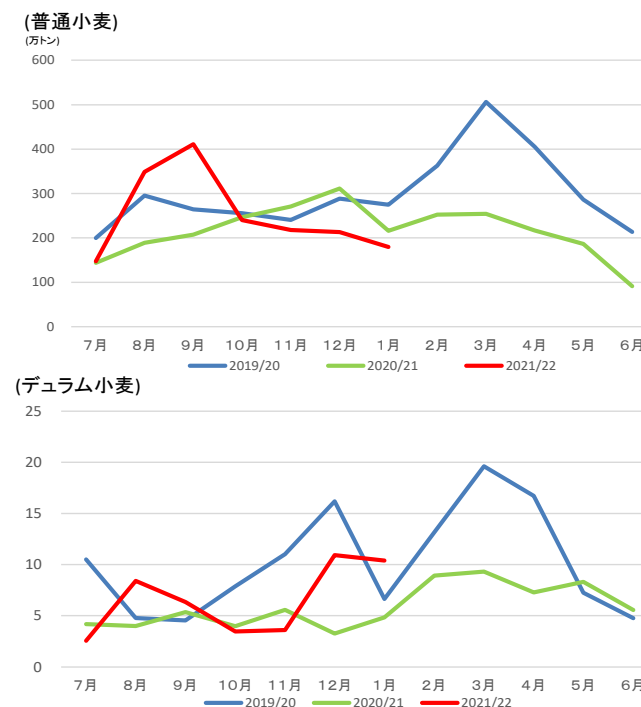
|            |       |       |       |         |        |     |
|------------|-------|-------|-------|---------|--------|-----|
| 収穫面積(百万ha) | 26.16 | 24.37 | 26.02 | (25.63) | 0.09   | 6.8 |
| 単収(t/ha)   | 5.90  | 5.59  | 5.86  | (5.93)  | ▲ 0.05 | 4.7 |

資料：USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、  
「World Agricultural Production」(8 April 2022)

IGC 「Grain Market Report」(17 March 2022)

表内及び ( ) 内のデータはEU27ヶ国+英国のデータ

## 図 EU27か国の普通小麦、デュラム小麦の輸出量の推移



資料：EC(欧州委員会), Cereals exports and imports (COMEXT) (2022/3/17) をもとに農林水産省で作成

< 中国 > 2021/22 年度の冬小麦の作柄は休眠期後に天候に恵まれ改善

【生育・生産状況】中国糧油情報センター(2022.4.8)によれば、2021/22 年度の生産量は、前月予測から変更なく 136.9 百万トンで、史上最高の見込み。作期別には、冬小麦は 131.3 百万トン、春小麦は 5.6 百万トン。なお、省別の冬小麦生産量のシェアは、河南省(26.4%)、山東省(20.0%)、安徽省(13.3%)、江蘇省(10.1%)の順。

中国中央气象台(2022.4.4)によれば、2022/23 年度の冬小麦は、多くの地域で降水に恵まれ土壌水分は十分であったものの、河北省中部、陝西省西南部等では土壌水分がわずかに不足している。また、冬小麦の生育段階は、北部の華北地域や、山東省等では、節間伸長期から茎立期、河南省、安徽省等では節間伸長期から穂孕み期となっている。一方、春小麦は、甘粛省、陝西省等で播種期から三葉期となっている。なお、中国農業農村部によると、前年度の秋の洪水により、冬小麦の播種に遅れが発生したが、休眠期後の良好な天候と中央政府及び各地方政府の生産安定措置により、冬小麦の作柄は改善しつつあり、全国の冬小麦の一、二類苗の比率は 84.7%と、休眠期前より、14.2 ポイント向上した。

【貿易情報・その他】中国糧油情報センターによれば、2021/22 年度の消費量は、飼料用が 0.6 百万トン下方修正されたものの、種子用が 0.8 百万トン上方修正されたことから、前月に比べ、0.2 百万トン上方修正され 145.3 百万トンの見込み。この飼料用需要減少の要因は、小麦ととうもろこしの価格の逆転が解消しつつあり、小麦の価格優位性が失われたことである。

また、小麦輸入量は前月に比べ、0.2 百万トン上方修正され 8.2 百万トンの見込み。中国海関統計によれば、2022 年 2 月の小麦輸入量は、春節が前年より早かった影響により前年度同期(98.1 万トン)を 31.1%下回る 67.6 万トン。2022 年 1 月から 2 月の輸入先国は、豪州(52.7%)、フランス(39.9%)の順で、この 2 カ国で全体の 92.6%を占めている。なお、2022 年 1 月から 2 月までロシアからの輸入実績はないものの、本年 2 月 4 日に、ロシア産小麦の輸入に関する植物検疫上の地域限定の撤廃に合意している。なお、2021 年の小麦輸入量全体に占めるロシア産小麦の輸入量の比率は 0.5%であった。

農業農村部「農産品供需形勢分析月報 2022 年 2 月号」によれば、3 月以降に向けて、国内小麦価格は、国内的には市場需要の改善傾向や小麦粉加工企業の仕入れの増加の一方、国際需給ギャップ拡大とウクライナ侵攻の影響で、国際価格が大幅に上昇している影響から高水準で推移すると見られている。

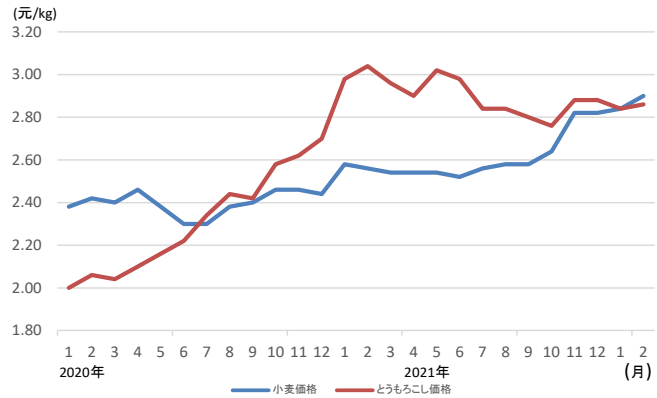
小麦—中国（冬小麦を主に栽培）

(単位: 百万トン)

| 年 度        | 2019/20 | 2020/21<br>(見込み) | 2021/22       |               |                |
|------------|---------|------------------|---------------|---------------|----------------|
|            |         |                  | 予測値、( )はIGC   | 前月予測<br>からの変更 | 対前年度<br>増減率(%) |
| 生産量        | 133.6   | 134.3            | 137.0 (137.1) | -             | 2.0            |
| 消費量        | 126.0   | 150.0            | 147.5 (142.0) | -             | ▲ 1.7          |
| うち飼料用      | 19.0    | 40.0             | 35.0 (28.4)   | -             | ▲ 12.5         |
| 輸 出 量      | 1.1     | 0.8              | 0.9 (1.3)     | -             | 18.4           |
| 輸 入 量      | 5.4     | 10.6             | 9.5 (9.6)     | -             | ▲ 10.5         |
| 期末在庫量      | 150.0   | 144.1            | 142.2 (131.8) | -             | ▲ 1.4          |
| 期末在庫率      | 118.1%  | 95.6%            | 95.8% (92.0%) | -             | 0.2            |
| (参考)       |         |                  |               |               |                |
| 収穫面積(百万ha) | 23.73   | 23.38            | 23.57 (23.8)  | -             | 0.8            |
| 単収(t/ha)   | 5.63    | 5.74             | 5.81 (5.76)   | -             | 1.2            |

資料: USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、  
「World Agricultural Production」(8 April 2022)  
IGC 「Grain Market Report」(17 March 2022)

図 中国国内の小麦及びとうもろこしの卸売価格の推移



注: 小麦: 河南省鄭州市食料卸売市場の卸売価格、とうもろこし: 全国平均卸売価格

資料: 中国国家糧油情報センター

表 中国の小麦輸入先国別輸入量 (万トン)

| 国名     | 2022年2月<br>輸入量 | シェア(%) | 国名     | 2022年1~2月<br>累計輸入量 | シェア(%) | 国名     | 2021年<br>輸入量 | シェア(%) |
|--------|----------------|--------|--------|--------------------|--------|--------|--------------|--------|
| フランス   | 36.9           | 54.6   | 豪州     | 114.6              | 52.7   | 豪州     | 273.4        | 28.1   |
| 豪州     | 29.3           | 43.3   | フランス   | 86.8               | 39.9   | 米国     | 272.6        | 28.1   |
| カナダ    | 1.2            | 1.8    | カナダ    | 15.6               | 7.2    | カナダ    | 254.0        | 26.1   |
| カザフスタン | 0.1            | 0.2    | カザフスタン | 0.4                | 0.2    | フランス   | 141.6        | 14.6   |
| 米国     | 0.0            | 0.0    | 米国     | 0.0                | 0.0    | カザフスタン | 18.7         | 1.9    |
| その他    | 0.0            | 0.0    | その他    | 0.0                | 0.0    | その他    | 11.5         | 1.2    |
| 合計     | 67.6           | 100.0  | 合計     | 217.5              | 100.0  | 合計     | 971.8        | 100.0  |

資料: 中国海関統計(2022.3.20)をもとに農林水産省で作成

## < ロシア > 輸出の継続から輸出量は1.0百万トン上方修正

【生育・生産状況】USDAによれば、2021/22年度の生産量(クリミア地域分を含まず)が、前月予測から変更なく、75.2百万トンと前年度に比べ11.9%減の見込み。

2022/23年度の冬穀物の生育状況は、ロシアヨーロッパ部の北部(中央連邦管区等)ではおおむね並みであるものの、北西部では立ち枯れの懸念もある。また、南部(南連邦管区等)の大部分では生長が再開された。一方、春小麦は、南部で作付けが開始されており、ロシア農業省の速報値によれば、播種面積は、4月8日時点で前年同期の約2倍の0.02百万ヘクタール、播種進捗率は0.2%である。

【貿易情報・その他】USDAによれば、2021/22年度の輸出量は、経済制裁や輸出税にもかかわらず、競争力のある輸出価格で黒海からの輸出が継続されていることから、1.0百万トン上方修正されたものの、前年度より15.6%減少の33.0百万トンの見込み。

なお、ロシア政府は3月14日に、2022年3月15日から6月30日までの間、ユーラシア経済同盟加盟国への小麦、大麦、とうもろこしの輸出を禁止(その後許可制に移行)し、非加盟国向けの輸出枠外の輸出も禁止した。

現地情報会社によれば、多くの輸出業者が保有する輸出枠の消化や、輸出経路がアゾフ海の港から黒海の港経由へシフトすることにより、船の手配が難しくなり、手続等に時間がかかるため、4月の輸出量は3月より減少する見通し。

一方、ロシアによるウクライナ侵攻などによる小麦価格の高騰から、ロシアの主要輸出先国であるエジプトとトルコの輸入量は、前月に比べそれぞれ0.5百万トン下方修正され、12.0百万トン、9.5百万トンの見込み。現地の情報会社によれば、ロシアの主要輸出先である中近東、北アフリカ諸国では、予想ほどロシア産からEU産へのシフトは進んでいない。

4月6日時点のロシア産の輸出価格(FOB)は、冬穀物の良好な生育状況や、黒海からの継続的な輸出から前月(3月7日)より10ドル/トン下げ、395ドル/トンと小麦主要輸出国の中で最安値となった。

なお、可変輸出関税額は、前年8月末から上昇を続け、12月中旬以降90ドル/トンを超えた。その後、税額は9週連続して下落し3月中旬には80ドル/トン台で推移したものの、4月中旬には初めて100ドル/トンを超えた。

## 小麦ーロシア(主産地の欧州部で冬小麦、シベリアで春小麦を栽培)

(単位:百万トン)

| 年 度        | 2019/20 | 2020/21<br>(見込み) | 2021/22       |           |            |  |
|------------|---------|------------------|---------------|-----------|------------|--|
|            |         |                  | 予測値、( )はIGC   | 前月予測からの変更 | 対前年度増減率(%) |  |
| 生産量        | 73.6    | 85.4             | 75.2 (75.0)   | -         | ▲ 11.9     |  |
| 消費量        | 40.0    | 42.5             | 41.8 (42.4)   | -         | ▲ 1.8      |  |
| うち飼料用      | 17.0    | 19.0             | 18.5 (18.0)   | -         | ▲ 2.6      |  |
| 輸出量        | 34.5    | 39.1             | 33.0 (32.0)   | 1.0       | ▲ 15.6     |  |
| 輸入量        | 0.3     | 0.4              | 0.3 (0.2)     | -         | ▲ 25.0     |  |
| 期末在庫量      | 7.2     | 11.4             | 12.1 (13.7)   | ▲ 1.0     | 6.2        |  |
| 期末在庫率      | 9.7%    | 13.9%            | 16.2% (18.4%) | ▲ 1.6     | 2.2        |  |
| (参考)       |         |                  |               |           |            |  |
| 収穫面積(百万ha) | 27.31   | 28.68            | 27.63 (28.0)  | -         | ▲ 3.7      |  |
| 単収(t/ha)   | 2.70    | 2.98             | 2.72 (2.68)   | -         | ▲ 8.7      |  |

資料: USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、  
「World Agricultural Production」(8 April 2022)  
IGC 「Grain Market Report」(17 March 2022)

図 ロシアの最近3か年の月別小麦輸出量の推移

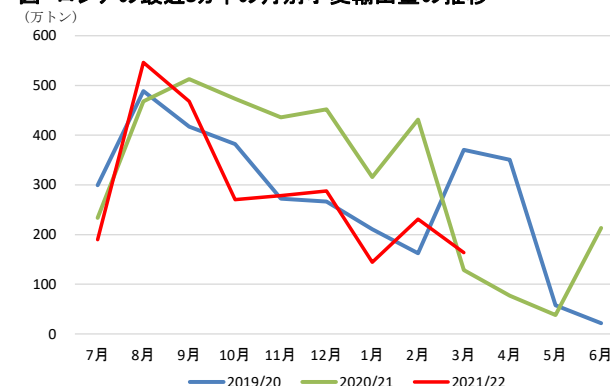


表 ロシアの小麦輸出先国

(2022年3月、2021年7月～2022年3月)

| 2022年3月 |              |              | 2021年7月～2022年3月 |              |              |
|---------|--------------|--------------|-----------------|--------------|--------------|
| 国 名     | 輸出量<br>(万トン) | 輸出シェア<br>(%) | 国 名             | 輸出量<br>(万トン) | 輸出シェア<br>(%) |
| イラン     | 33.1         | 20.2         | イラン             | 535.7        | 20.8         |
| エジプト    | 30.5         | 18.6         | トルコ             | 466.6        | 18.1         |
| トルコ     | 24.9         | 15.2         | エジプト            | 408.8        | 15.9         |
| イスラエル   | 4.5          | 2.8          | アゼルバイジャン        | 80.0         | 3.1          |
| リビア     | 3.5          | 2.1          | サウジアラビア         | 71.5         | 2.8          |
| その他     | 67.1         | 41.0         | その他             | 1,015.9      | 39.4         |
| 計       | 163.6        | 100.0        | 計               | 2,578.5      | 100.0        |

資料: ロシア税関統計をもとに農林水産省で作成

＜ウクライナ＞ ロシアの侵攻により穀物の播種面積は減少

【生育・生産状況】USDAによれば、2021/22年度の生産量は、前月予測からの変更はなく、大幅な減産となった前年度より29.8%増加し、史上最高の33.0百万トンの見込み。

2022/23年度の冬小麦の生育状況は、低温の影響で生長再開日は平年より6日遅い3月29日であった。作柄は、おおむね良好から並みの状態。休眠終了後の生長段階は出芽期から分げつ期であった。4月9日、ウクライナ農業政策食料省は、州内のほぼ全域で戦闘が行われているルガンスク州を除く23州で2022/23年度の春小麦の播種が開始されたと発表。4月11日現在の春小麦の播種面積は前年度同期(0.12百万ヘクタール)並みの0.13百万ヘクタール。

ウクライナ農業政策食料省次官は4月11日、2022/23年度は穀物の播種予定面積の70%で播種ができる見込みと発言。一方、現地情報会社によれば、紛争により穀物の播種面積は冬穀物で前年度対比41%、春穀物で39%の減少が見込まれる。このうち、春小麦の播種面積の減少分は23%と見られている。なお、播種作業では、播種の準備資金の調達(紛争により穀物在庫の売却が困難)、港湾の閉鎖や道路等の輸送インフラの破壊、運転手不足等による資材(種子、肥料、燃料等)搬送・確保等が困難となっている。

なお、ウクライナ穀物協会は4月11日、穀物全体で5.0百万ヘクタールの播種または収穫が不可能と予測し、2022/23年度の小麦の生産量を18.2百万トン(2021/22年度33.0百万トン)と発表。【貿易状況・その他】USDAによれば、2021/22年度の輸出量は、黒海の港湾がロシアの侵攻により2月最終週から閉鎖されたことにより、前月予測から1.0百万トン下方修正され19.0百万トン(対前年度比12.8%増)の見込み。なお、これまでに同年度の輸出量予測の大部分はすでに輸出されている。

現在の輸出状況は、黒海の港湾の閉鎖により主にEU諸国へ陸路輸送(鉄道等)が行われており、輸送能力は月に0.6百万トンと見られている。現地情報によれば、ウクライナとEUのレール幅の相違による物流の遅れが発生しているが、ウクライナ鉄道総裁によれば、将来的に西側国境の輸送能力の拡大、農業従事者への燃料や肥料輸送の強化に注力するとしている。

ウクライナ穀物協会によれば、2022/23年度の輸出量は10.0百万(2021/22年度は19.0百万トン)の見込み。

小麦－ウクライナ (主に冬小麦を栽培) (単位:百万トン)

| 年 度        | 2019/20 | 2020/21<br>(見込み) | 2021/22     |         |               |                |
|------------|---------|------------------|-------------|---------|---------------|----------------|
|            |         |                  | 予測値、( )はIGC |         | 前月予測<br>からの変更 | 対前年度<br>増減率(%) |
| 生 産 量      | 29.2    | 25.4             | 33.0        | (33.0)  | -             | 29.8           |
| 消 費 量      | 8.3     | 8.7              | 10.0        | (8.6)   | 0.4           | 14.9           |
| うち飼料用      | 2.2     | 2.6              | 4.0         | (2.4)   | 0.5           | 53.8           |
| 輸 出 量      | 21.0    | 16.9             | 19.0        | (20.8)  | ▲ 1.0         | 12.8           |
| 輸 入 量      | 0.1     | 0.1              | 0.1         | (0.1)   | -             | ▲ 23.1         |
| 期末在庫量      | 1.5     | 1.5              | 5.6         | (5.3)   | 0.6           | 271.5          |
| 期末在庫率      | 5.1%    | 5.9%             | 19.3%       | (17.8%) | 2.4           | 13.4           |
| (参考)       |         |                  |             |         |               |                |
| 収穫面積(百万ha) | 7.02    | 6.85             | 7.40        | (7.42)  | -             | 8.0            |
| 単収(t/ha)   | 4.16    | 3.71             | 4.46        | (4.45)  | -             | 20.2           |

資料: USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、  
「World Agricultural Production」(8 April 2022)  
IGC 「Grain Market Report」(17 March 2022)

図 ウクライナの小麦、とうもろこしの輸出量

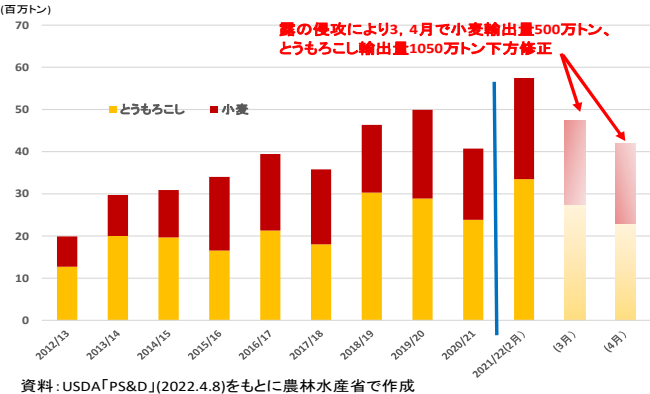


表 ウクライナの小麦輸出先国 (2022年2月、2021年7月～2022年2月)

| 2022年2月 |              |              | 2021年7月～2022年2月 |              |              |
|---------|--------------|--------------|-----------------|--------------|--------------|
| 国 名     | 輸出量<br>(万トン) | 輸出シェア<br>(%) | 国 名             | 輸出量<br>(万トン) | 輸出シェア<br>(%) |
| エジプト    | 23.1         | 22.2         | エジプト            | 273.8        | 15.1         |
| トルコ     | 18.3         | 17.6         | インドネシア          | 265.5        | 14.7         |
| パキスタン   | 10.6         | 10.2         | トルコ             | 178.7        | 9.9          |
| イエメン    | 8.7          | 8.4          | パキスタン           | 146.9        | 8.1          |
| アルジェリア  | 7.7          | 7.4          | サウジアラビア         | 75.1         | 4.1          |
| その他     | 35.6         | 34.2         | その他             | 871.3        | 48.1         |
| 計       | 104.0        | 100.0        | 計               | 1,811.3      | 100.0        |

資料: ウクライナ税関統計をもとに農林水産省で作成

## 2 とうもろこし

### (1) 国際的なとうもろこし需給の概要（詳細は右表を参照）

<米国農務省（USDA）の見通し> 2021/22 年度

**生産量** 前年度比 ↑ 前月比 ↑

・ブラジル、インドネシア、パキスタン等で上方修正され、前月から上方修正された。史上最高の見込み。

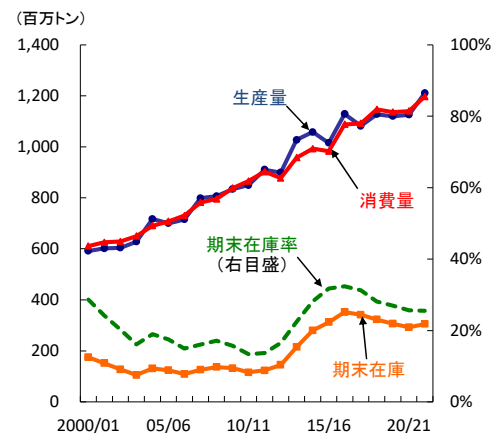
**消費量** 前年度比 ↑ 前月比 ↑

・中国等で下方修正も、ウクライナ等で上方修正され、前月から上方修正された。史上最高の見込み。

**輸出量** 前年度比 ↑ 前月比 ↓

・ブラジル等で上方修正も、ウクライナ等で下方修正され、前月から下方修正された。史上最高の見込み。

**期末在庫量** 前年度比 ↑ 前月比 ↑



資料：USDA「PS&D」（2022.4.8）をもとに農林水産省にて作成

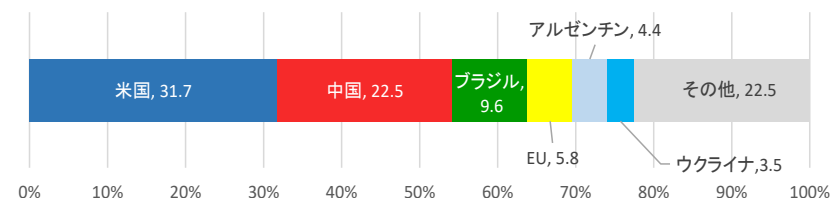
## ◎世界のとうもろこし需給

(単位：百万トン)

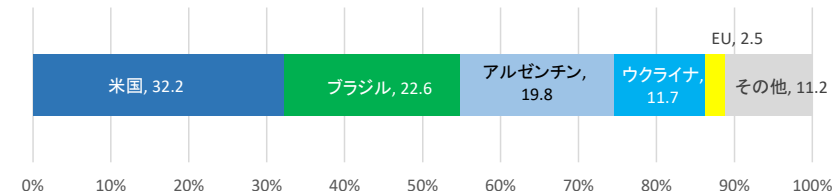
| 年 度   | 2019/20 | 2020/21<br>(見込み) | 2021/22 |               |                |
|-------|---------|------------------|---------|---------------|----------------|
|       |         |                  | 予測値     | 前月予測からの<br>変更 | 対前年度<br>増減率(%) |
| 生 産 量 | 1,120.1 | 1,125.9          | 1,210.5 | 4.3           | 7.5            |
| 消 費 量 | 1,136.2 | 1,140.1          | 1,197.2 | 0.5           | 5.0            |
| うち飼料用 | 716.0   | 722.9            | 752.6   | ▲ 0.8         | 4.1            |
| 輸 出 量 | 172.3   | 182.1            | 197.0   | ▲ 2.9         | 8.2            |
| 輸 入 量 | 167.7   | 185.6            | 182.1   | ▲ 3.5         | ▲ 1.9          |
| 期末在庫量 | 306.4   | 292.2            | 305.5   | 4.5           | 4.6            |
| 期末在庫率 | 27.0%   | 25.6%            | 25.5%   | 0.4           | ▲ 0.1          |

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」(8 April 2022)

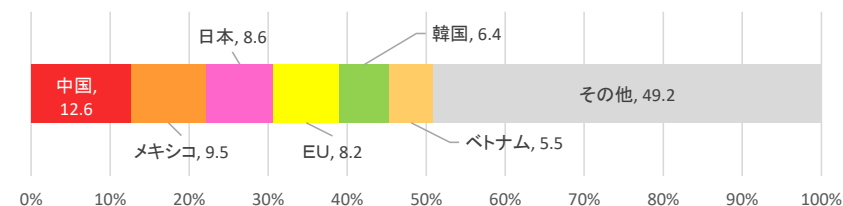
### ○ 2021/22 年度 世界のとうもろこしの生産量(1,210.5百万トン) (単位：%)



### ○ 2021/22 年度 世界のとうもろこしの輸出量(197.0百万トン)



### ○ 2021/22 年度 世界のとうもろこしの輸入量(182.1百万トン)



## （２）国別のとうもろこしの需給動向

### ＜ 米国 ＞ 生産量史上第２位、エタノール用需要増、輸出減の見通し

【生育・生産状況】３月末に USDA から発表された作付意向面積調査によれば、2022/23 年度の作付面積は 36.2 百万ヘクタールで前年度より 4.1%減の見込み。大豆と比べ肥料の投入量が多いことから、肥料価格高騰の影響もあり市場の事前予想を下回った。

USDA「Crop Progress」(2022.4.18)によれば、４月前半の中西部の低温多湿な天候により、2022/23 年度の作付け進捗率は４％と、前年度同期（７％）及び過去５年平均（６％）より遅れている。

なお、2021/22 年度の生産量は、前月予測からの変更はなく、史上最高の単収となったことから前年度より 7.1%増の 383.9 百万トンと 2016/17 年度に次ぐ史上第２位の見込み。

【需要状況】USDA によれば、2021/22 年度の消費量は、飼料用需要が前年 12 月から２月の実績を反映し前月予測から 0.6 百万トン下方修正された一方、エタノール用需要が３月までの旺盛なエタノール生産データを反映し前月予測から 0.6 百万トン上方修正されたことから、消費量全体では前月予測からの変更はなく、前年度より 3.0%増の 315.9 百万トンで史上最高の見込み。

【貿易情報・その他】USDA によれば、2021/22 年度の輸出量は、前月予測からの変更はなく、史上最高の輸出量となった前年度より 9.2%減の 63.5 百万トンの見込み。

USDA によれば、2022 年輸出検証高(2022 年 1 月 6 日～3 月 31 日)は、17.3 百万トンであり、内訳は中国（5.0 百万トン）、メキシコ（4.0 百万トン）、日本（3.5 百万トン）、コロンビア（1.4 百万トン）の順である。

USDA によれば、2021/22 年度の期末在庫量は、前月予測からの変更はなく、前年度より 16.6%増の 36.6 百万トンの見込み。なお、期末在庫率は 9.6%で依然として低水準の見込み。

## とうもろこし－米国

(単位：百万トン)

| 年 度     | 2019/20 | 2020/21<br>(見込み) | 2021/22 |               |                |
|---------|---------|------------------|---------|---------------|----------------|
|         |         |                  | 予測値     | 前月予測から<br>の変更 | 対前年度<br>増減率(%) |
| 生 産 量   | 346.0   | 358.5            | 383.9   | －             | 7.1            |
| 消 費 量   | 309.6   | 306.5            | 315.9   | －             | 3.0            |
| うち飼料用   | 149.9   | 142.2            | 142.9   | ▲ 0.6         | 0.5            |
| エタノール用等 | 123.4   | 127.8            | 136.5   | 0.6           | 6.8            |
| 輸 出 量   | 45.1    | 69.9             | 63.5    | －             | ▲ 9.2          |
| 輸 入 量   | 1.1     | 0.6              | 0.6     | －             | 3.2            |
| 期末在庫量   | 48.8    | 31.4             | 36.6    | －             | 16.6           |
| 期末在庫率   | 13.7%   | 8.3%             | 9.6%    | －             | 1.3            |

(参考)

|            |       |       |       |   |     |
|------------|-------|-------|-------|---|-----|
| 収穫面積(百万ha) | 32.92 | 33.31 | 34.56 | － | 3.8 |
| 単収(t/ha)   | 10.51 | 10.76 | 11.11 | － | 3.3 |

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、  
「World Agricultural Production」(8 April 2022)

図：米国、ブラジル、アルゼンチンのとうもろこし輸出価格（FOB）の推移



## ＜ ブラジル ＞ 冬とうもろこしの作付面積拡大により、生産量史上最高の見通し

【生育・生産状況】USDAによれば、2021/22年度の生産量は、夏とうもろこしは南部の主要産地で前年11月から2月に高温・乾燥の影響を受けたものの、冬とうもろこしは例年より早く作付けが終了し、主要生産州のマット・グロッソ州、パラナ州で作付面積が拡大した上、作付け以降の天候にも恵まれていることから、前月予測から2.0百万トン上方修正され、前年度より33.3%増の116.0百万トンとなり、史上最高の見込み。

ブラジル食料供給公社(CONAB)月例報告(2022.4.7)によれば、2021/22年度の収穫終盤の夏とうもろこしの生産量は、前年度比0.6%増の24.9百万トンの見込み。一方、生育期を迎えた冬とうもろこしの生産量は、良好な天候に恵まれ、干ばつ・霜害の影響で大幅減産となった前年度に比べ45.4%増の90.7百万トンが見込まれ、合計では前年度比32.7%増の115.6百万トンで史上最高の見込み。(P.23 大豆ーブラジルのクロップカレンダー参照)。

南部のパラナ州で4月12日現在、夏とうもろこしの収穫進捗率は92%。同州では冬とうもろこしの作付けは終了し、40%以上が生殖生長段階に入っている。南部のオ・グランデ・ド・スール州で4月14日現在、夏とうもろこしの収穫進捗率は80%。

【需要状況】USDAによれば、2021/22年度の消費量は、生産量の上方修正に伴い前月予測から0.5百万トン上方修正され、飼料用消費の増加に伴い、前年度より5.0%増の73.0百万トンと史上最高の見込み。

【貿易情報・その他】USDAによれば、2021/22年度の輸出量は、生産量の上方修正に伴い前月予測から1.5百万トン上方修正され、大幅減産となった前年度の2.1倍の44.5百万トンで史上最高の見込み。

ブラジル貿易統計によれば、2022年1～3月の輸出量は3.5百万トンで、前年同期(3.4百万トン)と比べ3.0%増となっている。内訳は、1位がイラン72万トン、2位がエジプト70万トン、3位が韓国58万トン。

## とうもろこしーブラジル

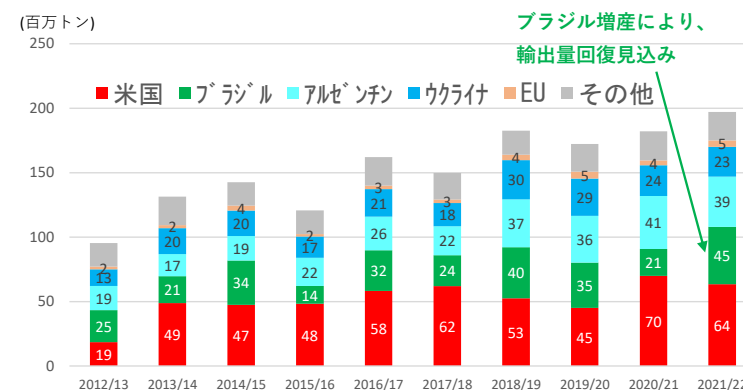
(大豆収穫後に栽培する冬とうもろこしが3/4を占め、夏とうもろこしは1/4)

(単位: 百万トン)

| 年 度        | 2019/20 | 2020/21<br>(見込み) | 2021/22       |               |                |  |
|------------|---------|------------------|---------------|---------------|----------------|--|
|            |         |                  | 予測値、( ) はIGC  | 前月予測<br>からの変更 | 対前年度<br>増減率(%) |  |
| 生 産 量      | 102.0   | 87.0             | 116.0 (111.5) | 2.0           | 33.3           |  |
| 消 費 量      | 68.5    | 69.5             | 73.0 (73.2)   | 0.5           | 5.0            |  |
| うち飼料用      | 58.5    | 59.0             | 62.0 (52.9)   | 0.5           | 5.1            |  |
| 輸 出 量      | 35.1    | 21.0             | 44.5 (38.5)   | 1.5           | 111.7          |  |
| 輸 入 量      | 1.7     | 2.9              | 2.0 (0.7)     | -             | ▲ 29.8         |  |
| 期末在庫量      | 5.3     | 4.7              | 5.2 (6.4)     | ▲ 0.1         | 10.8           |  |
| 期末在庫率      | 5.1%    | 5.1%             | 4.4% (5.7%)   | ▲ 0.1         | ▲ 0.8          |  |
| (参考)       |         |                  |               |               |                |  |
| 収穫面積(百万ha) | 18.50   | 19.90            | 21.10 (20.90) | 0.30          | 6.0            |  |
| 単収(t/ha)   | 5.51    | 4.37             | 5.50 (5.34)   | 0.02          | 25.9           |  |

資料: USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、  
「World Agricultural Production」(8 April 2022)  
IGC 「Grain Market Report」(17 March 2022)

図: 世界のとうもろこし輸出国の輸出量の推移



資料: USDA 「PS&D」 (2022.4.8) のデータをもとに農林水産省にて作成

## < アルゼンチン > 高温・乾燥も、生産量史上最高、輸出税は継続

【生育・生産状況】USDA によれば、2021/22 年度の実産量は、前月予測からの変更はなく、2 月までの高温・乾燥による単収低下の一方、収穫面積の増加により、前年度より 1.9%増の 53.0 百万トンと史上最高の見込み。

ブエノスアイレス穀物取引所週報（2022.4.13）によれば、収穫進捗率は 19%で、最近の降雨により過去 5 年平均より 6 ポイント遅れている。作柄は良からやや良が 78%と前週（76%）より改善。

【需要状況】USDA によれば、2021/22 年度の実消費量は、前月予測からの変更はなく、飼料用消費の増加に伴い、前年度より 3.7%増の 14.0 百万トンと史上最高の見込み。

【貿易情報・その他】USDA によれば、2021/22 年度の実輸出量は、前月予測から変更はなく、前年度より 4.7%減の 39.0 百万トンの見込み。

アルゼンチン国家統計局によれば、2022 年 1～2 月の輸出量は 3.6 百万トンで、前年同期（2.8 百万トン）より 30.1%増。内訳は、1 位がマレーシア 46 万トン、2 位がペルー 44 万トン、3 位が韓国 39 万トン。輸入国での新型コロナウイルス感染症に対するロックダウンや巣ごもりなどの規制の緩和により輸出は前年に比べ好調である。なお、前年 7 月 26 日に発令された 180 日間のパラナ川の渇水の緊急事態宣言は前年末に終了したものの、パラナ川の水位は依然として低下傾向が続き、アルゼンチンの穀物等の輸出への影響に引き続き注視が必要である。

アルゼンチン政府は、財政赤字の補填等のため、2019 年 12 月 14 日、輸出税を約 7%から 12%へ引き上げ、その後継続している。

2021 年 12 月 17 日、アルゼンチン農牧漁業大臣が 2021/22 年度のとうもろこしと小麦の輸出に関し、輸出上限数量を設定することを表明。同省プレスによれば、とうもろこしの輸出上限数量は 4,160 万トンで国内需給に影響しない量としている。

## とうもろこしーアルゼンチン

（単位：百万トン）

| 年 度        | 2019/20 | 2020/21<br>(見込み) | 2021/22       |               |                |     |
|------------|---------|------------------|---------------|---------------|----------------|-----|
|            |         |                  | 予測値、( ) は IGC | 前月予測<br>からの変更 | 対前年度<br>増減率(%) |     |
| 生 産 量      | 51.0    | 52.0             | 53.0 (57.0)   | -             | -              | 1.9 |
| 消 費 量      | 13.5    | 13.5             | 14.0 (20.9)   | -             | -              | 3.7 |
| うち飼料用      | 9.5     | 9.5              | 10.0 (16.0)   | -             | -              | 5.3 |
| 輸 出 量      | 36.3    | 40.9             | 39.0 (35.8)   | -             | ▲              | 4.7 |
| 輸 入 量      | 0.0     | 0.0              | 0.0 (0.0)     | -             | -              | -   |
| 期末在庫量      | 3.6     | 1.2              | 1.2 (4.0)     | 0.2           | -              | 0.8 |
| 期末在庫率      | 7.3%    | 2.2%             | 2.2% (7.1%)   | 0.3           | -              | 0.1 |
| (参考)       |         |                  |               |               |                |     |
| 収穫面積(百万ha) | 6.30    | 6.55             | 7.00 (8.30)   | -             | -              | 6.9 |
| 単収(t/ha)   | 8.10    | 7.94             | 7.57 (6.87)   | -             | ▲              | 4.7 |

資料：USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、  
「World Agricultural Production」(8 April 2022)  
IGC 「Grain Market Report」(17 March 2022)

## 写真：北部サンタフェ州のとうもろこしの収穫風景 （3月19日撮影）



## < 中国 > 生産量史上最高、消費量も史上最高の見通し

【生育・生産状況】USDAによれば、2021/22年度の生産量は、前月予測からの変更はなく、大豆から収益性の良いとうもろこしの作付けにシフトしたことで収穫面積が増加したことから、前年度より4.6%増の272.6百万トンと史上最高の見込み。なお、中国中央気象台週報(2022.4.4)によれば、3月末時点で2022/23年度の春とうもろこしは四川省等で播種期から三葉期にある。主産地の東北地区での播種は始まっていない。

【需要状況】USDAによれば、2021/22年度の消費量は、輸入量の下方修正に伴い、前月予測から3.0百万トン下方修正されたものの、旺盛な飼料用消費から前年度より2.1%増の291.0百万トンと史上最高の見込み。

【貿易情報・その他】USDAによれば、2021/22年度の輸入量は、主要輸入先のウクライナ産の輸入量の減少を他の輸出国が完全に代替することは困難なため、前月予測から3.0百万トン下方修正され、前年度より22.1%減の23.0百万トンの見込み。なお、2020/21年度の輸入量は、29.5百万トンと史上最高の見込み。

中国の貿易統計によれば、2022年1～2月の輸入量は4.7百万トンで、春節が前年より早かった影響により前年同期比で2.3%減。内訳は、ウクライナ産2.6百万トン(56%)、米国産1.9百万トン(41%)。

農業農村部「農産品供需形勢分析月報2022年2月号」によると、2月の国内流通価格は、春節以降、とうもろこし加工企業や販売業者が積極的に在庫を補充したことで農家の手元在庫は徐々に減少したこと、ロシアのウクライナ侵攻により、国内産の先物価格が上昇したことで、現物価格が支えられ、2,820元/トンと前月(2,800元/トン)からやや上昇した。また、2月の外国産価格は2,640元/トンと前月(2,540元/トン)から大幅に上昇した。今後の中国の輸入動向に注視が必要である。

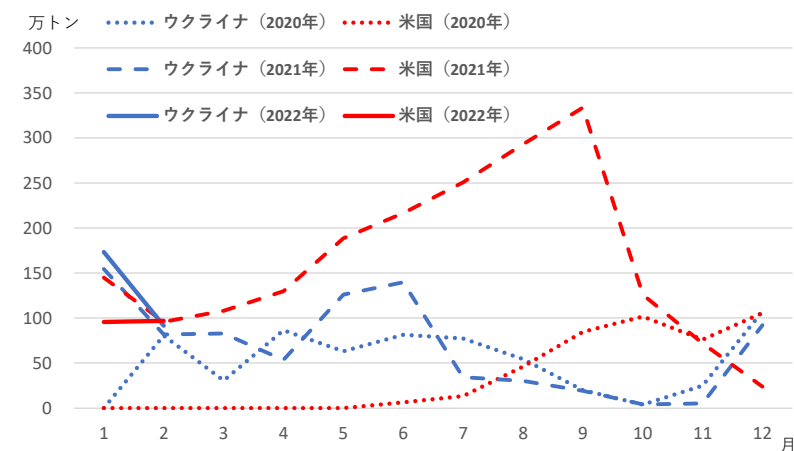
## とうもろこしー中国

(単位: 百万トン)

| 年 度        | 2019/20 | 2020/21<br>(見込み) | 2021/22      |         |               |                |
|------------|---------|------------------|--------------|---------|---------------|----------------|
|            |         |                  | 予測値、( ) はIGC |         | 前月予測<br>からの変更 | 対前年度<br>増減率(%) |
| 生産量        | 260.8   | 260.7            | 272.6        | (272.6) | -             | 4.6            |
| 消費量        | 278.0   | 285.0            | 291.0        | (295.2) | ▲ 3.0         | 2.1            |
| うち飼料用      | 193.0   | 203.0            | 211.0        | (193.0) | ▲ 3.0         | 3.9            |
| 輸出量        | 0.0     | 0.0              | 0.0          | (0.1)   | -             | -              |
| 輸入量        | 7.6     | 29.5             | 23.0         | (16.5)  | ▲ 3.0         | ▲ 22.1         |
| 期末在庫量      | 200.5   | 205.7            | 210.2        | (188.2) | -             | 2.2            |
| 期末在庫率      | 72.1%   | 72.2%            | 72.2%        | (63.7%) | 0.7           | 0.1            |
| (参考)       |         |                  |              |         |               |                |
| 収穫面積(百万ha) | 41.28   | 41.26            | 43.32        | (43.32) | -             | 5.0            |
| 単収(t/ha)   | 6.32    | 6.32             | 6.29         | (6.29)  | -             | ▲ 0.5          |

資料: USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、  
「World Agricultural Production」(8 April 2022)  
IGC 「Grain Market Report」(17 March 2022)

## 図：中国におけるウクライナ・米国産とうもろこしの輸入状況



出典: 中国海関統計

注: 2020年1月分と2月分は合計で公表されたため、便宜上1/2で按分

## ＜ ウクライナ ＞ 侵攻による黒海の港閉鎖の影響等で輸出量 450 万トン下方修正

【生育・生産状況】USDA によれば、2021/22 年度の生産量は、前月予測からの変更はなく、干ばつの影響で大幅減産となった前年度に比べ単収が増加したことから、前年度より 38.3%増の 41.9 百万トンと史上最高の見込み。

ウクライナ農業政策食料省によれば、4 月 11 日時点の 2022/23 年度の播種済面積は 5.0 万ヘクタールで中央部や北部の州を中心に前年同期（3.6 万ヘクタール）より進んでいる。また、ウクライナ穀物協会の 4 月 11 日付けプレスリリースによれば、2022/23 年度の実生産量予測は 23.1 百万トン（前年度 37.6 百万トン）で輸出量は 20.0 百万トンの見込み。

【需要状況】USDA によれば、2021/22 年度の消費量は、輸出量の下方向修正を一部代替する形で前月予測から 2.3 百万トン上方修正され、前年度より 85.9%増の 13.2 百万トンと史上最高の見込み。

【貿易情報・その他】USDA によれば、2021/22 年度の輸出量は、ロシアの侵攻開始以降黒海の港が閉鎖された影響等から前月見通しで 6.0 百万トン下方修正された上に、さらに前月予測から 4.5 百万トン下方修正され、前年度より 3.6%減の 23.0 百万トンの見込み。

USDA「Feed Outlook」（2022.4.12）によれば、ロシアはウクライナの主要輸出ルートの黒海の港を封鎖し、海上保険会社は黒海を高リスク地域に指定。ウクライナは欧州へ鉄道や隣接国の港経由で輸出を試みている。ウクライナの穀物コストは上昇し、価格競争力が低下するものの、代替手段での追加輸出はある程度可能とみられる。

ウクライナの貿易統計によれば、2021 年 10 月～2022 年 2 月の輸出量は 17.9 百万トン。内訳は、中国 5.5 百万トン（31%）、スペイン 2.6 百万トン（14%）、エジプト 1.3 百万トン（8%）、オランダ 1.3 百万トン（7%）となっている。

USDA によれば、2021/22 年度の期末在庫量は、輸出量の下方向修正が消費量の上方修正を上回ることから、前月予測から 2.2 百万トン上方修正され、前年度より約 7 倍の 6.6 百万トンの見込み。

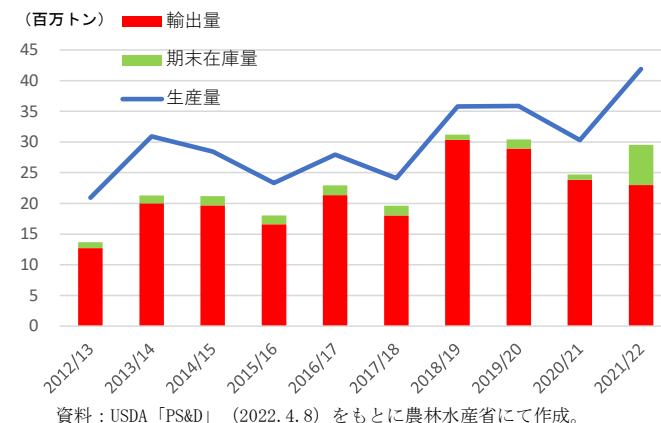
## とうもろこしーウクライナ

（単位：百万トン）

| 年 度        | 2019/20 | 2020/21<br>(見込み) | 2021/22       |               |                |
|------------|---------|------------------|---------------|---------------|----------------|
|            |         |                  | 予測値、( ) は IGC | 前月予測<br>からの変更 | 対前年度<br>増減率(%) |
| 生産量        | 35.9    | 30.3             | 41.9 (41.9)   | -             | 38.3           |
| 消費量        | 6.4     | 7.1              | 13.2 (9.8)    | 2.3           | 85.9           |
| うち飼料用      | 5.2     | 5.9              | 12.0 (6.5)    | 2.3           | 103.4          |
| 輸出量        | 28.9    | 23.9             | 23.0 (21.7)   | ▲ 4.5         | ▲ 3.6          |
| 輸入量        | 0.0     | 0.0              | 0.0 (0.0)     | -             | -              |
| 期末在庫量      | 1.5     | 0.8              | 6.6 (12.4)    | 2.2           | 689.2          |
| 期末在庫率      | 4.2%    | 2.7%             | 18.1% (39.4%) | 6.8%          | 15.4           |
| (参考)       |         |                  |               |               |                |
| 収穫面積(百万ha) | 4.99    | 5.40             | 5.47 (5.46)   | -             | 1.3            |
| 単収(t/ha)   | 7.19    | 5.62             | 7.67 (7.67)   | -             | 36.5           |

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、  
「World Agricultural Production」(8 April 2022)  
IGC「Grain Market Report」(17 March 2022)

図：ウクライナ産とうもろこしの生産量、輸出量、期末在庫量の推移



### 3 コメ

#### (1) 国際的なコメ需給の概要（詳細は右表を参照）

<米国農務省（USDA）の見通し>

生産量 前年度比 ↑ 2021/22 年度 前月比 ↓

・インドネシア等で下方修正され、前月から下方修正された。史上最高の見込み。

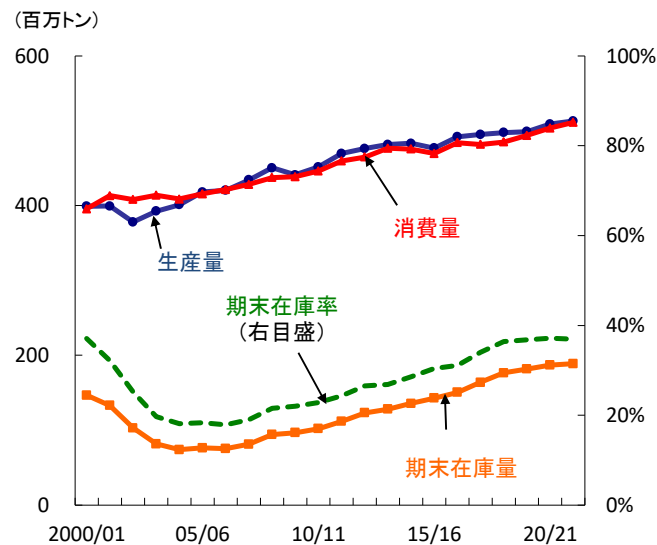
消費量 前年度比 ↑ 前月比 ↑

・インドネシア等で下方修正も、中国等で上方修正され、前月から上方修正された。史上最高の見込み。

輸出量 前年度比 ↑ 前月比 ↑

・インド、タイ等で上方修正され、前月から上方修正された。史上最高の見込み。

期末在庫量 前年度比 ↑ 前月比 ↓



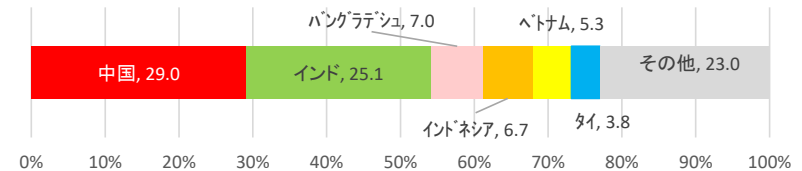
#### ◎世界のコメ需給

(単位：百万精米トン)

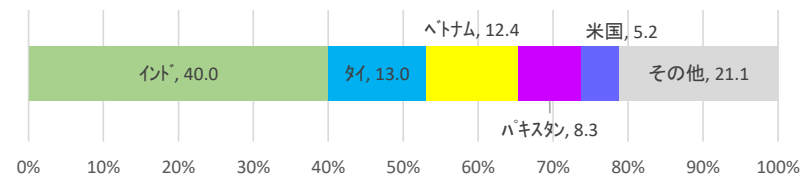
| 年 度   | 2019/20 | 2020/21<br>(見込み) | 2021/22 |               |                |
|-------|---------|------------------|---------|---------------|----------------|
|       |         |                  | 予測値     | 前月予測<br>からの変更 | 対前年度<br>増減率(%) |
| 生産量   | 498.8   | 508.8            | 513.0   | ▲ 1.0         | 0.8            |
| 消費量   | 493.8   | 503.5            | 511.2   | 0.1           | 1.5            |
| 輸出量   | 43.4    | 50.8             | 52.5    | 1.1           | 3.3            |
| 輸入量   | 42.3    | 46.3             | 51.4    | 1.4           | 11.0           |
| 期末在庫量 | 181.6   | 187.0            | 188.8   | ▲ 1.7         | 1.0            |
| 期末在庫率 | 36.8%   | 37.1%            | 36.9%   | ▲ 0.3         | ▲ 0.2          |

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」(8 April 2022)

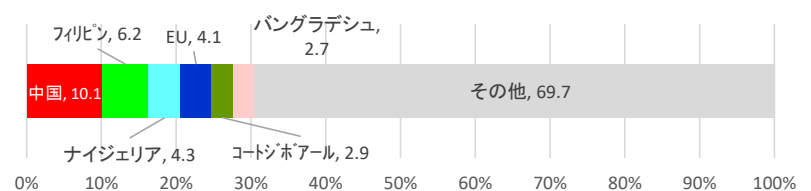
#### ○ 2021/22年度 世界のコメの生産量 (513.0 百万トン) (単位：%)



#### ○ 2021/22年度 世界のコメの輸出量 (52.5 百万トン)



#### ○ 2021/22年度 世界のコメの輸入量 (51.4 百万トン)



## (2) 国別のコメの需給動向

### < 米国 > カリフォルニア州の作付面積が 1983/84 年度以来の低水準に

【生育・生産動向】USDA によれば、2021/22 年度の生産量は、前月予測からの変更はなく、対前年度比 15.7%減の 6.1 百万トンの見込み。このうち中・短粒種の生産量は、全体の約 24%を占める。なお、USDA が 3 月末に公表した作付意向面積調査によれば、2022/23 年度の作付面積は 99 万ヘクタールと前年度から 3%の減少。中・単粒種の主要栽培地域であるカリフォルニア州では、深刻な干ばつが発生したことから、2 年連続で作付面積が減少。特に 2022/23 年度は前年比約 15%の減少と、1983/84 年以来の低水準となった（左下図参照）。長粒種の主要栽培地域であるアーカンソー州では州全体で 2%減少。原因は主に肥料と燃料価格の高騰と、コメの代替作物であるとうもろこし・大豆価格の最近の上昇により作付けがシフトしたため。

【貿易情報・その他】USDA によれば、2021/22 年度の消費量は、対前年度比 4.7%減の 4.6 百万トンの見込み。輸出量は、対前年度比 8.4%減の 2.7 百万トンの見込み。輸入量は、対前年度比 10.2%減の 1.0 百万トンの見込み。2021/22 年度の期末在庫量は、対前年度比 20.9%減の 1.1 百万トンの見込み。

同「Rice Outlook」(2022.4.12)によれば、4 月 5 日時点の地中海向けカリフォルニア米（1 等、砕米 4%混入）の価格は 2 月末の見込と変わらず最高値の 1,220 ドル／トン。中粒種の価格上昇の要因は、米国内の中粒種の大部分を生産するカリフォルニア州において、2021 年に深刻な干ばつが発生した影響で、生産量が約 18%減少したことによる。カリフォルニア州における水の供給が引き続き懸念されている。

4 月 5 日までの週のイラク向け長粒種（2 等、砕米 4%混入）は、前月からわずかに上昇し、665 ドル／トン（P.20 の「長粒種の FOB 価格の推移」を参照）。

## コメー米国

主に長粒種はミシシッピ川沿いで栽培、中・短粒種のシェアは約 24%  
米国のコメ生産に占めるカリフォルニア州のシェアは約 2 割

(単位：百万精米トン)

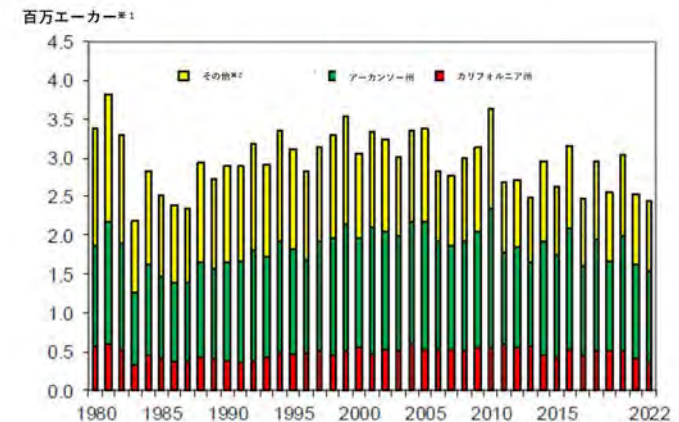
| 年 度   | 2019/20 | 2020/21<br>(見込み) | 2021/22 |               |                |
|-------|---------|------------------|---------|---------------|----------------|
|       |         |                  | 予測値     | 前月予測<br>からの変更 | 対前年度<br>増減率(%) |
| 生産量   | 5.9     | 7.2              | 6.1     | -             | ▲ 15.7         |
| 消費量   | 4.6     | 4.9              | 4.6     | -             | ▲ 4.7          |
| 輸出量   | 3.0     | 3.0              | 2.7     | -             | ▲ 8.4          |
| 輸入量   | 1.2     | 1.1              | 1.0     | -             | ▲ 10.2         |
| 期末在庫量 | 0.9     | 1.4              | 1.1     | -             | ▲ 20.9         |
| 期末在庫率 | 12.0%   | 17.8%            | 15.0%   | -             | ▲ 2.8          |

(参考)

|            |      |      |      |   |        |
|------------|------|------|------|---|--------|
| 収穫面積(百万ha) | 1.00 | 1.21 | 1.01 | - | ▲ 16.5 |
| 単収(もみt/ha) | 8.38 | 8.54 | 8.64 | - | 1.2    |

資料：USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、  
「World Agricultural Production」 (8 April 2022)

図：米国の作付面積の推移 (2022 年)



※ 1 1エーカー=0.4047ヘクタール

※ 2 その他は、ルイジアナ州、ミズーリ州、ミシシッピ州、テキサス州。

資料：USDA 「Rice Outlook」 (2022.4.12)

## < インド > コメ相場が同国の小麦・とうもろこし相場を下回る

【生育・生産動向】USDAによれば、2021/22年度の生産量は、前月予測からの変更はなく、対前年度比3.7%増の129.0百万トンで、6年連続で至上最高を更新。

【貿易情報・その他】USDAによれば、2021/22年度の消費量は、前月予測からの変更はなく、対前年度比2.4%増の103.5百万トンで史上最高の見込み。

同「Grain: World Markets and Trade」(2022.4.8)及び「Rice Outlook」(2022.4.12)によれば、2021/22年度の輸出量は、史上最高の生産量や豊富な在庫量、価格競争力から、予想をはるかに上回る出荷ペースにより、前月予測から0.5百万トン上方修正され、21.0百万トンとなり、前年を4.0%上回る見込み。特に中国への碎米の輸出は引き続き非常に旺盛。

2021/22年度の期末在庫量は、前月予測から0.5百万トン下方修正され、41.5百万トン。なお、インドの期末在庫量は世界全体の約2割を占める見通し。

インド商務省の輸出品データによれば、2021年4月～2022年2月の累積輸出品量は1.91百万トンであり、輸出品の多い国の上位はバングラデシュ(1.6百万トン)、中国(1.4百万トン)、ベナン(1.3百万トン)となっている。

USDA「Rice Outlook」(2022.4.12)によれば、インド産米(碎米5%混入)の4月5日までの週の価格は、前月からトン当たり5ドル下落して345ドル/トンとなったが、アジアの主要輸出国の中で最も低い価格である。(P.20の「長粒種のFOB価格の推移」を参照)

また、「Grain: World Markets and Trade」(2022.4.8)によると、世界最大のコメ輸出国であるインドのコメ輸出価格は安定的に推移しているものの、ロシアのウクライナ侵攻による情勢の緊迫化により、現在、小麦とうもろこしの主要輸出国の輸出価格を下回るという異例の状況。過去、コメの輸出価格が主要小麦輸出国の輸出価格を下回ったのは2007年と2008年のみで、コメの輸出価格が主要とうもろこし輸出国の輸出価格を下回るのは初めて。

## コメ・インド

雨季をカリフ、乾季をラビと呼ぶ。北部はカリフ・ラビ(小麦)の二毛作、南部はカリフ・ラビの二期作。主にインディカを栽培

(単位: 百万精米トン)

| 年 度   | 2019/20 | 2020/21<br>(見込み) | 2021/22       |               |                |
|-------|---------|------------------|---------------|---------------|----------------|
|       |         |                  | 予測値、()はIGC    | 前月予測<br>からの変更 | 対前年度<br>増減率(%) |
| 生 産 量 | 118.9   | 124.4            | 129.0 (127.9) | -             | 3.7            |
| 消 費 量 | 102.0   | 101.1            | 103.5 (105.0) | -             | 2.4            |
| 輸 出 量 | 12.5    | 20.2             | 21.0 (20.1)   | 0.5           | 4.0            |
| 輸 入 量 | 0.0     | 0.0              | 0.0 (0.0)     | -             | -              |
| 期末在庫量 | 33.9    | 37.0             | 41.5 (38.9)   | ▲ 0.5         | 12.2           |
| 期末在庫率 | 29.6%   | 30.5%            | 33.9% (31.1%) | ▲ 0.5         | 3.4            |

(参考)

|            |       |       |               |   |     |
|------------|-------|-------|---------------|---|-----|
| 収穫面積(百万ha) | 43.66 | 45.77 | 47.00 (45.75) | - | 2.7 |
| 単収(もみt/ha) | 4.08  | 4.08  | 4.12 (2.80)   | - | 1.0 |

資料: USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、  
「World Agricultural Production」(8 April 2022)  
IGC「Grain Market Report」(17 March 2022) (単収は精米t/ha)

図: 安定的なコメの輸出価格と変動が大きい小麦・とうもろこしの輸出価格の対比



## < 中国 > コメの飼料向け需要が増加

【生育・生産動向】USDAによれば、2021/22年度の生産量は、前月予測からの変更はなく、対前年度比0.5%増の149.0百万トンで史上最高の見込み。

また、2022/23年度について、中国中央气象台（2022.4.4）によれば、二期作早稲は、福建地区は移植から三葉期、広東地区は三葉から活着期、広西地区は活着から出苗期、湖北、安徽地区は播種期、湖南、江西地区は出苗から三葉期に入っている。一期作稲は、福建地区は播種期に入っており、四川地区は播種から出苗期に入っている。

【貿易情報・その他】USDAによれば、2021/22年度の消費量は、前月予測から飼料向け碎米の需要が増加していることから0.6百万トン上方修正され、対前年度比3.4%増の155.4百万トンで史上最高の見込み。

2021/22年度の輸入量は、前月予測からインドやパキスタンからの碎米の輸入増により0.6百万トン上方修正され、対前年度比23.2%増の5.2百万トンの見込み。

なお、中国海関統計によれば、2022年1-2月の輸入量は1.1百万トンで対前年同期の0.9百万トンより約3割増加している。

USDAによれば、2021/22年度の期末在庫量は、前月予測からの変更はなく、対前年度比3.0%減の113.0百万トンの見込み。なお、世界の期末在庫量の約6割を中国が占める見通し。

中国農業農村部「農産品供需形勢分析月報2月号」によれば、春節後の企業の操業再開や学校の授業再開により、コメ需要は増加したものの、前年同期を大幅に下回っている。加工、卸売、小売等の市場関係者は主に在庫を消化しており、インディカ米価格はやや下落した。ジャポニカ米の供給量は持続的に増加し、価格はやや下落した。2022年2月の全国平均品種別米卸売価格は、早稲インディカ米は3,780元/トン（前月同）、晩稲インディカ米4,040元/トン（前月より0.5%下落）、一期作ジャポニカ米4,020元/トン（前月より1.0%下落）になっている。

## コメー中国

北部で一期作、南部で二期作。ジャポニカ(粳)米は東北地区、江蘇省等で栽培、生産シェアは3割程度

(単位: 百万精米トン)

| 年 度        | 2019/20 | 2020/21<br>(見込み) | 2021/22       |               |                |
|------------|---------|------------------|---------------|---------------|----------------|
|            |         |                  | 予測値、()はIGC    | 前月予測<br>からの変更 | 対前年度<br>増減率(%) |
| 生 産 量      | 146.7   | 148.3            | 149.0 (149.5) | -             | 0.5            |
| 消 費 量      | 145.2   | 150.3            | 155.4 (153.5) | 0.6           | 3.4            |
| 輸 出 量      | 2.6     | 2.2              | 2.3 (2.4)     | -             | 1.4            |
| 輸 入 量      | 2.6     | 4.2              | 5.2 (4.6)     | 0.6           | 23.2           |
| 期末在庫量      | 116.5   | 116.5            | 113.0 (107.5) | -             | ▲ 3.0          |
| 期末在庫率      | 78.8%   | 76.4%            | 71.9% (69.0%) | ▲ 0.3         | ▲ 4.5          |
| (参考)       |         |                  |               |               |                |
| 収穫面積(百万ha) | 29.69   | 30.08            | 29.92 (45.75) | -             | ▲ 0.5          |
| 単収(もみt/ha) | 7.06    | 7.04             | 7.11 (4.98)   | -             | 1.0            |

資料: USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、

「World Agricultural Production」(8 April 2022)

IGC「Grain Market Report」(17 March 2022) (単収は精米t/ha)

## 表 中国のコメ輸入先国別輸入量

(万トン)

| 2022年1月～2月 |       |        | 2021年1月～2月 |      |        | 2021年1月～12月 |       |        |
|------------|-------|--------|------------|------|--------|-------------|-------|--------|
| 国名         | 輸入量   | シェア(%) | 国名         | 輸入量  | シェア(%) | 国名          | 輸入量   | シェア(%) |
| パキスタン      | 34.7  | 30.8   | パキスタン      | 29.4 | 33.6   | インド         | 109.1 | 22.3   |
| インド        | 24.2  | 21.4   | ミャンマー      | 26.0 | 29.7   | ベトナム        | 107.6 | 22.0   |
| ミャンマー      | 19.2  | 17.0   | ベトナム       | 11.2 | 12.8   | パキスタン       | 96.2  | 19.6   |
| タイ         | 18.5  | 16.4   | タイ         | 10.4 | 11.9   | ミャンマー       | 79.6  | 16.3   |
| ベトナム       | 7.5   | 6.7    | インド        | 6.1  | 6.9    | タイ          | 60.0  | 12.3   |
| その他        | 8.8   | 7.8    | その他        | 4.4  | 5.0    | その他         | 37.1  | 7.6    |
| 合計         | 112.9 | 100.0  | 合計         | 87.5 | 100.0  | 合計          | 489.6 | 100.0  |

資料: 中国海関統計(2022.3.20)をもとに農林水産省で作成

## < タイ > アフリカ・中東向け輸出が好調により輸出量上方修正

【生育・生産動向】USDAによれば、2021/22年度（2022年1月～同年12月）の生産量は、前月予測から変更はなく、対前年度比4.5%増の19.7百万トンの見込み。降雨により貯水量が回復し、灌漑用水の供給可能量が増えたことが要因である。2020/21年度（2021年1月～同年12月）の生産量は、前月予測からの変更はなく、対前年度比6.8%増の18.9百万トンの見込み。USDAによれば4月中旬現在で、乾季米のうち40%以上の収穫が終了している。

【貿易情報・その他】USDAによれば、2021/22年度の輸出量は、アフリカや中東諸国向けの輸出が好調なため、0.2百万トン上方修正され、対前年度比12.2%増の6.8百万トンの見込み。2021/22年度のタイは、ベトナムの輸出量（6.5百万トン）を凌ぎ、インドに次ぐ世界第2位のコメ輸出国となる見通し。

タイ米輸出業協会の発表によれば、2022年1～2月の輸出量は110万トンで対前年同期の85万トンを上回った。対前年同期比で中国、米国、イラク向けが大きく増加している。

USDA「Rice outlook」（2022.4.12）によれば、4月5日までの週のタイ産米（長粒、2等丸米）の輸出価格は、上下はあったものの、3月7日までの週の価格と同じ424ドル/トンとなっている（P.20の「長粒種のFOB価格の推移」を参照）。

## コメ・タイ

夏期の雨季作と冬期の乾季作で行われる。主にインディカ米を栽培

（単位：百万精米トン）

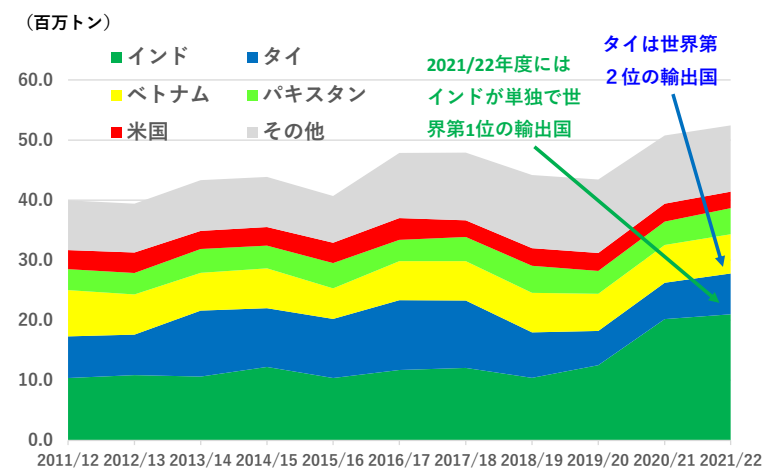
| 年 度   | 2019/20 | 2020/21<br>(見込み) | 2021/22       |               |                |  |
|-------|---------|------------------|---------------|---------------|----------------|--|
|       |         |                  | 予測値、()はIGC    | 前月予測<br>からの変更 | 対前年度<br>増減率(%) |  |
| 生産量   | 17.7    | 18.9             | 19.7 (19.3)   | -             | 4.5            |  |
| 消費量   | 12.3    | 12.7             | 13.0 (11.8)   | -             | 2.4            |  |
| 輸出量   | 5.7     | 6.1              | 6.8 (7.8)     | 0.2           | 12.2           |  |
| 輸入量   | 0.3     | 0.2              | 0.2 (0.3)     | -             | -              |  |
| 期末在庫量 | 4.0     | 4.3              | 4.4 (6.6)     | ▲ 0.2         | 2.3            |  |
| 期末在庫率 | 22.1%   | 22.8%            | 23.4% (33.8%) | ▲ 1.2         | 0.6            |  |

（参考）

|            |      |       |               |   |     |
|------------|------|-------|---------------|---|-----|
| 収穫面積(百万ha) | 9.89 | 10.51 | 10.60 (10.40) | - | 0.9 |
| 単収(もみt/ha) | 2.70 | 2.72  | 2.82 (1.86)   | - | 3.7 |

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、  
「World Agricultural Production」（8 April 2022）  
IGC「Grain Market Report」（17 March 2022）（単収は精米t/ha）

図：世界のコメの主要輸出国の輸出量の推移



資料：USDA「PS&D」（2022.4.8）をもとに農林水産省にて作成

## < ベトナム > 冬春作の収穫が進展

【生育・生産動向】USDA によれば、2020/21 年度（2021 年 1 月～同年 12 月）の生産量は、前月予測からの変更はなく、対前年度比 1.1%増の 27.4 百万トンの見込み。2021/22 年度（2022 年 1 月～同年 12 月）の生産量は、前月予測からの変更はなく、対前年度比 0.7%減の 27.2 百万トンの見込み。

同「Rice outlook」（2022.4.12）によれば、ベトナムの主要な生産期となっている冬春作の収穫が行われている。

【貿易情報・その他】USDA によれば、2021/22 年度の輸出量は、前月予測からの変更はなく、対前年度比 3.7%増の 6.5 百万トンの見込み。2020/21 年度の輸出量は、前月予測からの変更はなく、対前年度比 1.6%増の 6.3 百万トンの見込み。

2021/22 年度の輸入量は、前月予測からインド産米の輸入の増加により 0.2 百万トン上方修正されたものの、対前年度比 55.6%減の 0.8 百万トンの見込み。なお、2020/21 年度にベトナムが例外的に大量のコメを輸入したことから、2021/22 年度は対前年度に比べ減少している。

同「Rice outlook」（2022.4.12）によれば、ベトナム産米（長粒種、5%碎米混入）の 4 月 5 日までの週の価格は、タイトな供給量により前月から 15 ドル上昇して 420 ドル/トンとなったが、依然としてタイ産米よりも低価格である。

ベトナム税関総局によれば、2022 年 1 月の輸出量は 50.6 万トンであり、上位からフィリピン（23.4 万トン）、コートジボワール（6.0 万トン）、中国（3.7 万トン）の順になっている。そのうちジャポニカ米は対前年同期比 65.3%減の 2.2 万トンになっている。

## コメベトナム

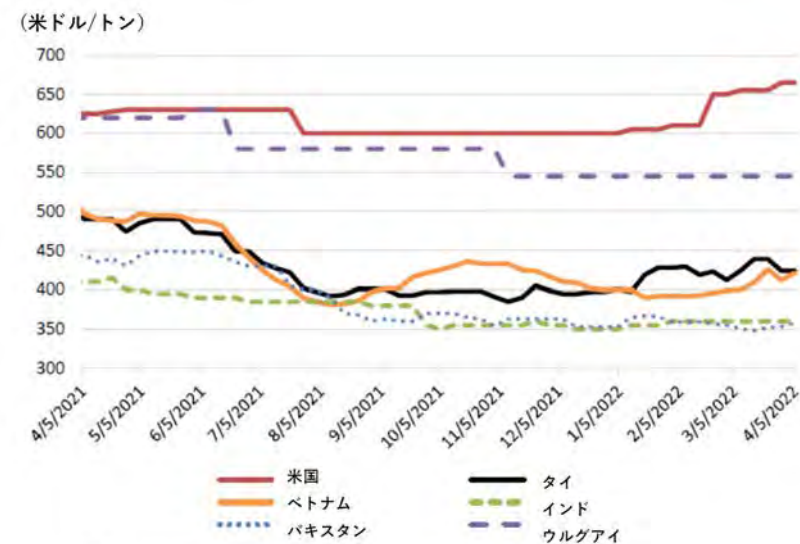
北部で二期作、南部で二期作・三期作。主に長粒種、一部で短粒種も栽培

（単位：百万精米トン）

| 年 度        | 2019/20 | 2020/21<br>(見込み) | 2021/22      |               |                |
|------------|---------|------------------|--------------|---------------|----------------|
|            |         |                  | 予測値、()はIGC   | 前月予測<br>からの変更 | 対前年度<br>増減率(%) |
| 生 産 量      | 27.1    | 27.4             | 27.2 (28.5)  | -             | ▲ 0.7          |
| 消 費 量      | 21.3    | 21.5             | 21.5 (23.1)  | -             | 0.2            |
| 輸 出 量      | 6.2     | 6.3              | 6.5 (6.5)    | -             | 3.7            |
| 輸 入 量      | 0.4     | 1.8              | 0.8 (1.1)    | 0.2           | ▲ 55.6         |
| 期末在庫量      | 1.2     | 2.6              | 2.6 (3.2)    | 0.2           | ▲ 0.4          |
| 期末在庫率      | 4.3%    | 9.5%             | 8.7% (10.9%) | 0.7           | ▲ 0.8          |
| (参考)       |         |                  |              |               |                |
| 収穫面積(百万ha) | 7.38    | 7.31             | 7.30 (7.24)  | -             | ▲ 0.1          |
| 単収(もみt/ha) | 5.88    | 6.00             | 5.96 (3.94)  | -             | ▲ 0.7          |

資料：USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、  
「World Agricultural Production」(8 April 2022)  
IGC 「Grain Market Report」(17 March 2022)（単収は精米t/ha）

図：長粒種の FOB 価格の推移（ベトナム産とタイ産の価格が拮抗）



資料：USDA 「Grain : World Markets and Trade」(2022.4.8)

## Ⅱ 油糧種子 大豆

### (1) 国際的な大豆需給の概要（詳細は右表を参照）

<米国農務省（USDA）の見通し> 2021/22 年度

**生産量** 前年度比 ↓ 前月比 ↓

・ブラジル、パラグアイで下方修正され、前月から下方修正された。

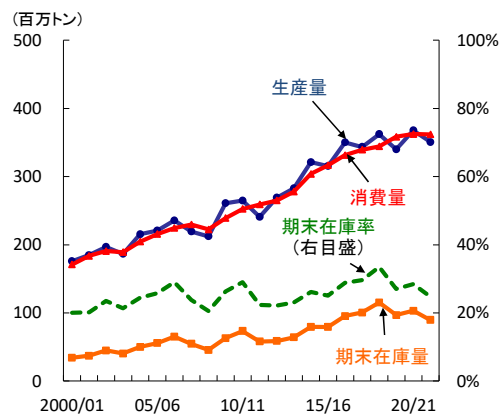
**消費量** 前年度比 ↓ 前月比 ↓

・ブラジル等で上方修正も、中国等で下方修正され、前月から下方修正された。

**輸出量** 前年度比 ↓ 前月比 ↓

・米国で上方修正も、ブラジル、パラグアイ等で下方修正され、前月から下方修正された。

**期末在庫量** 前年度比 ↓ 前月比 ↓



資料：USDA「PS&D」（2022.4.8）をもとに農林水産省で作成

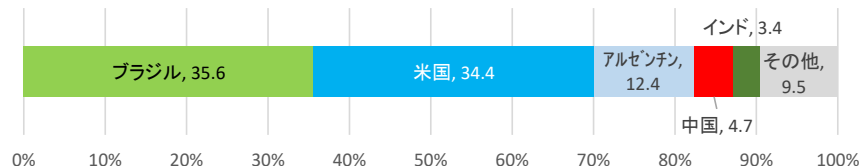
## ◎ 世界の大豆需給

（単位：百万トン）

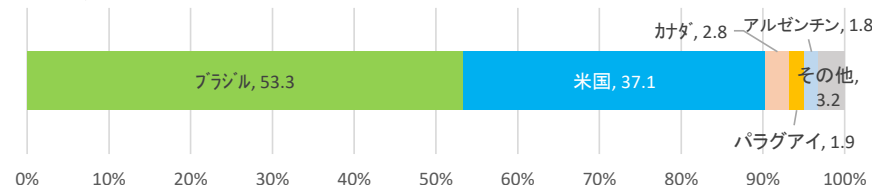
| 年 度   | 2019/20 | 2020/21<br>(見込み) | 2021/22 |               |                |
|-------|---------|------------------|---------|---------------|----------------|
|       |         |                  | 予測値     | 前月予測から<br>の変更 | 対前年度<br>増減率(%) |
| 生 産 量 | 340.0   | 367.8            | 350.7   | ▲ 3.1         | ▲ 4.6          |
| 消 費 量 | 358.3   | 362.4            | 361.9   | ▲ 1.8         | ▲ 0.1          |
| うち搾油用 | 312.3   | 315.0            | 312.9   | ▲ 2.3         | ▲ 0.7          |
| 輸 出 量 | 165.2   | 164.5            | 155.3   | ▲ 3.3         | ▲ 5.6          |
| 輸 入 量 | 165.1   | 165.4            | 152.9   | ▲ 3.8         | ▲ 7.5          |
| 期末在庫量 | 96.8    | 103.1            | 89.6    | ▲ 0.4         | ▲ 13.1         |
| 期末在庫率 | 27.0%   | 28.5%            | 24.8%   | 0.0           | ▲ 3.7          |

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」（8 April 2022）

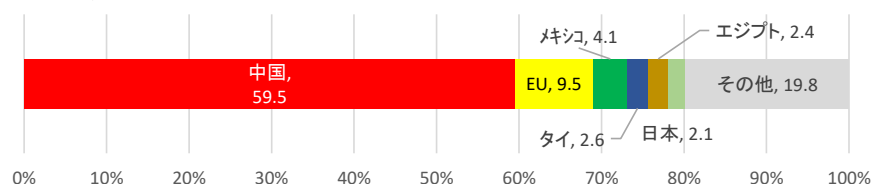
### ○ 2021/22 年度の世界の大豆の生産量 (350.7 百万トン) (単位：%)



### ○ 2021/22 年度の世界の大豆の輸出量 (155.3 百万トン)



### ○ 2021/22 年度の世界の大豆の輸入量 (152.9 百万トン)



## (2) 国別の大豆の需給動向

### < 米国 > 生産量は史上最高も、輸出減の見通し

【生育・生産状況】3月末にUSDAから発表された作付意向面積調査によれば、2022/23年度の作付面積は36.8百万ヘクタールで前年度より4.3%増、史上最高の見込み。とうもろこしと比べ肥料の投入量が少ないことから、肥料価格高騰の影響もあり市場の事前予想を上回った。

USDA「Crop Progress」(2022.4.18)によれば、4月前半の中西部の低温多湿な天候により、2022/23年度の作付け進捗率は1%と、前年度同期(3%)及び過去5年平均(2%)より遅れている。

なお、USDAによれば、2021/22年度の実産量は、前月予測からの変更はなく、前年度より5.2%増の120.7百万トンと史上最高の見込み。

【需要状況】USDAによれば、2021/22年度の実消費量は、作付意向面積調査の2022/23年度の作付面積拡大見通しを受けて種子用需要が前月予測からわずかに上方修正され、旺盛な搾油用需要から、前年度より4.0%増の63.5百万トンで史上最高の見込み。

【貿易情報・その他】USDAによれば、2021/22年度の実輸出量は、ブラジル等の輸出量の下方修正を背景に前月予測から0.7百万トン上方修正されたものの、史上最高の輸出量となった前年度より6.4%減の57.6百万トンの見込み。

USDAによれば、2022年輸出検証高(2022年1月6日～3月31日)は、13.3百万トンであり、内訳は中国(6.7百万トン)、メキシコ(1.3百万トン)、エジプト(1.1百万トン)、イタリア(0.7百万トン)、インドネシア(0.6百万トン)、日本(0.5百万トン)の順。

USDAによれば、2021/22年度の実在庫量は、輸出量の上方修正に伴い前月予測から0.7百万トン下方修正され、前年度より1.1%増の7.1百万トンの見込み。期末在庫率は5.8%で依然として低水準の見込み。

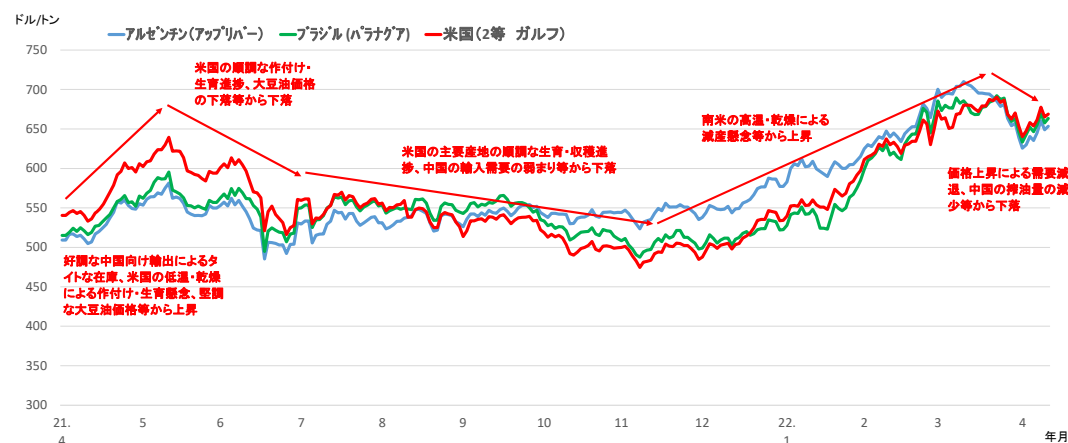
## 大豆－米国

(単位：百万トン)

| 年 度        | 2019/20 | 2020/21<br>(見込み) | 2021/22 |               |                |
|------------|---------|------------------|---------|---------------|----------------|
|            |         |                  | 予測値     | 前月予測から<br>の変更 | 対前年度<br>増減率(%) |
| 生 産 量      | 96.7    | 114.8            | 120.7   | -             | 5.2            |
| 消 費 量      | 61.9    | 61.1             | 63.5    | 0.0           | 4.0            |
| うち搾油用      | 58.9    | 58.3             | 60.3    | -             | 3.5            |
| 輸 出 量      | 45.7    | 61.5             | 57.6    | 0.7           | ▲ 6.4          |
| 輸 入 量      | 0.4     | 0.5              | 0.4     | -             | ▲ 24.1         |
| 期末在庫量      | 14.3    | 7.0              | 7.1     | ▲ 0.7         | 1.1            |
| 期末在庫率      | 13.3%   | 5.7%             | 5.8%    | ▲ 0.6         | 0.1            |
| (参考)       |         |                  |         |               |                |
| 収穫面積(百万ha) | 30.33   | 33.43            | 34.94   | -             | 4.5            |
| 単収(t/ha)   | 3.19    | 3.43             | 3.45    | -             | 0.6            |

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、  
「World Agricultural Production」(8 April 2022)

図：米国、ブラジル、アルゼンチン大豆輸出価格(FOB)の推移



資料：IGCのデータをもとに農林水産省にて作成

## < ブラジル > 南部の高温・乾燥で単収下方修正、生産量は減産見通し

【生育・生産状況】USDAによれば、2021/22年度の生産量は、北部と中西部の主産地では継続した降雨があり高単収となった。一方、南部産地（パラナ州、リオ・グランデ・ド・スール州等）では3月に降雨があったものの、作柄改善には遅すぎ、1月～2月の高温・乾燥の影響で単収がさらに下方修正されたことにより、前月予測から2.0百万トン下方修正され、前年度より10.4%減の125.0百万トンの見込み。

なお、ブラジル食料供給公社(CONAB)月例報告(2022.4.7)によれば、2021/22年度の実生産量は、南部の州を中心に深刻な高温・乾燥の影響を受け前月予測から0.4百万トン下方修正され、前年度より11.4%減の122.4百万トンの見込み。

最大生産州である中西部マツト・グロッソ州では例年より早く収穫が終了。南部のパラナ州では4月12日現在、収穫率は94%となっている。

【需要状況】USDAによれば、2021/22年度の消費量は、大豆粕の国際価格の上昇を背景に大豆粕輸出の増加が予想されることから、前月予測から搾油用消費量を中心に1.6百万トン上方修正され、前年度より1.2%増の50.5百万トンの見込み。

【貿易情報・その他】USDAによれば、2021/22年度の輸出量は、生産量の下方修正と中国向け輸出の減少に伴い前月予測から2.8百万トン下方修正されたものの、前年度より1.3%増の82.8百万トンの見込み。

ブラジル貿易統計によれば、2022年1～3月の輸出量は21.0百万トンで、例年より収穫が遅れた前年同期(15.4百万トン)に比べ36.3%増となっている。内訳は、1位が中国14.9百万トン、2位がスペイン1.0百万トン、3位がオランダ0.6百万トンとなっている。

## 大豆ーブラジル

(単位:百万トン)

| 年 度        | 2019/20 | 2020/21<br>(見込み) | 2021/22       |               |                |  |
|------------|---------|------------------|---------------|---------------|----------------|--|
|            |         |                  | 予測値、()はIGC    | 前月予測<br>からの変更 | 対前年度<br>増減率(%) |  |
| 生 産 量      | 128.5   | 139.5            | 125.0 (123.8) | ▲ 2.0         | ▲ 10.4         |  |
| 消 費 量      | 49.8    | 49.9             | 50.5 (46.4)   | 1.6           | 1.2            |  |
| うち搾油用      | 46.7    | 46.7             | 47.3 (43.9)   | 1.0           | 1.2            |  |
| 輸 出 量      | 92.1    | 81.7             | 82.8 (80.3)   | ▲ 2.8         | 1.3            |  |
| 輸 入 量      | 0.6     | 1.0              | 0.5 (0.6)     | -             | ▲ 55.9         |  |
| 期末在庫量      | 20.4    | 29.4             | 21.6 (0.9)    | 0.6           | ▲ 26.5         |  |
| 期末在庫率      | 14.4%   | 22.4%            | 16.2% (0.7%)  | 0.6           | ▲ 6.1          |  |
| (参考)       |         |                  |               |               |                |  |
| 収穫面積(百万ha) | 36.90   | 39.20            | 40.80 (40.40) | 0.20          | 4.1            |  |
| 単収(t/ha)   | 3.48    | 3.56             | 3.06 (3.06)   | ▲ 0.07        | ▲ 14.0         |  |

資料: USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、  
「World Agricultural Production」(8 April 2022)  
IGC「Grain Market Report」(17 March 2022)

### ブラジルのクロップカレンダー(中部から南部)

| 2021/22年度 | 2021年 |    |    |    |    |    |    |    |    |     |     |     | 2022年 |    |    |    |    |    |    |    |    |
|-----------|-------|----|----|----|----|----|----|----|----|-----|-----|-----|-------|----|----|----|----|----|----|----|----|
|           | 1月    | 2月 | 3月 | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月    | 2月 | 3月 | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 |
| 夏とうもろこし   |       |    |    |    |    |    |    |    |    |     |     |     |       |    |    |    |    |    |    |    |    |
| 冬とうもろこし   |       |    |    |    |    |    |    |    |    |     |     |     |       |    |    |    |    |    |    |    |    |
| 大豆        |       |    |    |    |    |    |    |    |    |     |     |     |       |    |    |    |    |    |    |    |    |

資料: CONAB穀物レポート (2022.4.7)

## < アルゼンチン > 高温・乾燥で生産量は減産見通し、輸出税は継続

【生育・生産状況】USDAによれば、2021/22年度の生産量は、前月予測からの変更はなく、2月までの高温・乾燥による作柄悪化により収穫面積及び単収が影響を受けたことから、前年度より5.8%減の43.5百万トンの見込み。

ブエノスアイレス穀物取引所週報（2022.4.13）によれば、作柄は良からやや良が79%で前週（79%）から変わらず。収穫進捗率は14%で過去5年平均より13ポイント遅れている。

【需要状況】USDAによれば、2021/22年度の消費量は、前月予測からの変更はなく、前年度より0.4%減の47.2百万トンの見込み。

【貿易情報・その他】USDAによれば、2021/22年度の輸出量は、前月予測からの変更はなく、生産量の減少に伴い前年度より47.1%減の2.8百万トンの見込み。

アルゼンチン国家統計局によれば、2022年1～2月の輸出量は0.9万トンで、前年同期（2.2万トン）より57.2%減。内訳は、1位がチリ0.8万トンとなっている。収穫作業の遅れにより前年度より輸出ペースが遅くなった。なお、前年7月26日に発令された180日間のパラナ川の渇水の緊急事態宣言は前年末に終了したものの、パラナ川の水位は依然として低下傾向が続き、アルゼンチンの穀物等の輸出への影響に引き続き注視が必要である。

アルゼンチンは、大豆輸出量よりも、搾油後に発生する大豆加工品の輸出が多く、大豆油及び大豆粕については、世界第1位の輸出国である。

アルゼンチン政府は、財政赤字の補填等のため、輸出税を設定している。2021年1月以降、輸出税を大豆最大33%、大豆油及び大豆粕31%に設定。さらに、2022年3月19日付けアルゼンチン農牧漁業省プレスによれば、大豆油及び大豆粕の輸出税について2022年末まで2%引き上げ、大豆と横並びの33%と変更した。

## 大豆ーアルゼンチン

（単位：百万トン）

| 年 度        | 2019/20 | 2020/21<br>(見込み) | 2021/22       |               |                |  |
|------------|---------|------------------|---------------|---------------|----------------|--|
|            |         |                  | 予測値、()はIGC    | 前月予測<br>からの変更 | 対前年度<br>増減率(%) |  |
| 生 産 量      | 48.8    | 46.2             | 43.5 (41.5)   | -             | ▲ 5.8          |  |
| 消 費 量      | 45.9    | 47.4             | 47.2 (45.0)   | -             | ▲ 0.4          |  |
| うち搾油用      | 38.8    | 40.2             | 40.0 (39.0)   | -             | ▲ 0.4          |  |
| 輸 出 量      | 10.0    | 5.2              | 2.8 (4.2)     | -             | ▲ 47.1         |  |
| 輸 入 量      | 4.9     | 4.8              | 2.2 (3.0)     | ▲ 0.7         | ▲ 54.4         |  |
| 期末在庫量      | 26.7    | 25.1             | 20.8 (1.4)    | ▲ 0.7         | ▲ 17.0         |  |
| 期末在庫率      | 47.7%   | 47.6%            | 41.6% (2.8%)  | ▲ 1.4         | ▲ 6.0          |  |
| (参考)       |         |                  |               |               |                |  |
| 収穫面積(百万ha) | 16.70   | 16.47            | 16.00 (16.25) | -             | ▲ 2.9          |  |
| 単収(t/ha)   | 2.92    | 2.81             | 2.72 (2.55)   | -             | ▲ 3.2          |  |

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」

「World Agricultural Production」(8 April 2022)

IGC「Grain Market Report」(17 March 2022)

## 写真：北部サンタフェ州の大豆の収穫風景 (4月3日撮影)



## < 中国 > 減産見通し、消費量・輸入量は下方修正

【生産・生育状況】USDAによれば、2021/22年度の生産量は、前月予測からの変更はなく、収益性の高いとうもろこし等への作付けのシフトにより収穫面積が減少したことから、前年度より16.3%減の16.4百万トンの見込み。

なお、2022/23年度の播種は4月後半から主産地の東北地区で開始される見込み。

【需要状況】USDAによれば、2021/22年度の消費量は、養豚・養鶏向け需要の減少と大豆価格の高騰による搾油マージンの悪化により、搾油用消費量が前月予測から3.0百万トン下方修正され、前年度より2.6%減の108.7百万トンの見込み。

【貿易情報・その他】USDAによれば、2021/22年度の輸入量は、搾油量の減少に伴う輸入需要の減退により前月予測から3.0百万トン下方修正され、前年度より8.8%減の91.0百万トンの見込み。

中国の貿易統計によれば、2022年1～2月の輸入量は13.9百万トンと、前年同期比で4.0%増。内訳は、米国産10.0百万トン（72%）、ブラジル産3.5百万トン（25%）。

農業農村部「農産品供需形勢分析月報 2022年2月号」によると、2月の国内価格（山東省の国産大豆工場渡し価格）は、春節後、国産大豆の売買はある程度回復し、政府による大豆の継続的な買付が大豆価格を支え、前月（6,480 元/トン）からやや上昇し、6,500 元/トンとなり、依然として高水準である。学校の授業再開や大豆製品加工工場の操業の全面再開により、大豆需要が高まり、今後短期的に、大豆価格は高値を維持すると予想される。2月の外国産価格（山東省の輸入大豆価格）は5,040 元/トンと前月（4,460 元/トン）から大幅に上昇した。今後の中国の輸入動向に注視が必要である。

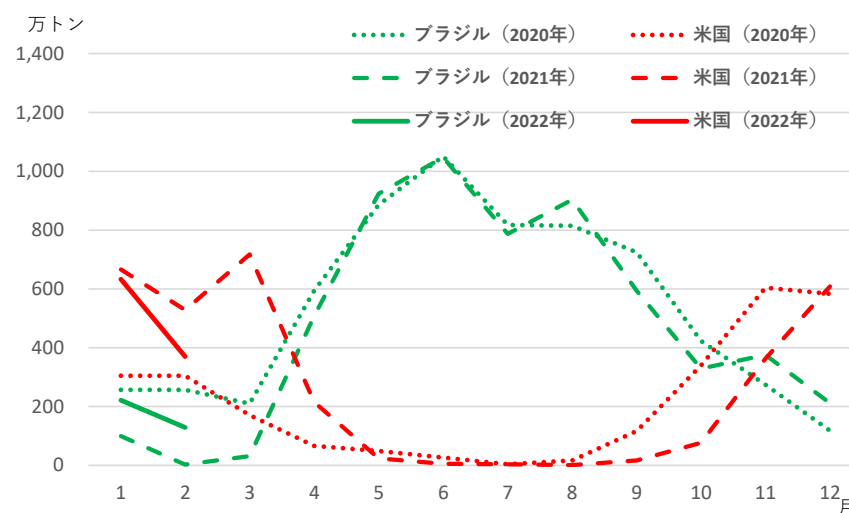
## 大豆－中国

（単位：百万トン）

| 年 度        | 2019/20 | 2020/21<br>(見込み) | 2021/22    |         |               |                |
|------------|---------|------------------|------------|---------|---------------|----------------|
|            |         |                  | 予測値、()はIGC |         | 前月予測<br>からの変更 | 対前年度<br>増減率(%) |
| 生 産 量      | 18.1    | 19.6             | 16.4       | (16.4)  | -             | ▲ 16.3         |
| 消 費 量      | 109.2   | 111.6            | 108.7      | (115.0) | ▲ 3.0         | ▲ 2.6          |
| うち搾油用      | 91.5    | 93.0             | 89.0       | (97.0)  | ▲ 3.0         | ▲ 4.3          |
| 輸 出 量      | 0.1     | 0.1              | 0.1        | (0.1)   | -             | 42.9           |
| 輸 入 量      | 98.5    | 99.8             | 91.0       | (94.8)  | ▲ 3.0         | ▲ 8.8          |
| 期末在庫量      | 26.8    | 34.5             | 33.1       | (27.5)  | -             | ▲ 4.1          |
| 期末在庫率      | 24.5%   | 30.9%            | 30.4%      | (23.9%) | 0.8           | ▲ 0.5          |
| (参考)       |         |                  |            |         |               |                |
| 収穫面積(百万ha) | 9.33    | 9.88             | 8.40       | (8.40)  | -             | ▲ 15.0         |
| 単収(t/ha)   | 1.94    | 1.98             | 1.95       | (1.95)  | -             | ▲ 1.5          |

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、  
「World Agricultural Production」(8 April 2022)  
IGC「Grain Market Report」(17 March 2022)

図：中国におけるブラジル、米国産大豆の輸入状況



出典：中国海関統計

注：2020年1月分と2月分は合計で公表されたため、便宜上1/2で按分

## < カナダ > 西部での高温乾燥の影響で減産見通し

【生育・生産状況】USDAによれば、2021/22年度の生産量は、前月予測からの変更はなく、生育期間の西部カナダでの乾燥の影響による単収の減少に伴い、前年度より1.4%減の6.3百万トンの見込み。前年11月末時点で、収穫は終了。

なお、カナダ農務農産食品省(AAFC)「Outlook for Principal Field Crops」(2022.4.20)によれば、今後作付けされる2022/23年度の実産量は、カナダ西部では土壌水分不足の懸念や小麦等の競合作物も価格が魅力的なことから作付面積の増加は抑えられるものの、高い大豆価格に支えられ、主産地のカナダ東部を中心に作付面積が増加し、前年度より4.4%増の6.6百万トンの見込み。

【需要状況】USDAによれば、2021/22年度の消費量は、前月予測からの変更はなく、前年度より11.7%減の2.3百万トンの見込み。

【貿易情報・その他】USDAによれば、2021/22年度の輸出量は、前月予測からの変更はなく、前年度より3.1%減の4.4百万トンの見込み。

カナダ穀物委員会(Canadian Grain Commission)によれば、2021/22年度(2021年8月～2022年7月)のうち、2021年8月～2022年2月の輸出量は255.5万トンで、国別では、イラン(47.1万トン)、イタリア(34.6万トン)、オランダ(22.6万トン)、アルジェリア(21.9万トン)の順。

## 大豆ーカナダ

(単位: 百万トン)

| 年 度        | 2019/20 | 2020/21<br>(見込み) | 2021/22     |               |                |
|------------|---------|------------------|-------------|---------------|----------------|
|            |         |                  | 予測値、()はAAFC | 前月予測<br>からの変更 | 対前年度<br>増減率(%) |
| 生産量        | 6.1     | 6.4              | 6.3 (6.3)   | -             | ▲ 1.4          |
| 消費量        | 2.6     | 2.7              | 2.3 (2.5)   | -             | ▲ 11.7         |
| うち搾油用      | 1.8     | 1.6              | 1.8 (1.8)   | -             | 6.6            |
| 輸 出 量      | 3.9     | 4.5              | 4.4 (4.0)   | -             | ▲ 3.1          |
| 輸 入 量      | 0.3     | 0.5              | 0.5 (0.4)   | -             | ▲ 3.1          |
| 期末在庫量      | 0.6     | 0.3              | 0.3 (0.5)   | -             | 8.2            |
| 期末在庫率      | 9.6%    | 4.1%             | 4.7% (6.9%) | -             | 0.6            |
| (参考)       |         |                  |             |               |                |
| 収穫面積(百万ha) | 2.27    | 2.04             | 2.13 (2.14) | -             | 4.4            |
| 単収(t/ha)   | 2.71    | 3.12             | 2.94 (2.93) | -             | ▲ 5.8          |

資料: USDA「PS&D」

「World Agricultural Production」(8 April 2022)

AAFC「Outlook for Principal Field Crops」(20 April 2022)

(参考)本レポートに使用されている各国の穀物年度について (2021/22年度)

|        | 小麦            | とうもろこし       | コメ           | 大豆           |
|--------|---------------|--------------|--------------|--------------|
| 米国     | 21年6月～22年5月   | 21年9月～22年8月  | 21年8月～22年7月  | 21年9月～22年8月  |
| カナダ    | 21年8月～22年7月   |              |              | 21年8月～22年7月  |
| 豪州     | 21年10月～22年9月  |              | 22年3月～23年2月  |              |
| EU     | 21年7月～22年6月   | 21年10月～22年9月 |              |              |
| 中国     | 21年7月～22年6月   | 21年10月～22年9月 | 21年7月～22年6月  | 21年10月～22年9月 |
| ロシア    | 21年7月～22年6月   | 21年10月～22年9月 |              | 21年9月～22年8月  |
| ブラジル   |               | 22年3月～23年2月  | 22年4月～23年3月  | 21年10月～22年9月 |
| アルゼンチン | 21年12月～22年11月 | 22年3月～23年2月  |              | 21年10月～22年9月 |
| タイ     |               |              | 22年1月～12月    |              |
| インド    | 21年4月～22年3月   |              | 21年10月～22年9月 |              |
| ベトナム   |               |              | 22年1月～12月    |              |

注 市場年度は、おおむね各国で作物が収穫される時期を期首として各国ごとに設定されているため、国、作物によって年度の開始月は異なります。

例えば、2021/22年度は、米国の小麦では2021年6月～2022年5月、ブラジルのとうもろこしでは2022年3月～2023年2月です。

なお、各国別、作物別の市場年度は、米国農務省によります。

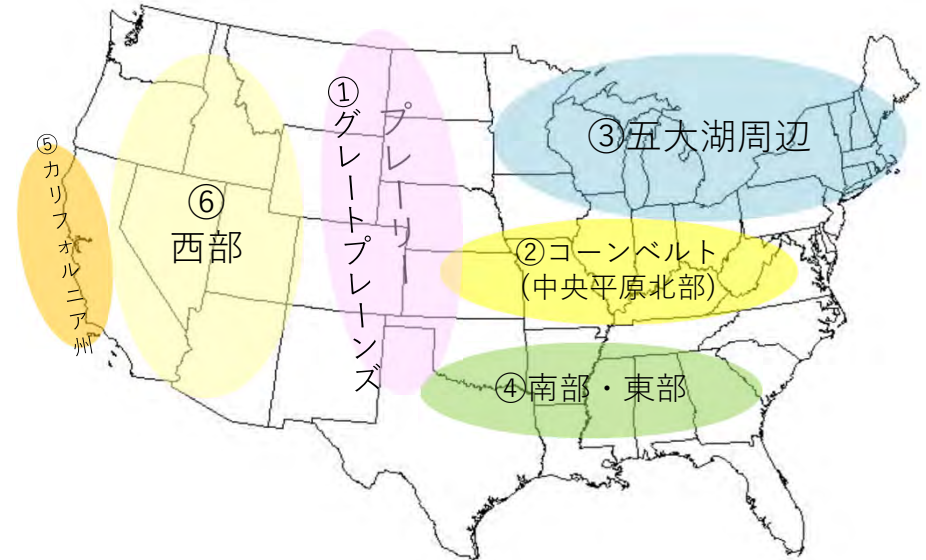
<https://apps.fas.usda.gov/psdonline/app/index.html#/app/downloads> (「Reference Data」タブを参照)

## 第10号特別分析トピック：米国、EU、中国の農業政策の概要

## 米国の農業概況

- 50州の国土面積9億8,315万ha（日本の約26倍）に対し、農用地は4億581万ha（日本の約92倍）で、耕地面積は1億5,774万ha（日本の約38倍）。プレーリー、グレートプレーンズ、コーンベルトといった中部地域は世界有数の穀物地域であり、地下水を利用した大規模灌漑農業が行われている（2019年）。
- 農業経営体数は約204万戸。1経営体当たりの平均経営面積は約179.7haで、日本（2.7ha）の約67倍。
- 農林水産業生産額（2020年）は4,073億ドルであり、酪農が405億ドル、食肉が823億ドル。

| 地域                              |   | 主要な農作物                    |
|---------------------------------|---|---------------------------|
| ①プレーリーからグレートプレーンズ               | : | 小麦<br>(春小麦・冬小麦)           |
| ②コーンベルト<br>(中央平原北部のオハイオ州～アイオワ州) | : | トウモロコシ・大豆                 |
| ③五大湖周辺                          | : | 酪農                        |
| ④南部一帯から東部                       | : | 綿花・大豆・落花生・肉牛              |
| ⑤カリフォルニア州                       | : | ブドウ・オレンジ・オリーブ<br>(地中海式農業) |
| ⑥西経100度より西部                     | : | 放牧(肉牛)                    |

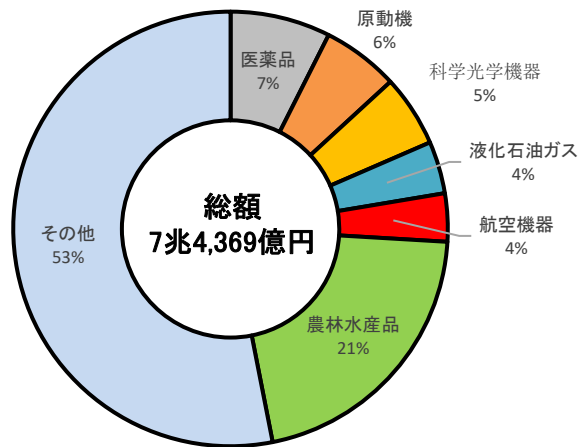


- 世界有数の農業大国で、とうもろこし、大豆、小麦のほか、畜産物の生産が盛ん。とうもろこしが世界第1位の生産量で、世界全体の生産量の約3割弱を占めている。牛肉、鶏肉が世界第1位の生産量で、特に牛肉、鶏肉は世界全体の生産量の2割弱を占めている（USDA：2020年）
- アイオワ州、イリノイ州を中心とする中央平原北部ではとうもろこしや大豆、ノースダコタ州、カンザス州等では小麦、テキサス州を中心とする南部では牛肉の生産が盛んである。カリフォルニア州も野菜・果実や酪農などの大生産州である。

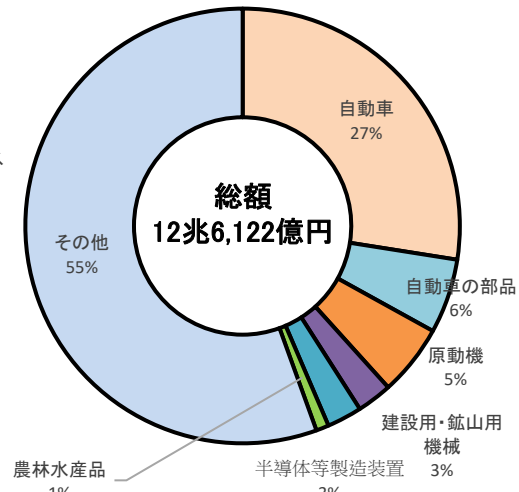
# 我が国と米国との農林水産品貿易

日・米間の貿易状況(2020)

【米国→日本】



【日本→米国】



出典：財務省貿易統計

米国の対世界輸出状況(2020)

| 品目     | 輸出額<br>(億ドル) | シェア<br>(%) |
|--------|--------------|------------|
| 大豆     | 259          | 17.4       |
| とうもろこし | 96           | 6.5        |
| 調製食料品  | 88           | 6.0        |
| 小麦     | 63           | 4.3        |
| 牛肉     | 57           | 3.9        |
| 農産品合計  | 1,482        | 100.0      |

米国の主な農産品生産(2020)

(単位：万トン)

| 品目     | 米国     | (参考)<br>日本 |
|--------|--------|------------|
| とうもろこし | 36,025 | 0.02       |
| 大豆     | 11,255 | 21.9       |
| 牛乳     | 10,125 | 744        |
| 小麦     | 4,969  | 94.9       |
| 鶏肉     | 2,049  | 235        |
| 牛肉     | 1,236  | 47.7       |

出典：FAOSTAT

日・米間の主な農林水産品の輸出入状況(2020)

【米国→日本】

|   | 品 目                      | 輸入額(億円) | 輸入量        |
|---|--------------------------|---------|------------|
| 1 | とうもろこし                   | 2,246   | 1,000.6万トン |
| 2 | 牛肉                       | 1,507   | 25.5万トン    |
| 3 | 豚肉                       | 1,333   | 25.4万トン    |
| 4 | 大豆                       | 1,158   | 238万トン     |
| 5 | 生鮮・乾燥果実(スイートアーモンド(殻無し)等) | 916     | 22.8万トン    |
|   | 合計                       | 15,579  |            |

【日本→米国】

|   | 品 目      | 輸出額(億円) |
|---|----------|---------|
| 1 | アルコール飲料  | 138     |
| 2 | ぶり       | 96      |
| 3 | 緑茶       | 84      |
| 4 | ソース混合調味料 | 79      |
| 5 | ごま油      | 48      |
|   | 合計       | 1,192   |

出典：財務省貿易統計

# 米国の農業政策の概要①

## (1) 総論

- 米国の農業政策は、概ね5年毎に連邦政府が制定する農業法に基づいて実施。
- 農業法は米国議会が策定し、大統領が承認して成立。農務省は農業法を実施する機関として位置づけ。

## (2) 農業予算

- 農業法は、農業補助金その他、栄養支援プログラム、農業保険、環境保全、貿易政策、農村開発政策等、農業政策を包括的に規定。

※代表的な栄養支援プログラムは、SNAP (Supplemental Nutrition Assistance Program)。SNAPは低所得世帯に対し、認可を受けた小売店での食料品の購入に使える給付金を支給するプログラムであり、失業者の貧困対策の側面ももつ。

- 2020年度の農業関係予算は国家予算全体の2.3%で、栄養支援プログラムを除くと0.5%。
- なお、現行の2018年農業法は本年9月末で期限を迎えるため、今後、次期農業法の議論が活発化する見込み。2018年農業法と同様、SNAPの扱いを巡る共和党(減額)と民主党(増額)の争いが大きなポイントとなることが予想される。

### 国家予算及び農業関係予算

(単位: 億ドル)

|              | 2018年  | 2019年  | 2020年  |
|--------------|--------|--------|--------|
| 国家予算         | 41,090 | 44,466 | 65,518 |
| 農業関係予算       | 1,367  | 1,560  | 1,501  |
| うち栄養支援プログラム  | 972    | 926    | 1,142  |
| 農業関係予算に占める割合 | 71%    | 59%    | 76%    |

出典: 予算教書、農務省

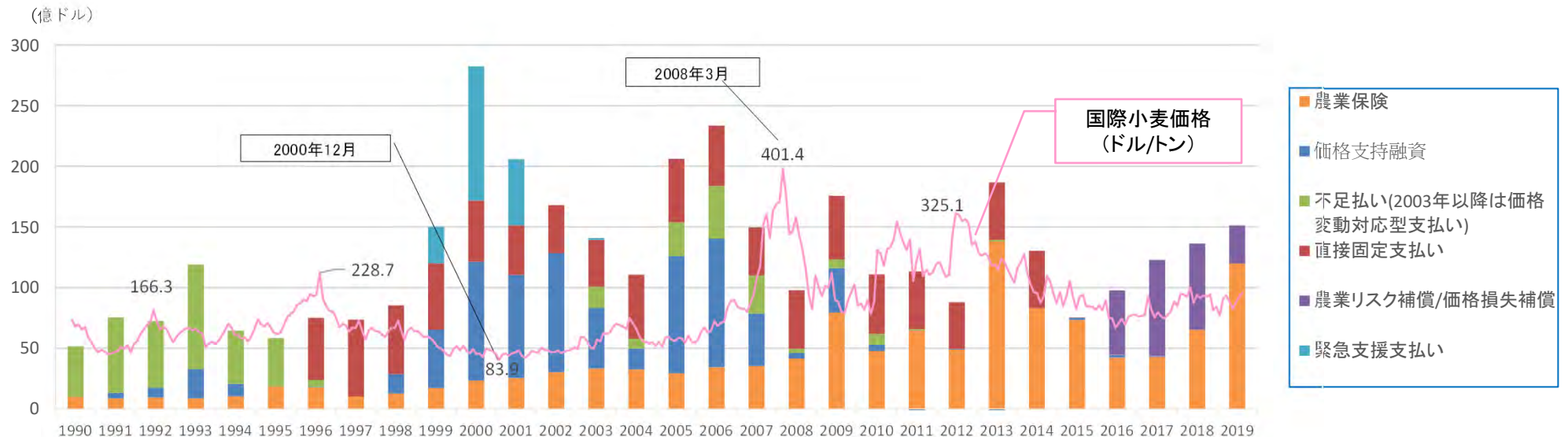
## (3) 貿易政策

- 2021年1月に発足したバイデン政権は、COVID19対策、気候変動対策、人種の公平性、経済、医療などの7項目の政策プライオリティを掲げ、国内経済の回復、国際社会における米国の地位回復に主眼が置かれている。

## 米国の農業政策の概要②

米国は、これまで直接固定支払い及び価格変動対応型支払いを実施してきたが、2014年農業法ではこれら支払いを廃止し、収入・価格変動に対応したセーフティネット（農業リスク補償・価格損失補償等）を導入。

### ○米国の主な農家支援対策支出額の推移



注：農家支援対策は、この他に農業保険、環境支払い等がある。

2014年農業法で導入された農業リスク補償/価格損失補償の実際の農家への支払いは翌年となるため、2015年の支出額の実際の支払いは2016年に行われる。

### ○2014年農業法で導入された主なセーフティネット

#### (1) **農業リスク補償**【収入減少対策】(ARC: Agricultural Risk Coverage)

当年収入が保証収入（直近5カ年の最高、最低を除いた3年の平均収入の86%）を下回った場合に、保証収入と当年収入の差の一部を補てんするプログラム。収入の取り方は、農場単位又は郡単位で農家が選択。

#### (2) **価格損失補償**【価格下落対策】(PLC: Price Loss Coverage)

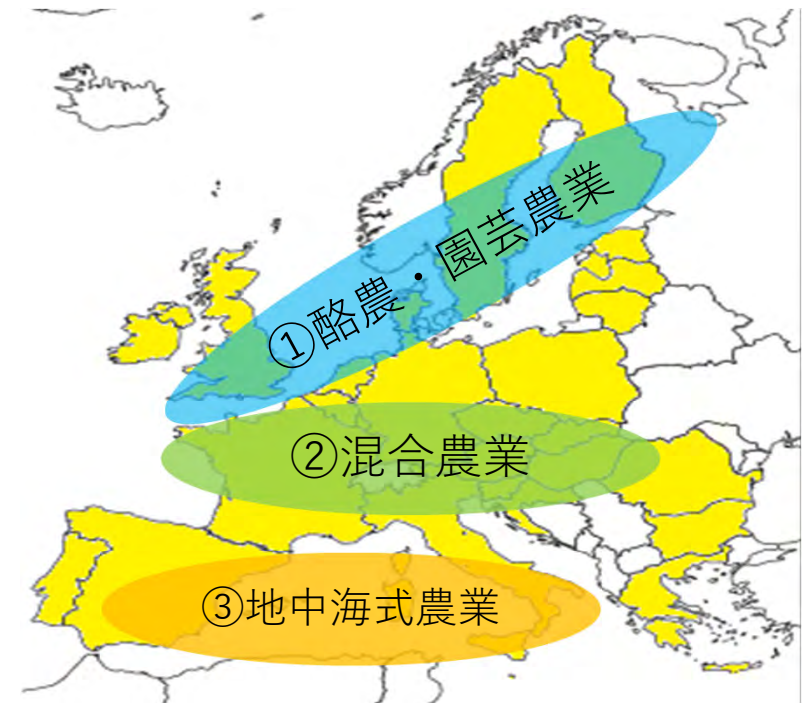
市場価格が参照価格（生産コスト等を勘案して設定）を下回った場合に、参照価格と市場価格の差の一部を補てんするプログラム。

※農家は、「農業リスク補償」と「価格損失補償」のどちらかを選択。

## EUの農業概況

- EU加盟国全体の国土面積4億2,543万ha（日本の約1.1倍）に対し、農用地は1億6,493万ha（日本の約3.7倍）で、耕地面積は9,942万ha（日本の約2.4倍）だが、年々減少傾向にある（FAO統計2019年）。世界比で見ると、牧草地の割合が低い一方、耕地面積の割合が高く、果樹園等の永年作物地の割合も比較的高いのが特徴である（注：以下、2019年時点の英国含むデータを使用）。
- EU加盟国全体の農業経営体数は約1,084万戸。1経営体当たりの平均経営面積は16.1ha（日本の約6倍）で、最大はチェコ（130ha）、最小はマルタ（1.2ha）と、国毎に大きく異なる。
- EUは米国と並ぶ農業国（地域）であり、農林水産業生産額は4,558億ドル（2019年）。主に家族経営による農業が営まれている。また、北極圏域から地中海沿岸まで南北に広がった地形を利用して、オリーブからオート麦まで多様な品目の農産物が生産されている。また、EUにおいて畜産は重要な地位を占めている。

|                                             |   |                                         |
|---------------------------------------------|---|-----------------------------------------|
| ①デンマーク、オランダ等<br>（冷涼、痩せた土地）                  | : | ①酪農・園芸農業<br>（生乳、バター、チーズ、<br>切り花、チューリップ） |
| ②フランス、ドイツ等<br>（穀物及び飼料作物の栽培と家<br>畜の飼育を組み合わせ） | : | ②混合農業<br>（小麦、大麦、牛肉、豚肉）                  |
| ③イタリア、スペイン等<br>（温暖で夏は乾燥、冬は多雨）               | : | ③地中海式農業<br>（オリーブ、ブドウ）                   |



- 主な農産品は、小麦（1億3,942万トン、世界第1位）、牛肉（699万トン、世界第3位）、豚肉（2,299万トン）、生乳（1億5,251万トン）[2019年]。

## EUの農業政策の概要

### (1) 総論

- EUの農業政策は、概ね5年ないし7年毎に制定されるCAP（Common Agricultural Policy：共通農業政策）に基づき、加盟国27か国共通で講じられている。
- 1962年の導入以後、財政負担の増大、ウルグアイ・ラウンド農業交渉、WTO農業交渉への対応等の観点から、1992年、1999年、2003年、2008年、2013年に見直しが行われた。
- 2021年に見直しが予定されていたところ、英国のEU離脱の影響などから議論が決着しなかったため、2年の移行期間が設けられ、現行CAPの適用期間は2014～2020年＋延長2年間（2021～2022年）となっている。

### (2) 農業予算

- CAPは、①直接支払いを中心とした「所得・価格政策」、②条件不利地域支払い、青年農業者支払い等を実施する「農村振興政策」の二本の柱から成り立っている。
- CAP予算総額は増加しているが、加盟国の増加等によるEU予算全体の増加に伴い、EU予算全体に占める割合は年々減少している。（1990年64.0%→2019年34.0%）

#### EU予算及び農業関連予算

（単位：億ユーロ）

|            | 2005年 | 2010年 | 2015年 | 2016年 | 2017年 | 2018年 | 2019年 |
|------------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|
| EU予算       | 1,139 | 1,398 | 1,732 | 1,475 | 1,576 | 1,525 | 1,744 |
| うち農業関連予算   | 530   | 588   | 654   | 601   | 575   | 572   | 592   |
| EU予算に占める割合 | 47%   | 42%   | 38%   | 41%   | 36%   | 37%   | 34%   |

出典：欧州委員会農業総局統計年報、EU予算書等

### (3) 貿易政策

- 多数の国とFTAを締結。我が国とのEPAが2019年2月に発効した他、カナダとは2017年9月より暫定的に発効している。現在、豪州等と交渉中である。

# EUの共通農業政策（CAP）の概要

EUは共通農業政策を実施。1992年以降、価格支持政策から直接支払い・農村振興政策への転換を推進。2013年の共通農業政策改革では、農業の環境保全等の公共財供給機能を重視し、直接支払いの環境要件を強化。

## ○概要

### 第一の柱

#### ① 直接支払い

支持価格の引下げの代償措置として、1992年に導入。当初は作付面積や頭数に基づく支払いであったが、2005年以降、原則生産要素と切り離すデカップリング化を推進。

#### ② 価格支持

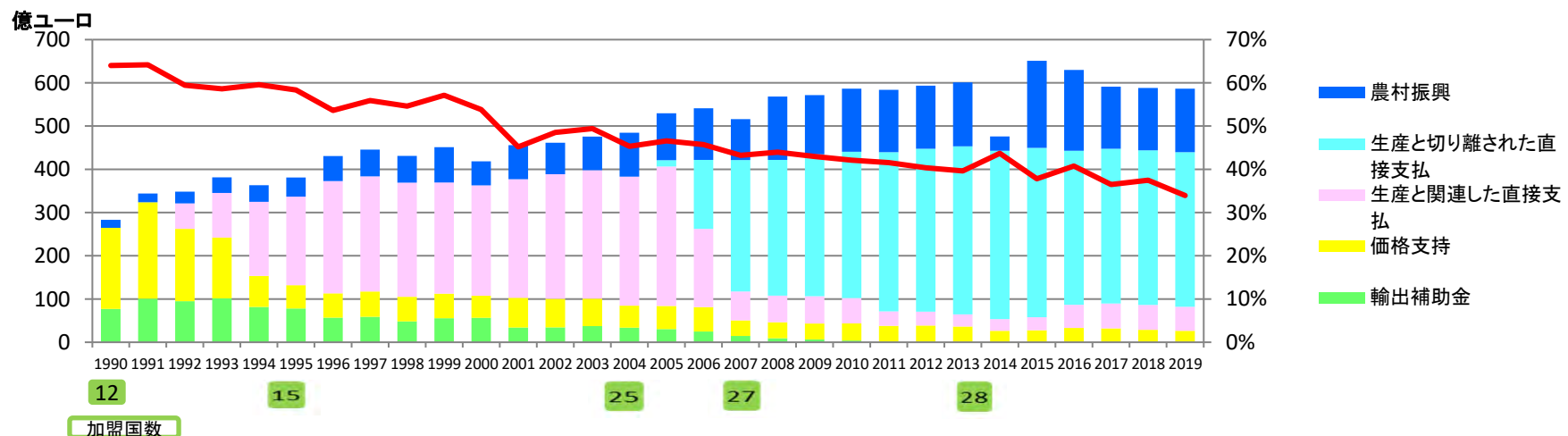
作物別に支持価格を定め（例：小麦：101.31ユーロ/トン）、市場価格がそれを下回った際に、各国の機関が買い支えを実施（適用対象：小麦、大麦、とうもろこし、コメ、牛肉、バター、脱脂粉乳）。近年は限定的な運用。

### 第二の柱

#### ③ 農村振興政策

条件不利地域対策、農業環境対策等を実施。

## ○EU共通農業政策予算の推移

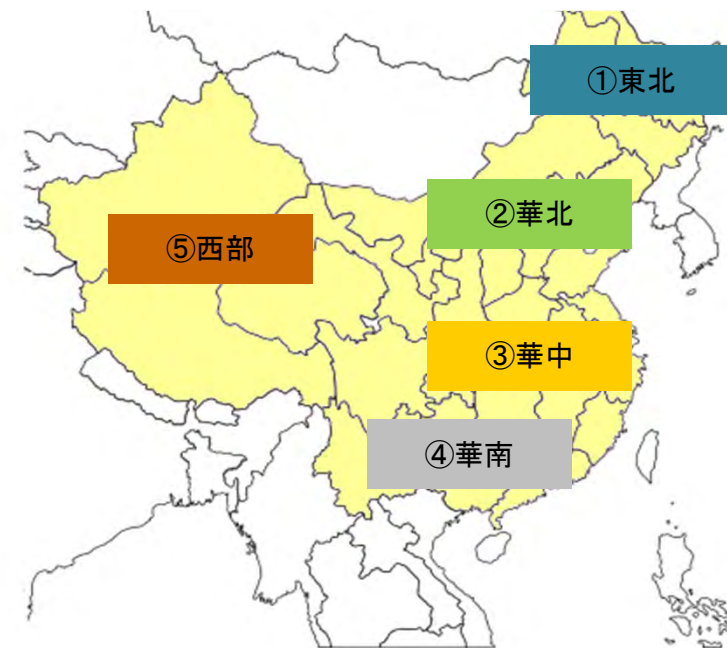


注：農村振興支出額については、2013年改革の際、諸手続きの遅れにより2014年分の一部が翌年（2015年）に持ち越し、計上された。

## 中国の農業概況

- 国土面積 9 億 5, 6 2 9 万 ha（日本の約 2 5 倍）に対し、農用地は 5 億 2, 7 7 1 万 ha（日本の約 1 2 0 倍）で、耕地面積は 1 億 1, 8 8 8 万 ha（日本の約 2 9 倍）。
- 農業経営体数は約 1 億 9 千万戸。1 経営体当たりの平均経営面積は約 0. 7 ha で、日本（3. 1 ha）の 3 分の 1 以下と小規模。
- 農業生産額は、約 1 兆 6 百億ドル。
- 中国では、改革開放政策を進める中、1 9 8 0 年代以降に急速な経済成長を遂げる一方、都市と農村との所得格差等の矛盾が露呈。優良な耕地は沿岸部に多く、当該地域の急激な開発に伴う耕地面積の減少は農業の将来にとって懸念材料となっている。

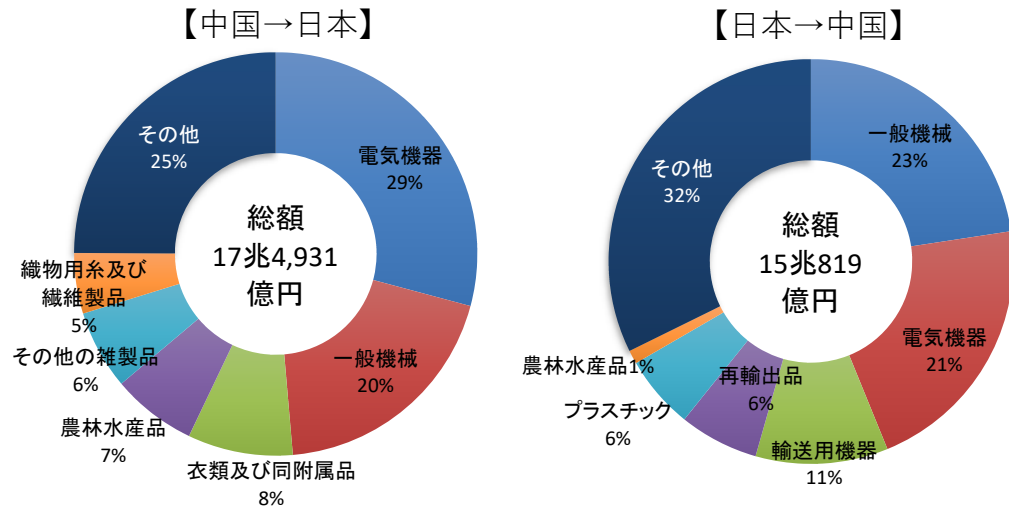
|                                      |                   |
|--------------------------------------|-------------------|
| ①東北（寒冷、少雨）<br>黒竜江省、吉林省等              | ： トウモロコシ、大豆、コメ    |
| ②華北（寒冷、少雨）<br>北京市、河南省等               | ： トウモロコシ、小麦、野菜    |
| ③華中（温暖、湿潤）<br>上海市、江蘇省等               | ： コメ、小麦、野菜        |
| ④華南（高温、湿潤）<br>福建省、広東省等               | ： コメ、野菜、果樹、茶      |
| ⑤西部（高標高、山間地域等）<br>四川省、雲南省、新疆ウイグル自治区等 | ： トウモロコシ、野菜、コメ、綿花 |



- コメ（2. 1 億トン）、とうもろこし（2. 6 億トン）、小麦（1. 3 億トン）は世界有数の生産国だが、生産の殆どを国内で消費しており、輸出余力は高くない。大豆は、近年の急激な需要増加を背景に輸入が大幅に増加している（全世界の流通量の 6 5 % を輸入）。改革開放後も食糧の増産政策を続けてきたが、1 9 9 6 年以降は豊作と不作を繰り返すなど食糧の過剰と不足に揺れ動いた。本格的な農業政策の強化を始めた 2 0 0 4 年以降食糧増産傾向が続き、2 0 2 1 年現在、7 年連続で年間 6. 5 億トン以上の食糧生産量を維持し続けている。

# 我が国と中国との農林水産品貿易

## 日中間の貿易状況(2020)



出典：財務省貿易統計

## 中国の対世界輸出状況(2020)

| 品目    | 輸出額<br>(百万ドル) | シェア<br>(%) |
|-------|---------------|------------|
| 調製食料品 | 5,224         | 9.6        |
| 粗製生産品 | 5,069         | 9.3        |
| ニンニク  | 2,064         | 3.8        |
| 茶     | 2,038         | 3.7        |
| 野菜調製品 | 1,889         | 3.5        |
| 農産品合計 | 54,547        | 100.0      |

## 中国の主な農産品生産(2020)

(単位：万トン)

| 品目     | 中国     | (参考)<br>日本 |
|--------|--------|------------|
| とうもろこし | 26,067 | 0.02       |
| 米(粳)   | 21,186 | 971        |
| 生鮮野菜   | 16,939 | 274        |
| 米(精米)  | 14,131 | 647        |
| 小麦     | 13,425 | 95         |

出典：FAOSTAT

## 日中間の主な農林水産品の輸出入状況(2020)

### 【中国→日本】

|   | 品 目               | 輸入額 (億円) | 輸入量     |
|---|-------------------|----------|---------|
| 1 | 冷凍野菜（調製した野菜（無糖）等） | 890      | 47.3万トン |
| 2 | 鶏肉調製品             | 739      | 15.9万トン |
| 3 | 大豆油粕（調製飼料用）       | 349      | 82万トン   |
| 4 | 生鮮野菜              | 298      | 45万トン   |
| 5 | うなぎ（調整品）          | 296      | 1.7万トン  |
|   | 合計                | 11,907   |         |

### 【日本→中国】

|   | 品 目                    | 輸出額 (億円) |
|---|------------------------|----------|
| 1 | アルコール飲料                | 173      |
| 2 | はたて貝（活・生鮮・冷蔵・冷凍・塩蔵・乾燥） | 146      |
| 3 | 丸太                     | 130      |
| 4 | 清涼飲料水                  | 98       |
| 5 | 植木等                    | 66       |
|   | 合計                     | 1,645    |

出典：財務省貿易統計

# 中国の農業政策の概要

## (1) 総論

- 農業における課題は「三農問題」（農業・農村・農民）と総称され、農業の振興、農村の整備、農民収入の向上を目的に財政投入や農業政策を実施。
- 約14億の人口を抱えている中国では、農業の現代化や都市と農村の所得格差（1人当たりの可処分所得：農村部では都市部の約40％）是正が課題。

## (2) 農業予算

- 2020年度の農林水産関係予算は国家予算の9.7％。
- 主に以下の農業政策を実施。
  - ・農業生産における機械化の導入促進。
  - ・厳格な耕地保護制度堅持し、耕地面積18億ムー（約1.2億ha）の「レッドライン」を維持。
  - ・農家への直接補助金制度  
（①食糧直接補助金、②優良品種補助金、③農業生産資材総合補助金、④農業機械購入補助金）  
や価格支持制度（政府が介入して商品の価格を一定水準に維持する制度）の実施。
  - ・観光農園及びグリーンツーリズムの拡大。
  - ・農地流動化の促進（「経営権（農地を利用し、収益を得る権利）」を設定し、取引可能とする）。
  - ・大規模化、高度化された農業経営を育成。
  - ・農業保険制度の充実（農業保険のカバー範囲の拡大、リスク補償水準の引き上げ）。

国家予算及び農林水産業関係予算

（単位：億元）

|           | 2018年度  | 2019年度  | 2020年度  |
|-----------|---------|---------|---------|
| 国家予算      | 220,904 | 238,858 | 245,679 |
| 農林水産業関連予算 | 21,086  | 22,863  | 23,948  |

出典：中国財政部

## (3) 貿易政策

- 近年諸外国・地域とのFTA締結に向けた取組を積極化。  
アイスランド、インド、豪、韓国、スイス、RCEP等26の国・地域とFTAが発効。  
現在、ノルウェー、日中韓、韓国（第2段階）等10か国・地域とのFTAを交渉中。

## 【利用上の注意】

食料安全保障月報は、国際穀物需給に関し、在外公館からの情報、農林水産省が独自に各国の現地コンサルタント等を通じて入手した情報、公的機関（各国政府機関、FAO、IGC 等）の公表資料、Oil World 等民間の調査会社から購入した資料、その他、商社情報や新聞情報等から入手した情報を農林水産省の担当者において検証、整理、分析したものです。

### ○ 本月報に記載のない情報は以下を参照願います。

#### （１） 農林水産省の情報

ア 我が国の食料需給表や食品価格、国内生産等に関する情報

- ・食料需給表：<http://www.maff.go.jp/j/zyukyu/fbs/>
- ・食品の価格動向：<http://www.maff.go.jp/j/zyukyu/anpo/kouri/index.html>
- ・米に関するマンスリーレポート：<http://www.maff.go.jp/j/seisan/keikaku/soukatu/mr.html>

イ 中・長期見通しに関する情報

- ・食料需給見通し（農林水産政策研究所）：<http://www.maff.go.jp/primaff/seika/jyukyu.html>

#### （２） 農林水産関係機関の情報（ALIC の情報サイト）：<https://www.alic.go.jp/>

- ・砂糖、でんぷん：<https://www.alic.go.jp/sugar/index.html>
- ・野菜：<https://www.alic.go.jp/vegetable/index.html>
- ・畜産物：<https://www.alic.go.jp/livestock/index.html>

#### （３） その他海外の機関（英語及び各国語となります）

ア 国際機関

- ・国連食糧農業機関（FAO）：<https://www.fao.org/home/en>
- ・国際穀物理事会（IGC）：<https://www.igc.int/en/default.aspx>
- ・経済協力開発機構（OECD）（農業分野）：<https://www.oecd.org/agriculture/>
- ・農業市場情報システム（AMIS）：<http://www.amis-outlook.org/>

イ 各国の農業関係機関（代表的なものです）

- ・米国農務省（USDA）：<https://www.usda.gov/>
- ・ブラジル食料供給公社（CONAB）：<https://www.conab.gov.br/>
- ・カナダ農務農産食品省（AAFC）：<https://agriculture.canada.ca/en/sector/crops/reports-statistics>
- ・豪州農業資源経済科学局（ABARES）：<http://www.agriculture.gov.au/abares>

### ○ 食料安全保障月報で使用している統計数値は、主に米国農務省が 2022 年 4 月中旬までに発表した情報を引用しています。

さらに詳細なデータ等が必要な場合は、米国農務省のホームページを参照願います。

[http://www.usda.gov/wps/portal/usda/usdahome?navid=AGENCY\\_REPORTS](http://www.usda.gov/wps/portal/usda/usdahome?navid=AGENCY_REPORTS)

## 主な参考資料

「World Agricultural Supply and Demand Estimates」

<http://www.usda.gov/oce/commodity/wasde/>

「Grain : World Markets and Trade」

<https://www.fas.usda.gov/data/grain-world-markets-and-trade>

「Oilseeds : World Markets and Trade」

<https://www.fas.usda.gov/data/oilseeds-world-markets-and-trade>

「World Agricultural Production」

<https://www.fas.usda.gov/data/world-agricultural-production>

「PS&D」

<https://apps.fas.usda.gov/psdonline/app/index.html#/app/advQuery>

など

- **データは予測値であり、毎月各種データの更新を受けて改訂されます**ので留意してください。
- 資料原典で表示されるブッシェル及びエーカー等の単位は、それぞれトン及びヘクタールに換算して記載しています。
- 資料原典において現地通貨で表示される金額を円換算するにあたっては、日本銀行国際局・財務大臣公示の基準外国為替相場及び裁定外国為替相場等の換算レートを用いています。
- 市場年度は、おおむね各国で作物が収穫される時期を期首として各国ごとに設定されているため、国、作物によって年度の開始月は異なります。  
なお、各国別、作物別の市場年度は、米国農務省によります。  
<https://apps.fas.usda.gov/psdonline/app/index.html#/app/downloads>  
(注：同サイトの「Reference Data」を参照)
- 期末在庫率の対前年度増減率の欄は、前年度とのポイント差になります。なお、表示単位以下の数値により計算しているため、表上では合わない場合があります。
- 本資料の引用等につきましては、出所（農林水産省発行「食料安全保障月報」）を併記願います。

なお、生産見通し等の予測は、各国国際機関及び各国の農業機関によりそれぞれの分析手法に基づき行われるため、機関によってデータの相違がある場合があります。また、各国の農業機関の公表を受けて、国際機関の見通しが改訂される場合があります。

英国については、2020 年 1 月 31 日付けで EU を離脱しました。英国の小麦に関する情報については小麦の EU27+英国のコーナーで取り扱います。

- 本月報の電子版は下記アドレスでご覧になれます。

農林水産省 食料安全保障月報

[http://www.maff.go.jp/j/zyukyu/jki/j\\_rep/index.html](http://www.maff.go.jp/j/zyukyu/jki/j_rep/index.html)

- 本資料に関するご質問、ご意見等は、下記までお願いします。

|            |                                                              |
|------------|--------------------------------------------------------------|
| <b>連絡先</b> | <b>農林水産省大臣官房政策課食料安全保障室</b><br><b>TEL : 03-6744-2368 (直通)</b> |
|------------|--------------------------------------------------------------|